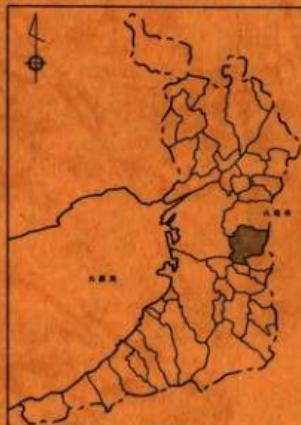


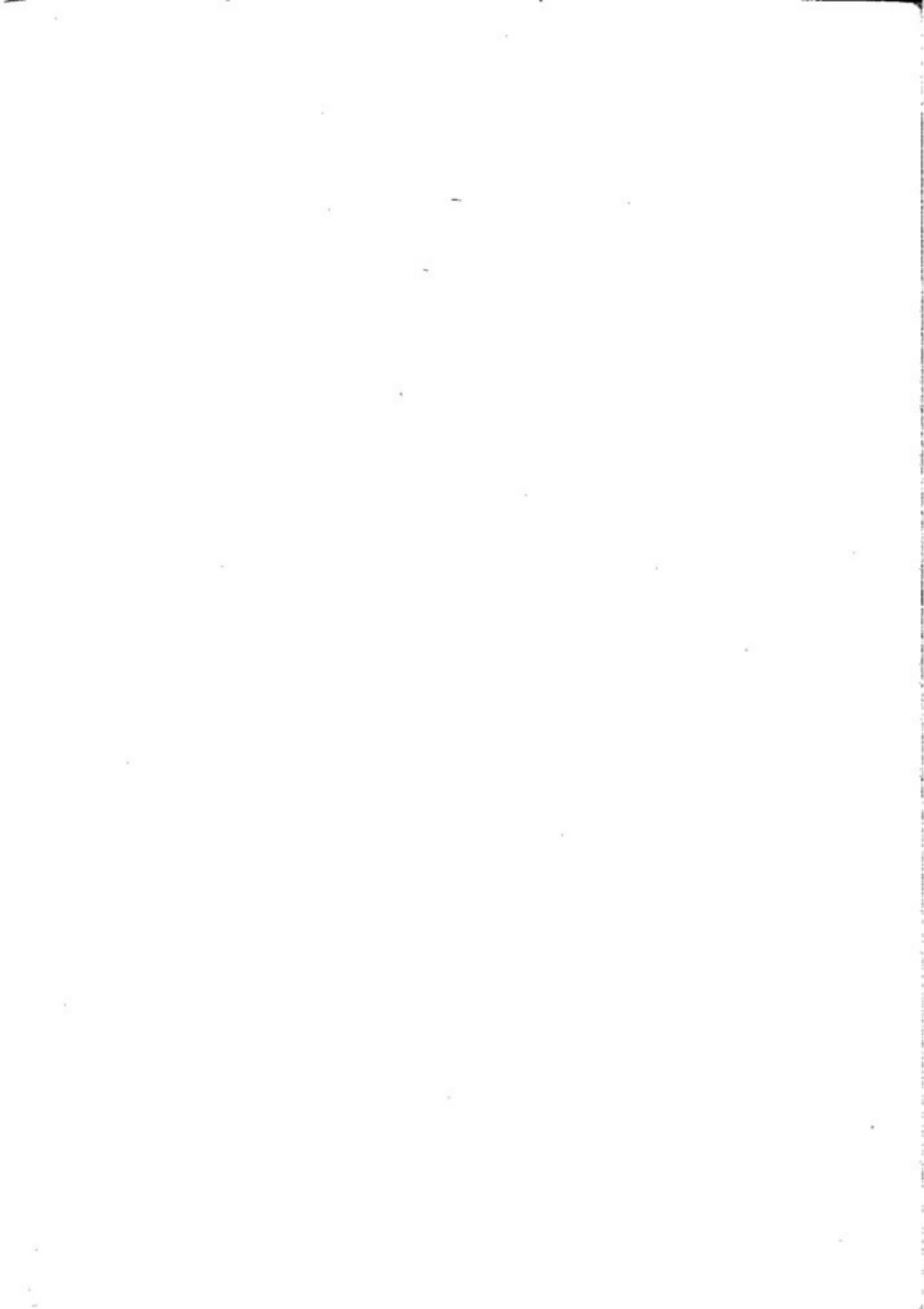
# 八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

- I 水越遺跡(第1次調査)  
II 竹渕遺跡(第1次調査)  
III 恩智遺跡(第1次調査)



1989年

(財)八尾市文化財調査研究会



## 正誤表

頁	誤	正
水越遺跡		
例言-7行目	450m	491m
P4-10~12行目	褐灰茶色シルト粘土(5~10cm) 茶褐色砂色混粘土(20~30cm) 淡灰茶色粘質シルト(20~40cm)	褐灰茶色シルト粘土(5~10cm) 茶褐色砂色混粘土(20~30cm) 淡灰茶色粘質シルト(20~40cm)
P5・6-第4図	SD1	SD2
P5・6-第4図	SD2	SD1
P11-5行目	「第3節 検出遺構・出土遺物」	「第2節 検出遺構・出土遺物」
竹沢遺跡		
P19-26行目	小穴5個(SP1~SP5)	小穴5個(SP11~SP15)
P22-10行目	1cm程度厚さ	1cm程度の厚さ
P25-13行目	II形式	II型式
恩智遺跡		
P58-13行目	「第4節 出土遺物観察表」	「第3節 出土遺物観察表」
P59-7行目	(第4図)。	(第5図)。
P59-10行目	(第5図)。	(第6~8図)。
P64図面		第10図 SD1出土遺物実測図2
P64-8行目	(第8~10図)。	(第8~12図)。
P67-8行目	以下のようになる。	以下のようになる(第13~29図)。
P86-1行目	第4節 出土遺物観察表	第3節 出土遺物観察表

# 八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

I 水越遺跡(第1次調査)

II 竹渕遺跡(第1次調査)

III 恩智遺跡(第1次調査)



1989年

(財)八尾市文化財調査研究会

## はしがき

八尾市は、河内平野の中央部からやや南寄りに位置し、東に牛駒山山地の景観をみる温暖で肥沃な土壤を有する地域であり、早くから人々が生活の場として住みはじめたところです。それらの先人が残した大切な遺構・遺物が多く存在しております。

今回の報告は、昭和57年度に実施しました水越遺跡（第1次調査）・竹沢遺跡（第1次調査）、昭和60年度に実施しました恩智遺跡（第1次調査）の調査が完了し、その成果は本市の政治、文化の歴史を研究する上で重要な資料になるものと確信して報告書をまとめました。この報告書が、学問の発展と文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

ここに改めて、事業者をはじめとし関係各位の文化財保護の立場から充分ご理解賜わり、ご協力いただきましたことを、ここに深甚なる感謝を申し上げます。

今後、この書が広く文化財保護にご活用いただければ、この上もない幸せに存じます。

今後共、当調査研究会に対して尚一層のご指導とご協力を付してお願い申し上げます。

平成元年9月

財團法人八尾市文化財調査研究会

理事長 福島 孝

# 序

- 1、本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が昭和57年度・昭和60年度に実施した発掘調査成果の報告を集録したもので、内業整理及び本書作成業務は各現地調査終了後に着手し、平成元年度をもって終了した。
- 1、本書に集録した報告は、下記の目次のとおりである。
- 1、本書の構成・編集は高萩千秋が行い、文責等は各例言に明示した。
- 1、本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1（昭和57年11月1日発行）・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（昭和63年4月1日改訂）をもとに作成した。
- 1、本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面である。
- 1、本書で用いた方位は、磁北を示している。
- 1、遺構は下記の略号で表わした。

堅穴式住居	— S I	溝	— S D	井戸	— S E	土坑	— S K
小穴	— S P	自然河川	— 河川				
- 1、実測図の縮尺は、遺構が20分の1・40分の1・50分の1・100分の1を基調とし、遺物は大きいものは6分の1、小さいものは2分の1、他は4分の1に統一した。
- 1、遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。  
弥生式土器・土師器・瓦器・瓦・埴輪・石類—白、須恵器—黒、木製品—斜線。
- 1、各調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

# 目 次

## 八尾市埋蔵文化財分布図

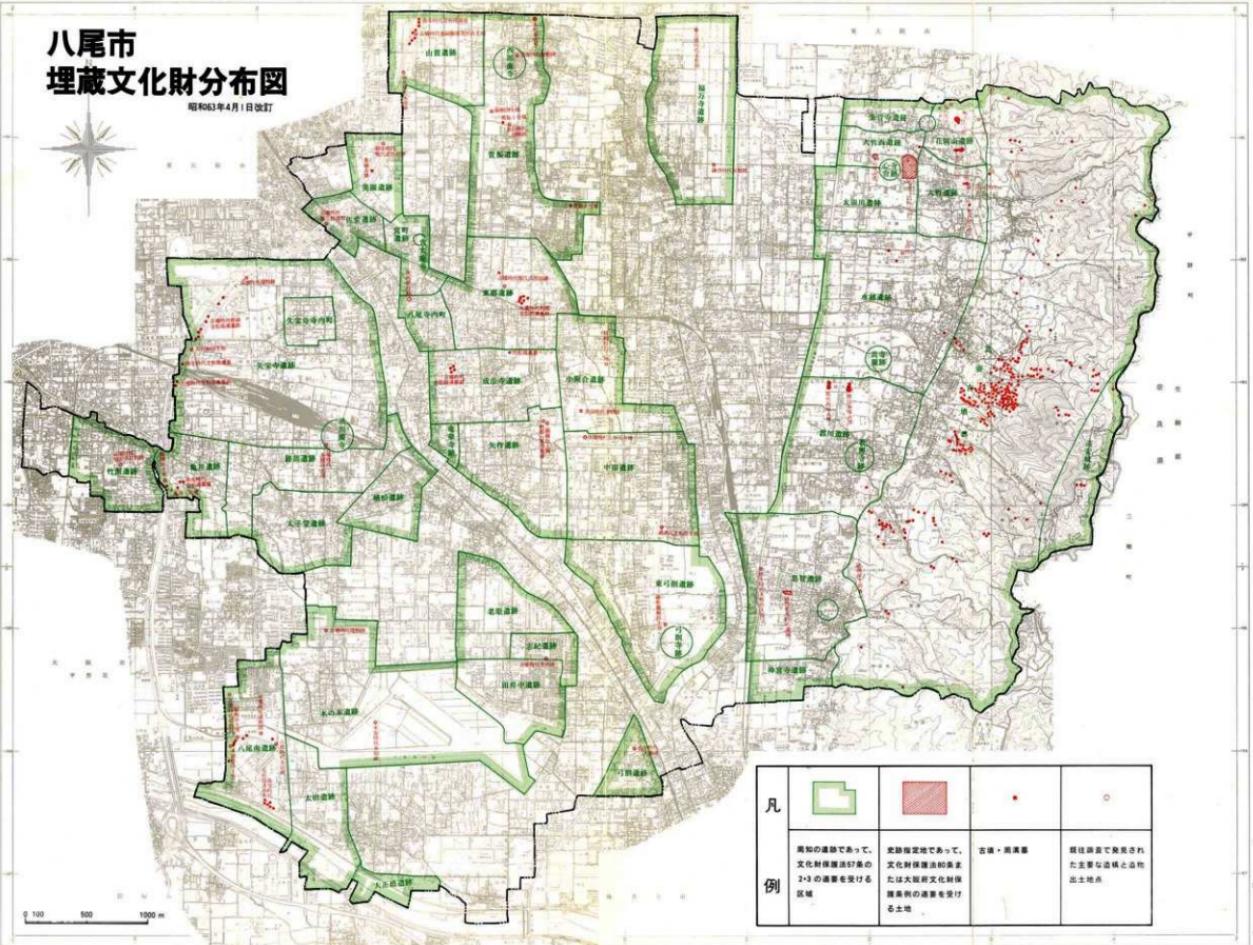
## はしがき

## 序

I 水越遺跡（第1次調査）	1
II 竹瀬遺跡（第1次調査）	13
III 恩智遺跡（第1次調査）	53

# 八尾市 埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂



I 水越遺跡（第1次調査）

## 例　　言

- 1、本書は、八尾市水越 181番地内で実施した市立高安中学校の校舎増築の建設に伴う発掘調査の報告である。
- 1、本書に報告する水越遺跡（第1次調査）の発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市施設課から委託を受けて実施したものである。
- 1、現地調査は昭和57年7月16日～8月24日にかけて、高萩千秋を担当として実施した。調査面積は 450m<sup>2</sup>を測る。なお、調査においては北尾耕三・山西嘉彦・西辻正信・徳谷貞正・中野健太郎が参加した。
- 1、内業整理は、現地調査終了後実施し平成元年に完了した。
- 1、本書に関わる業務は、遺物実測—中野・徳谷・池田まゆみ、図面レイアウト—乾（旧姓木曾）直美・村田英子、図面トレース—岩本多賀子、遺物写真撮影—高萩が行った。
- 1、本書の執筆は主に高萩が担当したが、「第4章 出土遺物観察表」については村田が担当した。また、胎土分析には八尾市立刑部小学校教諭 奥田尚氏の御協力をいただいた。
- 1、全体の編集は高萩が行った。

## 本　文　目　次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査に至る経過と目的.....	1
第2節 遺跡の地理・歴史的環境.....	2
第3節 調査の方法.....	3
第2章 調査の結果 .....	4
第1節 基本層序.....	4
第2節 検出遺構・出土遺物.....	4
1) 砥牛時代前期.....	7
2) 占墳時代前期.....	8
3) 近世.....	9
4) 遺構に伴わない出土遺物.....	9
第3節 出土遺物観察表.....	9
第4章 まとめ .....	11

## 挿図目次

第1図 調査地位置図.....	1
第2図 調査区配置図及び区割図.....	3
第3図 基本層序柱状図 (S=1/40) .....	4
第4図 遺構平面図.....	5・6
第5図 S D 2 出土遺物実測図.....	7
第6図 S K 1 平断面図.....	8
第7図 S K 1 出土遺物実測図.....	8
第8図 遺構に伴わない出土遺物実測図.....	9

## 図版目次

図版 一	1 調査区全景 (西から)
	2 S D 1 (東から)
図版 二	1 S D 2 (東から)
	2 S K 1 (南から)
図版 三	出土遺物 S D 2
図版 四	出土遺物 S D 2 7 S K 1 8・9・12・13

## 表目次

第1表 S K 1 の土器胎上分析観察表 .....	11
----------------------------	----

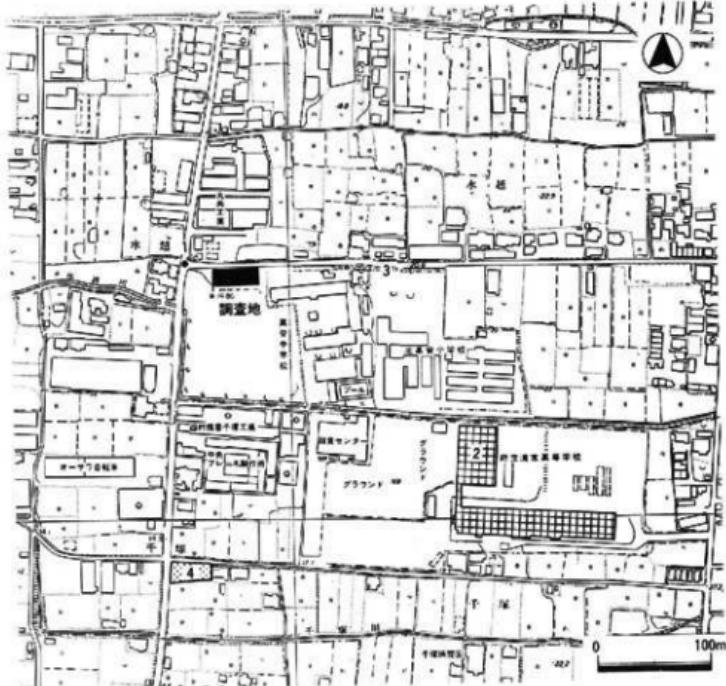
# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経過

水越遺跡は、大阪府八尾市の北東部の水越・千塚一帯に所在し、生駒山地の西麓に形成された扇状地の先端部（標高15～20m）に位置する縄文時代から中世に至る複合遺跡である。

当調査地は、南北に通る旧東高野街道から東に入る式内社の玉祖神社への参道「松の馬場」の接点である鳥居の南部にあたり、八尾市水越181番地内に所在する市立高安中学校内の校舎建設に伴う発掘調査で、当調査研究会が当遺跡内で実施した初めての調査（第1次調査）である（第1図）。

当遺跡の発見の契機は、大正9年に清原得巖氏がふとしたことで石器を採集したことがきっかけである。その後も昭和5年9月に当遺跡内で地元の子供によって採集されたという勾玉研



第1図 調査地位図

磨用の筋砥石。さらにその後、当遺跡の南部にあたる千塚地区を中心に各種の石器類をはじめ、滑石製小玉及び同質製管玉の木製品等が採集された。これらを清原氏が所蔵していることが確認された。また昭和9年2月に当遺跡西方を南北に通る東高野街道の改修工事が行われたが、この時、現在の市立高安中学校の西側の字一里外にあたる地点で掘削された際、その現地表下約0.6mを測る土層（黒褐色土）内から弥生時代後期に比定される土器（壺3個体分）が発見された(1)。本格的な調査は、昭和53年度に八尾市千塚内に於いて府立清友高等学校新築建設工事に伴う発掘調査が当遺跡内で初めて実施された(2)。その結果、弥生時代中期から鎌倉時代に至る遺構・遺物が検出され、当遺跡に遺構の存在が確認された。その後、新たな発掘調査も実施されなかったが、昭和57年3月、八尾市教育委員会が八尾市千塚349-1他に所在する八尾市消防署北東部主張所新築工事に伴う発掘調査を実施し、弥生時代前期から古墳時代前期の遺物が出土された(4)。

当調査地は、昭和57年度八尾市施設課の計画事業として市立高安中学校校舎増設の計画が成された。八尾市教育委員会は予定地が水越遺跡推定範囲内であり、また東高野街道の改修工事で弥生時代後期の遺物包含層が確認された地点に隣接していることから事前発掘調査が必要であると判断した。八尾市教育委員会は財団法人八尾市文化財調査研究会に発掘調査の指示書を送付した。当調査研究会はこの旨を受け、八尾市施設課と八尾市教育委員会と当調査研究会の三者間で協議を行った。その結果、発掘調査による記録保存を実施することになった。現地調査は昭和57年7月16日～8月24日までの期間である。調査面積は約491m<sup>2</sup>を測る。

出土遺物等の整理作業及び報文作成業務は、当調査研究会分室にて実施した。

## 第2節 遺跡の地理と歴史的環境

当遺跡の地形は、生駒山西麓から西に広がる標高15～20mを測る扇状地の末端部にあたり、北を上代川、南を千塚川の両谷川に挟まれ、小高い丘状の丘陵地が東西に幾筋か見られる。西側には旧大和川の沖積作用によって形成された低平地（狭義でいう河内平野）が広がっている。

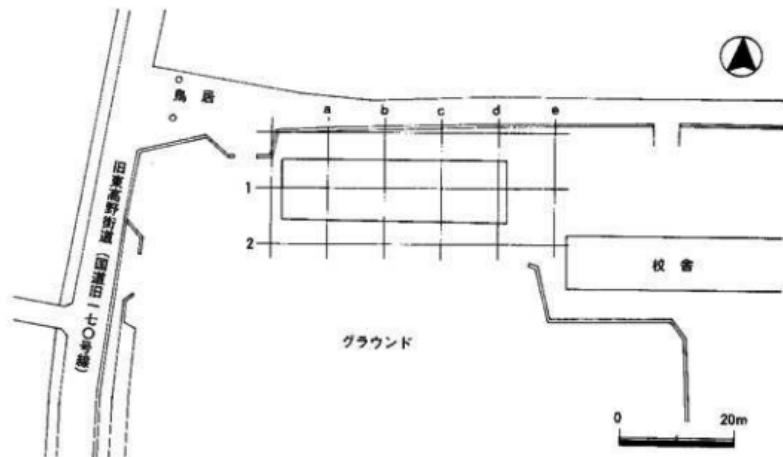
当遺跡と同一扇状地には、南に恩智遺跡・太田川遺跡・郡川遺跡、北に大竹遺跡・楽音寺遺跡・花崗山遺跡・六万寺遺跡等の縄文時代（一部で旧石器を出土しているが不明）から始まる遺跡が連接している。また、古墳時代に築造された墳墓が現在でも多数残存し、その景観が今尚見られる。例えば、前期は西の山古墳・向山古墳・花崗山古墳、中期には心合寺山古墳・鏡塚古墳・中谷山古墳、後期では郡川西塚古墳・郡川東塚古墳、さらに終末期に入ると群集墳で知られる高安古墳群・大県古墳群・平尾山古墳群などが存在する。

歴史時代には、当遺跡が河内国高安郡に属し、周辺では寺院・式内社の神社等が多数建てられている。寺院をあげると、心合寺跡・高麗寺跡。式内社の神社には当遺跡東部の山腹に玉作神社が鎮座している。

### 第3節 調査の方法

調査地は、東高野街道から東へ入り鳥居を潜って式内社玉祖神社へ行く参道である「松の馬場」の接点の南部に位置する市立高安中学校内の校庭と自転車置場に増築するものである。調査は計画予定地で掘削される部分に40×11mの調査区を設定した。掘削については八尾市教育委員会が試掘調査を行っていない為、機械掘削を実施する時点で土層の状況を掴むために調査区の北東部に試掘トレンチ（1×3m）を実施した。その結果、現地表下約0.8mに存在する土層の上面で削平された崩壊地の地肌面を検出した。このため、機械掘削はこの地肌面のやや上まで行い、これより以下の土層については手掘りによる掘削・精査を実施した。

調査区の区割は、調査区の西部の中央に任意の点を設定し、この点から磁北に向けて南北線を設けた。そして調査区の東西70m、南北20mの範囲に10m方角で区画した。東西線は北から数字（1～3）、南北線は西からアルファベット（a～d）を付称し、北西部から1a～3d区と付した（第2図）。



第2図 調査区配置図及び区割図

## 第2章 調査の結果

### 第1節 基本層序

当調査区で、現地表面から約1.7mまでの間に存在する土層内から普遍的にみられる7層を抽出して基本層序とした。現地表面は標高15mを測る(第3図)。

第1層：盛土(60~80cm) 当中学校の建設際に整地された土層である。

第2層：暗茶灰色砂混粘土(10~20cm) この土層は後世によって削平されており、東側にはなく、西側に薄く堆積する。標高は15.6mを測る。

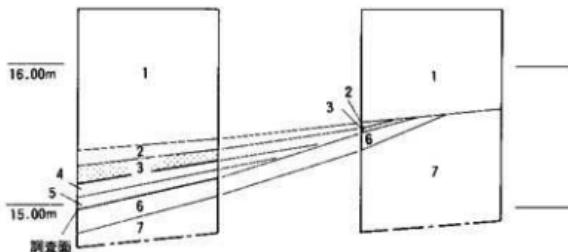
第3層：褐灰色シルト粘土(5~20cm) この土層は古墳時代前期の遺物包含層と考えられる。東部は後世によって削平されている。

第4層：褐灰茶色シルト粘土(5~10cm) 調査区は扇状地の先端部に位置し、西側に傾斜

第5層：茶褐色砂混粘土(20~30cm) している。この土層は調査地の中央部からの堆

第6層：淡灰茶色粘質シルト(20~40cm) 積で、西へ行くに従い深く堆積している。

第7層：灰色疊砂混シルト粘土(30cm以上) 疣は径3~15cmを測り、拳ぐらの小石が最も多く混入している。この土層は生駒山西麓の扇状地の地肌面であると考えられる。

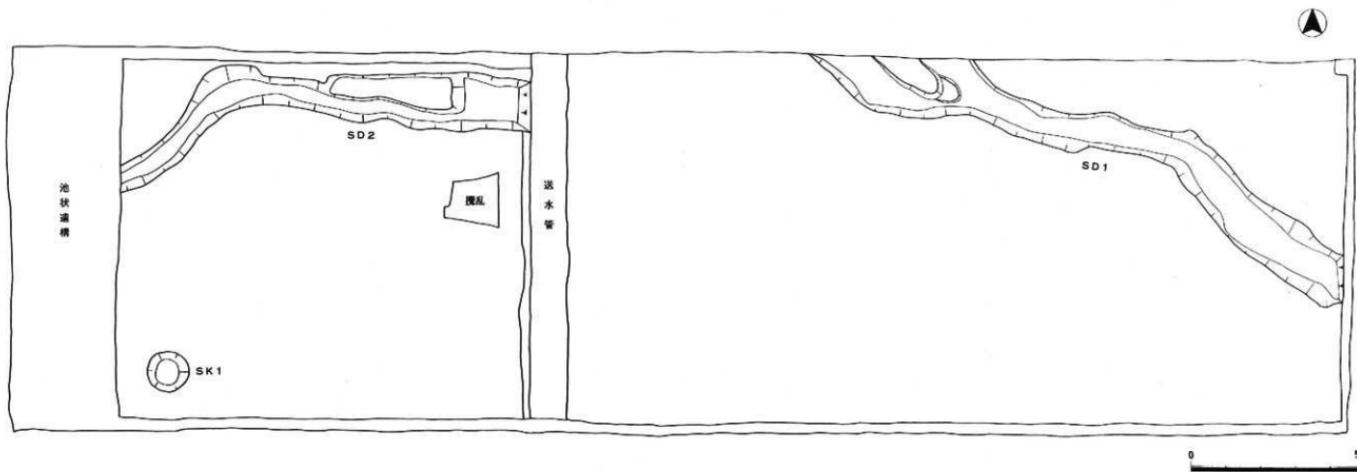


第3図 基本層序柱状図(S-1/40)

### 第2節 検出遺構・出土遺物

第4層上面を調査対象面とした。しかし、調査区東側では削平されており、第5層~第7層上面で検出している。調査の結果、古墳時代前期に比定される土坑1基と、これより約20cm下の第5層上面と約40cm下の第6層上面で弥生時代前期の遺物を含む溝2条を検出した。また、調査区東部では第2層上面から切込まれている近世以降の池状遺構を検出した(第4図)。

以下、これらの検出した各遺構について概説する。なお、詳細な出土遺物については「第3節 出土遺物観察表」を参照されたい。



第4回 造橋平面図

## 1) 弥生時代前期

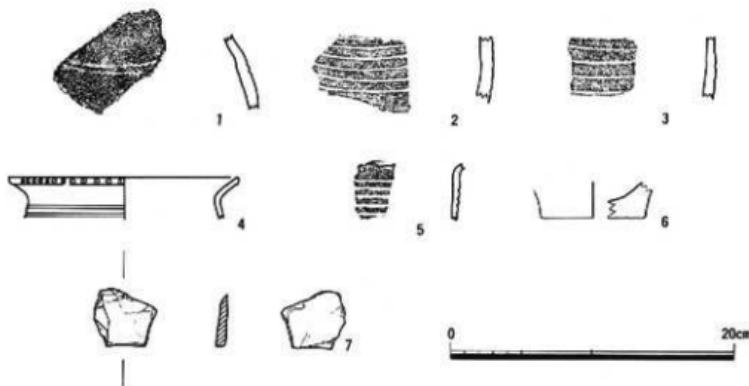
## 溝（SD）

## SD 1

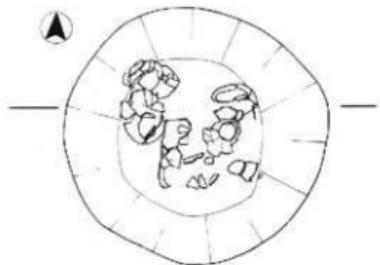
調査区の北西部で検出した溝で、西への流れと北への流れの2つに分流している。西への流れがある東側では途中で屈曲して南西方向へ流れ、近世以降の池状遺構に削平されている。規模は検出部で、西への流れがあるものが幅0.8~1.6m、深さ30cm、北への流れがあるものが幅1.6m、深さ30cmを測る。断面は浅い半円形を呈し、内部には淡灰褐色細砂混粘土が堆積している。遺物は出土していないが、SD 2より下層で検出していることから、これより以前の時期にできた自然小河川であろう。

## SD 2

調査区北東部で検出した溝で、緩やかなカーブを描きながら南東から北西への流れがみられる。北西部では北壁付近で2つに分流し、調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.8~1.2m、深さ20~40cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には褐灰色細砂・灰色粗砂・褐灰色砂粘土・黄灰褐色微砂・茶灰色砂混粘土・黄灰褐色細砂が堆積している。北西（下流）部では拳大ぐらいの礫が多く含まれている。遺物は、堆積土内の上層から弥生時代前期（畿内第Ⅰ様式新段階）に比定される壺（1~3）・壺（4~6）の小片がごく少量出土している。その他にはサスカイトの剝片（7）が1点出土した（第5図）。



第5図 SD2出土遺物実測図



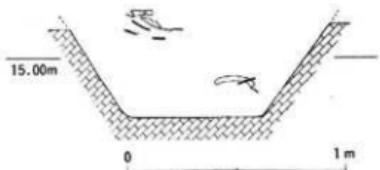
## 2) 古墳時代前期

### 土坑 (SK)

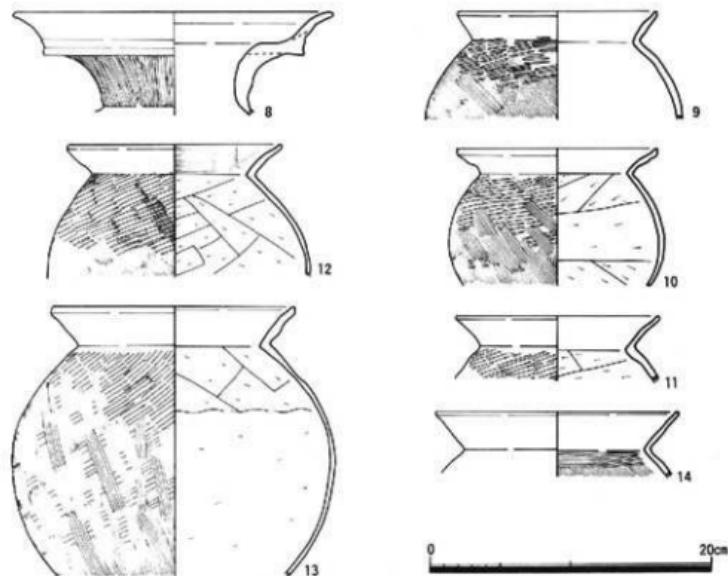
#### SK1

調査区の南西部 (2a区) で検出した。

平面はほぼ円形を呈し、径1.2 m、深さ40 cmを測るが、上面は後世によって削平されている。断面は逆台形を呈し、内部には、上方から暗灰褐色砂混粘土・暗灰青色粘土の2層が堆積している (第6図)。遺物は、土器の片断でほとんどが上層に集積していた。時期は古墳時代前期 (庄内式新相) に比定されるもので、出土量はコンテナ箱にして1箱分を数える。器種には二重口縁壺 (8)・庄内式壺 (8~14) がある (第7図)。



第6図 SK1平盤面図



第7図 SK1出土遺物実測図

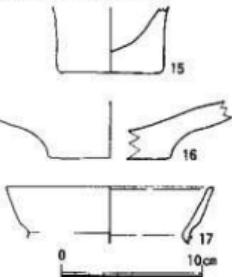
## 3) 近世

## 池状遺構

調査区の西部で検出した。西部及び南北部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西3m、南北11mを測る。底面は西部へ行くに従い深くなり、最深で約1mを測る。縁沿いには人頭大の石積みや杭列（径5-10cm）が一部分残っており、これらは堤として築かれたものと考えられる。内部には、基本層序の第2層～第4層の土層が互層に堆積している。これは斜面を平坦にする為に高い部分を削平した土層で埋立てたものと考えられる。遺物は、内部から弥生時代前期・古墳時代前期に比定される土器片が出土している。

## 4) 遺構に伴わない遺物

第2層～第5層内で遺物が包含していた。時期は弥生時代前期から古墳時代前期に至る土器の小片で、出土量はコンテナ箱にして約半箱分程度である。図示できたものは3点である。器種には弥生時代前期（畿内第I様式）に比定される底部片（15・16）と、古墳時代前期（布留式古相）に比定される甕（17）がある（第8図）。



第3節 出土遺物観察表  
SD1

第8図 遺物包含層出土遺物実測図

遺物番号 同版番号	器種	法量 (ml)	口径 深さ	形態・調査等の特徴	色	病	土	焼成	備考
1 三	甕 (弥生式土器)			体部のみの破片で、外面には2条の沈線がみられる。 外面ヨコナデ、内面は摩耗の為調査不可。	外 暗茶色 内 暗茶色		3mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む。	やや不 良	
2 三	同上			体部のみの破片で、外面には6条の沈線がみられる。 外面ヨコナデ、内面は摩耗の為調査不可。	淡茶灰褐色		石英・長石・ チャートを 少量含む。	良好	
3 三	同上	底、径、7.0		底部は突出する平底である。体部は欠損。 底部内外面ナナデ。	暗茶灰色		5mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
4 三	甕 (弥生式土器)	口 桿 16.2		上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、 外上方へ外反して伸びる口部部に至る。端部 は外に面をもつ。体部は欠損。頸部外側には 2条の沈線がみられる。 口縁部内面ヨコナデ、端部にヘラキザ。	外 暗茶褐 色 内 淡灰褐色		長石・チャ ート・母雪 等の砂粒を 少量含む。	良好	
5 三	同上			体部片のみ破片で、外面には5条の沈線が みられる。 内外面ヨコナデ。	暗茶色		角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
6 三	同上			体部のみの破片で、外面には4条の沈線が みられる。 内外面ヨコナデ。	外 暗茶色 内 暗茶色		角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む。	良好	

## SK 1

遺物番号 国際番号	器種	法量 (cc)	口径 厘米	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
8 四	盃 (土師器)	口 径	22.0	上縁部は上外方へ大きく外反して伸びた後、直角曲し、上外方へ外反して伸びる。底部は丸い。体部は欠損。 上縁部外面上位ヨコナデ、下位ハラミガキ内面ヨコナデ。	暗茶色	石英・角閃石等の細砂粒を少量含む。	良好	
9 四	壺 (土師器)	口 径	11.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反する。底部に半球部がある。縁部は上につまむ。体部の下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ、内面ナデ。	暗茶灰色	角閃石・長石・母岩等の細砂粒を少量含む。	良好	
10	同上	口 径	14.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反する。底部に半球部がある。縁部はつまみ上げる。体部の下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母岩等の細砂粒を少量含む。	良好	
11	同上	口 径	14.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。底部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 上縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母岩等の細砂粒を少量含む。	良好	
12 四	同上	口 径	13.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。底部は上につまみ上げる。体部の下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母岩等の細砂粒を少量含む。	良好	
13 四	盃 (土師器)	口 径	17.0	球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に半球部がある。縁部は上につまみ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母岩等の細砂粒を少量含む。	良好	焼付器。
14	同上	口 径	17.0	体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に半球部がある。底部は若干内方に肥厚する。体部は欠損。 上縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	角閃石・長石・母岩等の細砂粒を少量含む。	良好	

## 遺物に伴わない遺物

遺物番号 国際番号	器種	法量 (cc)	口径 厘米	形態・溝溝等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
15	盃 (弥生式土器)	底部径	7.0	突出する平底。口縁部・体部は欠損。内外面ナデ。	暗茶褐色	角閃石・長石・母岩等の細砂粒を少量含む。	良好	
16	同上	底部径	8.5	突出気味の平底。口縁部・体部は欠損。内外面ナデ。	暗茶褐色	角閃石・長石・母岩等の細砂粒を少量含む。	良好	
17	壺 (土師器)	口 径	14.4	上縁部は上外方へ内湾して伸びる。縁部は内方に肥厚し、内側に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶灰色	細砂粒を少量含む。	良好	

## 第4章 まとめ

今回の調査地は生駒山西麓の扇状地の先端部に位置し、古くは東高野街道の交通ルートと式内社玉根神社への参道で賑した所である鳥居のすぐ南側に位置する。

調査の結果、高安中学校建設工事の際の造成によって遺構面が削平を受けており、遺跡の詳細は不明である。しかし、一部で遺構が遺存していた。「第3節 検出遺構・検出遺物」で前述したように、弥生時代前期の自然河川2条と古墳時代前期の土坑1基である。弥生時代前期の自然河川は、一時的な氾濫によってできたものであると考えられる。しかし、自然河川の堆積土内から若干ではあるが、儀内第1様式の土器片が少量包含しており、上流（東部）には弥生時代前期の遺構が存在することが想定できる。また、古墳時代前期の土坑内から出土した土器は、胎土分析の結果からほとんどのものは生駒山西麓産の庄内式期新舟のものであったが、紀ノ川流域が製作地であると考えられる煮（8）1点が含まれており、当遺跡が他地域との交流があったことがうかがえよう。また、当該地の東側に近接する既往調査である清友高校の建設工事に伴う発掘調査では、弥生時代中期から江戸時代に至る遺構・遺物を検出しており、当調査区との有義的な相互関係が考えられる。

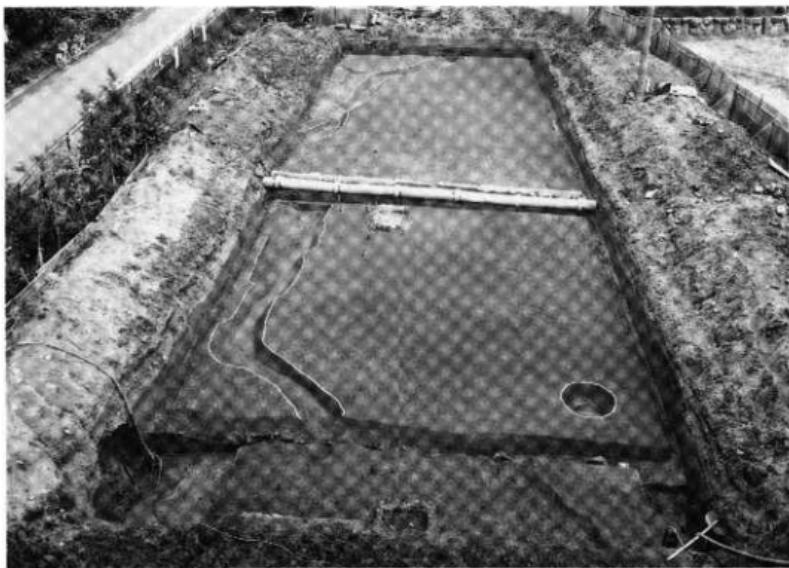
第1表 SK1の土器胎土分析観察表

岩石種 類型 試料番号	岩石破片												鉢物或片						実測回数等、測量		備考
	花崗岩 30倍 複眼鏡	閃長岩 30倍 複眼鏡	角閃岩 30倍 複眼鏡	流紋岩 30倍 複眼鏡	チャート 30倍 複眼鏡	泥岩 30倍 複眼鏡	砂岩 30倍 複眼鏡	雲母岩 30倍 複眼鏡	板岩 30倍 複眼鏡	チタニウム 30倍 複眼鏡	ガラス 30倍 複眼鏡	石英 30倍 複眼鏡	長石 30倍 複眼鏡	透輝石 30倍 複眼鏡	透閃石 30倍 複眼鏡	角閃石 30倍 複眼鏡	斜長石 30倍 複眼鏡				
I	6				L X				L X		S ▲					M X	M E		8	發	
II	2										S L X	S	L O			L O			9	庄内甌	
	3										L O	L O	L O	S △	S △	L O	L O		10	庄内甌	
	5										S M O	L △	S △	L O	L O	L O	L O		11	庄内甌	
III	1										M S D	M S D	S D	S E	S E	M O	M O		12	庄内甌	
	4										L X	S L X	S L X	M M O	M M O	S O	S O		13	V様式	
IV	7												L M X	L M X	M X	M X			14	口輪部 のみ	

参考文献

- 財団法人 大阪文化財センター「高安の遺跡と遺物」『大阪文化誌』季刊第2巻・第2号・通巻第6号 昭和53年3月
- 大阪府教育委員会「府立清友高等学校新築工事に伴う発掘調査の現地説明資料」昭和53年
- (財)八尾市文化財調査研究会「水越遺跡発掘調査概要報告」「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和56・57年度」(財)八尾市文化財調査研究会報告3 昭和63年
- 八尾市役所「考古編」「八尾市史(前近代)本文編」増補版 昭和63年

# 図 版



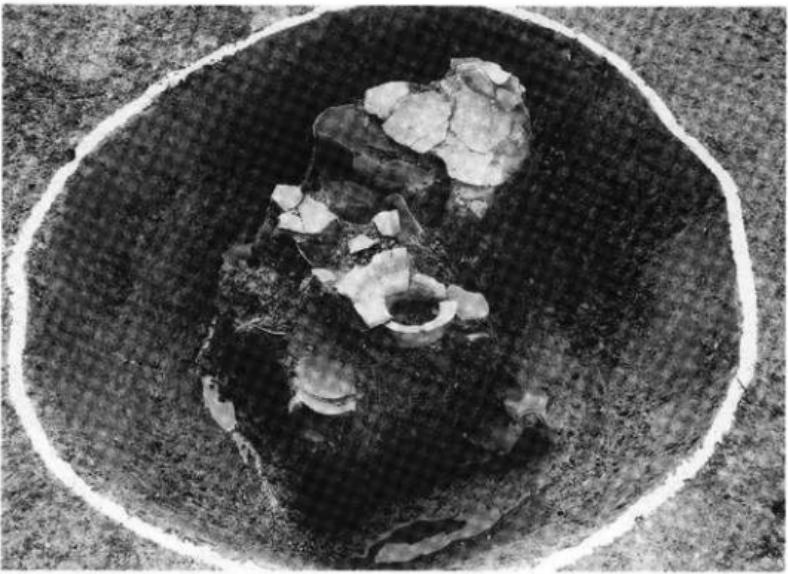
1. 調査区全景(西から)



2. SDI (東から)



1. SD2 (東から)



2. SK1 (南から)

図版三  
出土遺物



1



2



3



4

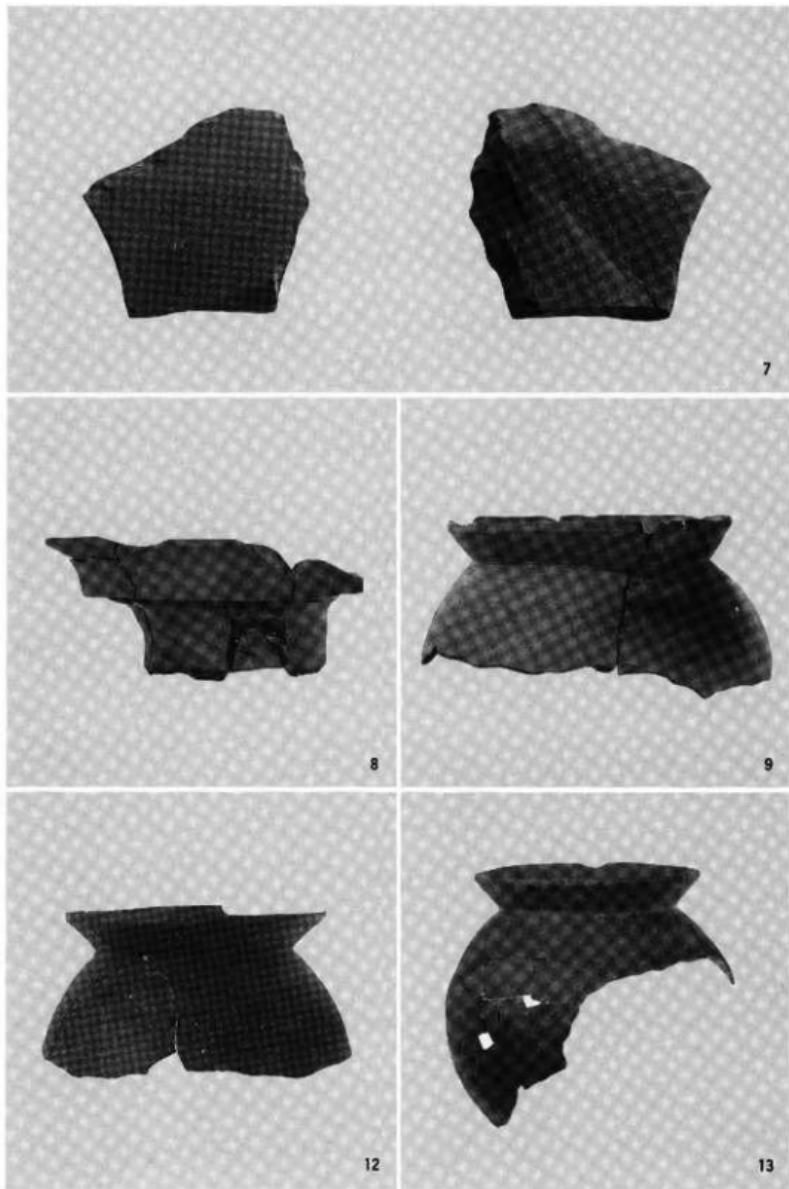


5



6

SD2



II 竹渕遺跡（第1次調査）

# 例　　言

- 1、本書は、八尾市竹渕115番地他で実施した校舎立替え建設工事に伴う発掘調査の報告である。
- 1、本書に報告する竹渕遺跡（第1次調査）の発掘調査業務は、財團法人八尾市文化財調査研究会が八尾市施設課から委託を受けて実施したものである。
- 1、現地調査は昭和57年10月25日から昭和57年11月20日にかけて、高萩千秋を担当として実施した。調査面積は832.3 m<sup>2</sup>を測る。なお、調査においては駒沢敦・中野慶太・上村義浩・中野健太郎・津田孝二が参加した。
- 1、内業整理は、現地調査終了後実施し平成元年3月25日に完了した。
- 1、本書に関わる業務は、遺物実測一池田まゆみ・乾（旧姓木曾）直美・野田雅彦、図面レイアウト一岩本多貴子・徳谷久美子、遺物写真撮影一高萩が行った。
- 1、本書の執筆は主に高萩が担当したが、第4節出土遺物観察表については村田英子が担当した。
- 1、全体の編集は高萩が行った。

## 本文目次

第1章 はじめに.....	13
第1節 調査に至る経過と目的.....	13
第2節 地理・歴史的環境.....	14
第2章 調査の概要 .....	16
第1節 調査の方法.....	16
第2節 基本順序.....	16
第3節 検出遺構・出土遺物.....	19
1) 古墳時代後期.....	20
2) 遺構に伴わない出土遺物.....	34
第3節 出土遺物観察表.....	36
第3章 まとめ .....	52

## 挿 図 目 次

第1図 調査地周辺図	13
第2図 調査区設定図及び区割図	16
第3図 遺構平面図	17・18
第4図 基本層序柱状図 (S = 1/40)	19
第5図 S I 1 平断面図	20
第6図 S I 1 出土遺物実測図	21
第7図 S K 1 平断面図	21
第8図 S K 1 出土遺物実測図	22
第9図 S K 5 平断面図	23
第10図 S K 5 出土遺物実測図	23
第11図 S K 7 平断面図	23
第12図 S K 7・S K 8 出土遺物実測図	24
第13図 S D 1 平断面図	27
第14図 S D 1 出土遺物実測図 1	28
第15図 S D 1 出土遺物実測図 2	29
第16図 S D 1 出土遺物実測図 3	30
第17図 S D 1 出土遺物実測図 4	31
第18図 S D 1 出土遺物実測図 5	32
第19図 S D 2 出土遺物実測図	33
第20図 遺構に伴わない出土遺物実測図	35

## 表 目 次

第1表 小穴 (S P) 一覧表	25
------------------	----

## 図版目次

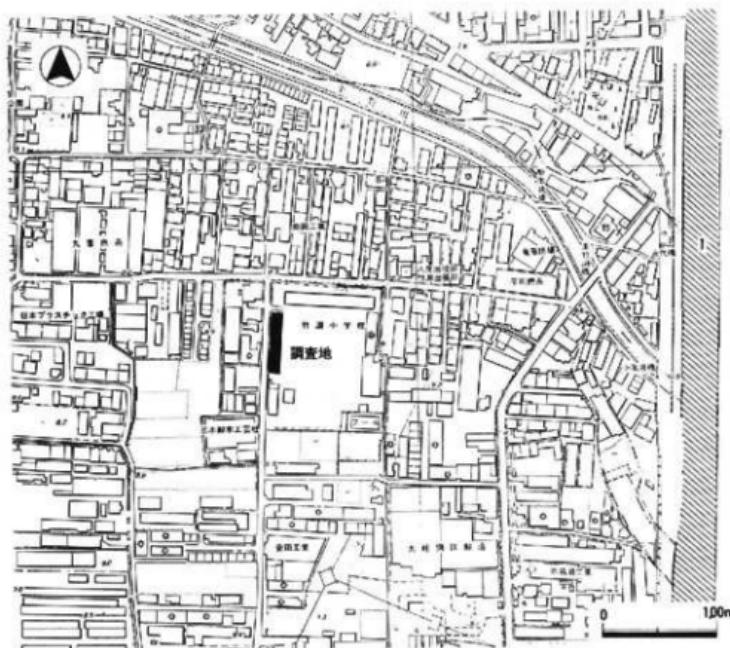
- 図版一 1. 調査区全景（南から）  
2. S I 1（南東から）
- 図版二 1. S K 1 遺物検出状況（東から）  
2. S K 1 完掘（東から）
- 図版三 1. S K 8 遺物検出状況（南東から）  
2. S D 1 遺物検出状況（南東から）
- 図版四 1. S D 1 南部遺物検出状況（南から）  
2. S D 1 中央よりやや南部遺物検出状況（東から）
- 図版五 1. S D 1 中央部遺物検出状況（東から）  
2. S D 1 中央部遺物検出状況（東から）
- 図版六 1. S D 1 完掘（南東から）  
2. S D 2 中央部遺物検出状況（東から）
- 図版七 1. S I 1 3・8  
2. S K 1 13-18
- 図版八 1. S K 1 19-25  
2. S K 8 30・33
- 図版九 S D 1
- 図版一〇 S D 1
- 図版一一 S D 1
- 図版一二 S D 1
- 図版一三 S D 1
- 図版一四 S D 1
- 図版一五 S D 2
- 図版一六 出土遺物 遺構に伴わない遺物

## 第1章 はじめに

### 第1節 調査に至る経過と目的

今回の調査地は、八尾市竹渕115に所在する市立竹渕小学校の敷地内に位置し、亀井遺跡推定範囲内の西端部に近接している。

昭和57年度、八尾市施設課が校舎・体育館の建て替え工事を行う事業計画が成される旨の計画書が八尾市教育委員会に提出された。これを受けた八尾市教育委員会は、当該地が亀井遺跡の推定範囲内の西端部に近接することや工事による掘削深度が深いこと等から、昭和57年6月5日、遺構・遺物の有無を確認する目的で試掘調査が実施された。その結果、体育館予定地内では遺構・遺物が検出されなかったため建設工事の認可を認めたが、校舎予定地内では現地表



第1図 調査地位位置図

下 1.8m 前後から古墳時代後期の須恵器・土師器等の土器片を含む遺物包含層と、その直下の土層上面から遺構が存在することが認められた。八尾市教育委員会はただちに遺跡発見届書を文化庁に送付した。遺跡名は行政区画した地名を付して竹渕遺跡と名称した。この旨を八尾市施設課に通知し、遺跡の現状保存が出来るよう要請したが建築の変更が不可能であるとの回答を得たため、校舎の建設予定地で遺構が破壊される部分を対象に、記録保存に必要な資料を作成する目的で発掘調査を実施することが二者間で可決された。

発掘調査にあたっては、八尾市施設課・八尾市教育委員会・(財)八尾市文化財調査研究会の三者間で協議を重ね、当調査研究会の協定書を締結し、当調査研究会が主体となって発掘調査を実施した。現地での発掘調査は、昭和57年10月1日から同年11月25日までの期間で終了した。調査面積は約 832.3m<sup>2</sup> である。

出土遺物の整理作業及び報文作成業務は、当調査研究会分室にて実施し、平成元年3月25日に刊行した。

## 第2節 遺跡の地理・歴史的環境

当遺跡は、現在の行政区画では大阪府八尾市の西端部に位置する竹渕一帯に所在する。当地区の西側では南北に通る大阪中央環状線で分断され、北・西・南の三方を行政区画した大阪市平野区に囲まれる孤立した陸の孤島になっている地区である。

当遺跡の地形は、旧大和川の主流である長瀬川と玉串川で形成された沖積地（狭儀でいう河内平野）の西側にあたり、当遺跡の北部には長瀬川から分流した平野川が東から西へ流下している。同一沖積地上には、弥生時代から近世に至る遺跡が多く存在している。東部に近接する龜井遺跡をはじめとし、南には長原遺跡・瓜破遺跡、北には加美遺跡・久宝寺遺跡等の遺跡が存在している。

さて、当遺跡が位置する河内平野に人々が営まわれるようにになったのは弥生時代からである。最近の発掘調査で縄文時代晩期の土器が出上されているが、まだ、河内平野は河内湾から河内潟へと移行する時代であり、河内平野の東側に位置する牛駒山西麓や南側に位置する羽曳野丘陵に住居を構えていたものと考えられ、この平野部には狩猟・漁撈・採集等の生活空間の場であったと考えられる。その後、稻作農耕の技術等の伝播により、この河内平野にも稻作が作られるようになった。この平野部には恵まれた土壤と豊富な水源等の環境が稻作に最も適した条件であったようで、最近の発掘調査の成果では水田遺構が続々と検出されている。当遺跡の東部に位置する瓜生堂遺跡をはじめとし、西岩田遺跡・山賀遺跡・美園遺跡・久宝寺遺跡等があげられる。

弥生時代中期から古墳時代にかけては、河内潟から河内湾に移行して陸地化し、平野部の全般に渡って集落が広がり、人々が営まわれるようになる。この時期、各遺跡で多数発見されて

いる。当遺跡を始めとして、前述した遺跡と東郷遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡・成法寺遺跡・荒振遺跡等が出現する。また、古墳時代には生駒山西麓の尾根や扇状地上に多数の古墳が築造しているのが、今尚その姿を背景している。最近の発掘調査では河内平野上にも古墳が発見されている。例えば、美園遺跡（4世紀末）・亀井遺跡（5世紀初頃）・萱振遺跡（6世紀末）・長原遺跡（6世紀）等があげられる。

歴史時代に入ると、大化の改新以降、律令国家体制のもとで条里制による土地区画が行われ、国郡郷（里）が置かれた。当遺跡は、河内国渋川郡竹瀬郷に入る。また、神社の建築が数多く行われた地域の一つである。当遺跡には、竹瀬神社が鎮座する。

そして、最近（明治時代）までは、農地として耕され、長年の間、田園風景を一色としていたが、近年（昭和30年以降）の高度経済成長により、近郊地域に於ける工場・住宅の進出が進み、農地が激減しつつある状況である。

#### 参考文献

- (財) 大阪文化財センター『亀井遺跡』寝屋川南部流域下水道事業長岡ポンプ場施設工事調査  
蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 昭和57年
- (財) 大阪文化財センター『亀井』—近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査  
概要報告— 1985

## 第3章 調査の概要

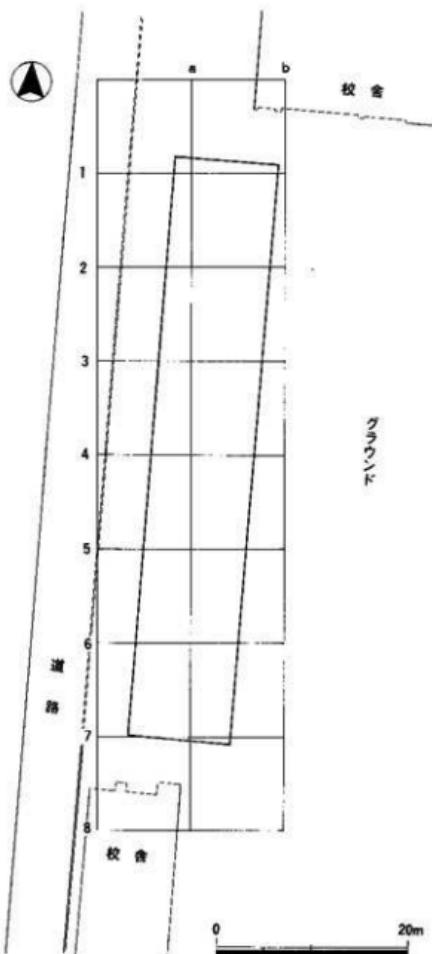
### 第1節 調査の方法

調査は八尾市教育委員会の試掘調査の結果をもとに、現地表下から約1.8mまでを機械掘削した。以下、40cmは人力による掘削を実施した。

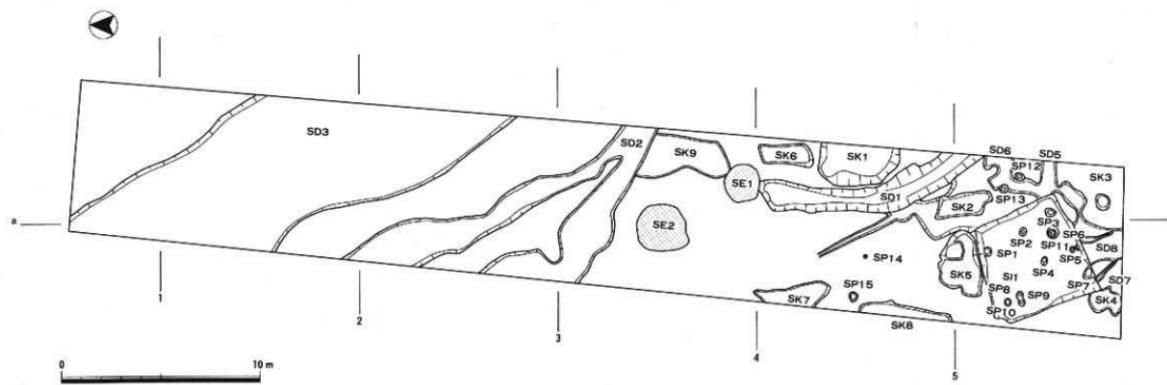
地区割は、機械掘削後、調査区中央部付近で任意に基準点（基準杭）を設け、磁北の方向に合せて東西20m、南北50mの調査区範囲に設定した。設定した一区画を10m四方で、北西隅の交点を基準とし、東西線は数字（1～8）、南北線はアルファベット（a～b）を付称した。なお、地区名は一区画の南東部に交差する東西線・南北線から1a～8b区を付称した。また、標高は（財）大阪文化財センターが実施されていた近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う龜井遺跡の発掘調査で使用した板ベント（TP+8.974m）を使った。

### 第2節 基本層序

調査区は、旧校舎の解体した箇所である為、地表下約1m前後に存在する土層は建物の基礎によって破壊されていた。しかし、検出した古墳時代後期の遺構面には支障がなく調査を実施することができた。ここでは、調査区内で現地表面から約3mの間に存在する土層内から普遍的にみられる10層を抽出して基本層序と



第2回 調査位置図及び地区割図



第3図 造林平面図

した。現地表面は標高8.00mを測る(第4図)。

第1層：盛土(層厚60cm)。学校の建設の際に造成されて埋めた土層である。

第2層：旧耕土(層厚10~20cm)。学校創立前までは、農作地としていた土層で、調査区内の大部分は既設校舎の基礎によって攪乱されている。

第3層：褐灰色粘質シルト(層厚0.8~1m)。この土層は中世の時期の氾濫によって堆積したものと考えられる。

第4層：褐灰色シルト(層厚5~15cm)。酸化鉄を多量に含む土層である。

第5層：暗褐灰色シルト~褐灰色粘質土(層厚5~20cm)。炭を含む土層で、調査区の北東隅から奈良時代の土器が出土している。

第6層：茶灰色~灰茶色粘質土(層厚10~20cm)。

北方へ行くに従い色調が濃くなり、粘質土も強くなっている。南方では古墳時代後期の土器片がごく少量含まれている。

第7層：褐灰色~淡黄褐色粘土(層厚10~20cm)。

この上面で古墳時代後期に比定される遺構を検出した。上面は標高4.5mを測る。

第8層：灰茶色粘土(層厚20~30cm)。この土層は自然木の小枝片がわずかに混入していた。

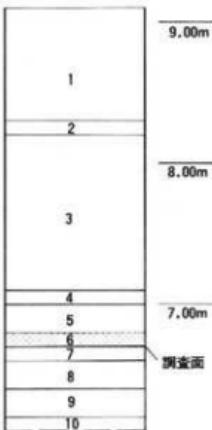
第9層：青灰色砂混粘質土(層厚20cm)以上。この土層は古墳時代後期以前に埋没した自然河川の堆積土であると考えられる。

第10層：茶褐色粗砂(層厚10cm以上)。第9層同様に自然河川の堆積土であると考えられる。

### 第3節 検出遺構・出土遺物

第7層上面を調査対象面とした。その結果、古墳時代後期に比定される竪穴式住居1棟(S11)・土坑9基(SK1~SK9)・小穴5個(SP1~SP5)・溝8条(SD1~SD8)を検出した。また、第3層上面からの切り込みと思われる江戸時代の井戸2基(SE1・SE2)を検出した。遺物は、第6層及び検出遺構内(特にSD1)から多量の須恵器・土師器等の土器が出土している。出土量はコンテナ箱にして約20箱分を数える。

以下、各遺構について概説する。なお、個々の遺物の形態・調整・法量等については、「第4節 出土遺物観察表」に一括してまとめた。



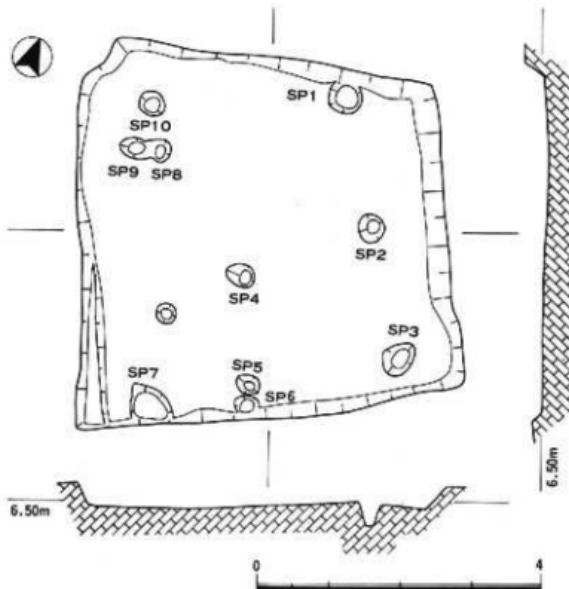
第4図 基本層序柱状図(S-1/40)

1) 古墳時代後期

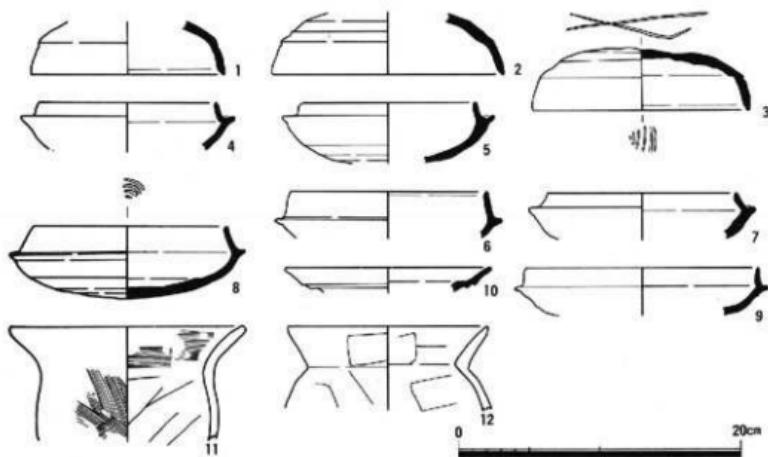
竪穴式住居 (S I)

S I 1

調査区南部 (7a・b区) で検出した。平面は方形を呈する竪穴式住居で、SK4・SD6～SD8を切っている。規模は検出部で、南北辺 5.2m・東西辺 5.16m を測る。床面は検出面から床面まで約20cmを測り、床面は平坦である。この床面上から小穴10個を検出した。平面の形状には円形のもの (5個)、梢円形のもの (5個) がある。小穴の規模は、SP1が径44～50cm、深さ70cm、SP2が径38～39cm、深さ33cm、SP3が径42～52cm、深さ45cm、SP4が径31～41cm、深さ29cm、SP5が径28～36cm、深さ21cm、SP6が径20～33cm、深さ23cm、SP7が径27～32cm、深さ10cm、SP8が径30～35cm、深さ26cm、SP9が径28～43cm、深さ27cm、SP10が径35～37cm、深さ20cmをそれぞれ測る。炉跡は検出しなかった。住居の床面上には暗灰褐色粘質土・暗灰青色粘質シルトの2層が堆積している (第5図)。遺物は、内部から陶邑編年によるII型式1～3段階に相当する須恵器の杯蓋 (1～3)・杯身 (4～9)・(10) と土師器の甕 (11～12) 等の小片が少量出土している (第6図)。



第5図 SI1平面図

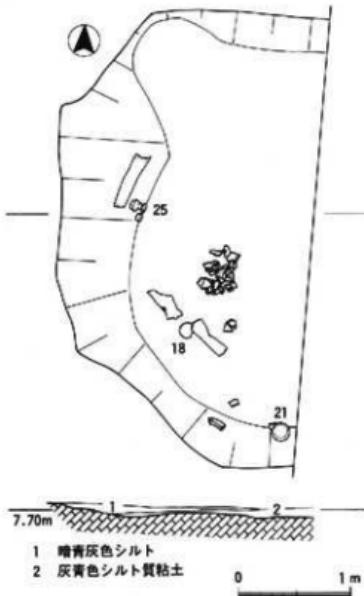


第6図 S11出土遺物実測図

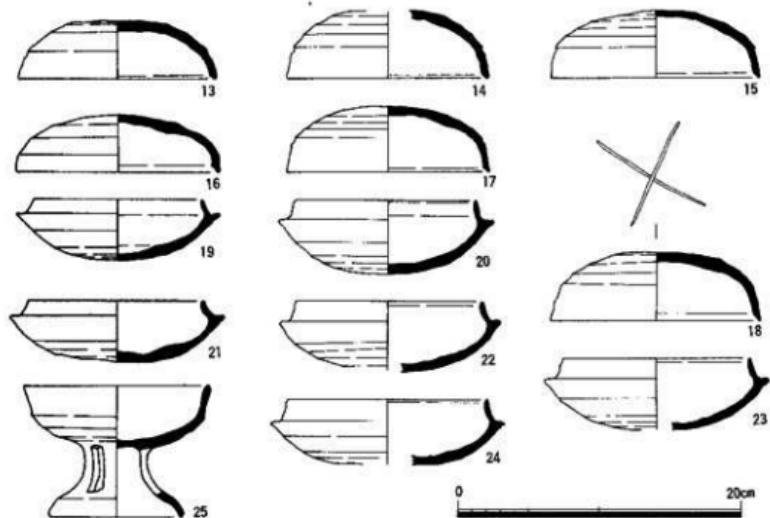
## 土坑 (SK)

## SK1

6 b区の東壁付近で検出した土坑である。西部はSD1に一部切られ、東側は調査区外に至る。平面の形状は検出部で半円形を呈し、南北4.2m、東西3.3m以上、深さ40cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗青灰色シルト・灰青色シルト質粘土・青灰色シルト・暗灰青色シルト・暗灰色シルトに分かれ（第6図）。遺物は、土坑内の南側半分に集中して出土している。腐敗した板状の木製品3枚（全長50cm、幅12cm、厚み1cmと全長38cm、幅12cm、厚さ1cmと全長35cm、幅14cm、1cmをそれぞれ測る）が「L」字形で検出した。これに囲まれたように西側で高杯（25）1点と東側で須恵器の杯蓋（13~17）・杯身（19・22・23）が8個体分集積して出土して



第7図 SK1断面図



第8図 SK1出土遺物実測図

いる。また、須恵器の杯蓋が南側の木製品上部で杯蓋（18）、南東側へ約1m離れた所から杯身（21）が出土している。この2点は一对になった。出土した須恵器はⅡ形式の1～3段階に相当するものである。その他には、土師器の羽釜の小片が少量出土している（第8図）。

#### S K 2

S I 1の北東側で検出した土坑である。平面の形状は長方形を呈し、東西1m、南北2.6m、深さ9cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には淡灰青色粘土混細砂が堆積している。遺物は、堆積土内から須恵器・土師器の小片が少量出土している。

#### S K 3

調査区の南東部で検出した土坑である。平面は椭円形を呈し、径74～82cm、深さ18cmを測る。断面は浅い半円形を呈する。堆積土は上方から暗灰褐色粘質シルト・灰黒褐色シルト（炭・灰を含む）で、底面には1cm程度厚さの炭層がみられる。遺物は、内部から須恵器の杯蓋・杯身と土師器などの小片がごく少量出土している。

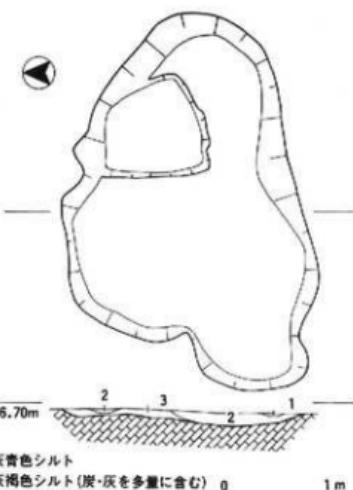
#### S K 4

7a区で検出した土坑で、S I 1に切られる。平面の形状は不定形を呈し、最大幅1.3cm、

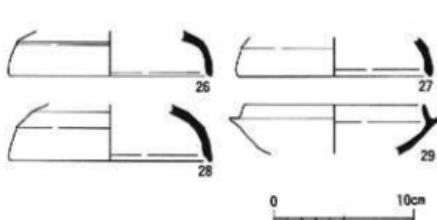
最小幅1m、深さ20cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には灰青色シルト粘土が堆積している。遺物は、堆積土内から須恵器蓋杯の小片が少量出土している。

## SK5

S I 1の北部で検出した土坑である。平面は不定形を呈し、最大幅3.5cm、最小幅2m、深さ13cmを測る。断面は浅い半円形を呈し、東部底面には平断面ともに方形を呈する窪みがある。規模は一辺96cm、深さ34cmを測る。堆積土は淡灰黄色シルト・黒灰褐色シルト（炭・灰を多量に含む）・暗灰青色細砂混シルトである。



第9図 SK5平面図



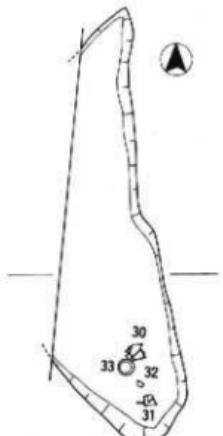
第10図 SK5出土遺物実測図

遺物は、内部から須恵器の杯蓋（26～28）、杯身（29）と土師器などの小片が少量出土している。また、窪み部分の底面付近から腐敗した自然木の小片2点が出土した（第9・10図）。

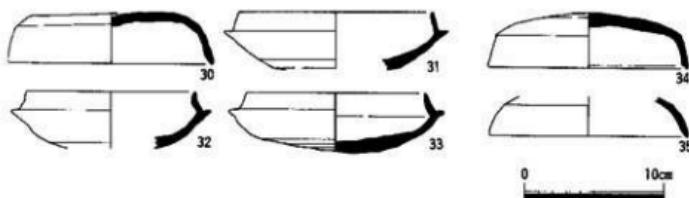
## SK6

S K 1の北部で検出した土坑である。平面の形状は長方形を呈し、東西1m、南北2.6m、深さ9cmを測る。

断面は逆台形を呈し、内部には淡灰青色粘土混細砂が



第11図 SK7平面図



第12図 SK7 (30~33)・SK8 (34~35)出土遺物実測図

堆積している。遺物は、堆積土内から須恵器・土師器の小片が少量出土している。

#### SK 7

6 a 区の西壁付近で検出した。西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、最大幅4.6 m、最小幅70cm、深さ20cmを測る。堆積土は暗灰褐色粘土である。遺物は、土坑内から須恵器の杯蓋(30)・杯身(31~33)と、土師器の壺の小片が少量出土している(第11・12図)。

#### SK 8

SK 7 の南部で検出した土坑である。西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、最大幅4.5 m、最小幅60cm、深さ20cmを測る。堆積土は暗灰褐色粘土である。遺物は、土坑内から須恵器の杯蓋(34・35)・杯身の小片が少量出土している(第12図)。

#### SK 9

5 b 区で検出した土坑である。南部は近世の S E 1 で切られ、北部は S D 2 によって切られる。規模は検出部で、東西約2 m、南北約4 m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には青灰色細砂粘土が堆積している。遺物は、土坑内から土師器の小片が少量出土している。

#### 小穴 (S P)

#### S P 11~S P 15

調査区の南部で5個を検出した。平面の形状は円形を呈する。規模は径15~40cm、深さ10~30cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には暗灰褐色粘質シルトが堆積している。遺物はほとんど出土していない。これら的小穴は調査区内で規則的な配列はなかった。以下、個々の小穴について第1表にまとめた。

第1表 小穴（S P）一覧表

\* 単位：cm

遺構番号	地区	平面形	断面形	径	深さ	堆積土	備考
S P11	7 a区	円形	逆台形	63~72	9	灰褐色粘質シルト	
S P12	7 b区	楕円形	逆台形	32~48	18	灰褐色粘質シルト	
S P13	7 b区	円形	逆台形	43~46	13	灰褐色粘質シルト	須恵器の小片
S P14	6 a区	円形	逆台形	14~17	6	灰褐色粘質シルト	
S P15	6 a区	円形	逆台形	38~44	20	灰褐色粘質シルト	

## 溝（S D）

## S D 1

6・7 b区で検出した溝である。北部は近世のS E 1によって切られ、南部は東部の調査区外に至る。平面の形状では、S E 1から湾曲しながら南部の東壁に至る。規模は検出部で、幅0.8~1.2m、深さ20~50cmを測る。断面は南部が深い半円形、北部が浅い逆台形を呈し、南へ深くなっている。堆積土は青灰色シルト・灰色シルト粘土・黒灰褐色シルト粘土（炭を多量に含む）・褐色シルト粘土（植物遺体を含む）・青灰褐色シルトで構成している（第13図）。遺物は、溝全体に堆積する中層から下層の基底部に混入した状態で出土した。出土量はコンテナ箱にして5箱分を数え、調査区内で検出した遺構の中で最も多量に出土している。遺物には須恵器・土師器・木製品・自然木等がある。須恵器は蓋杯（杯蓋・杯身）・高杯・壺・壺の器種である。土師器は壺・鉢・瓶・羽釜・壺の器種である。木製品には曲物の底板や用途不明の木製品が出土している。これらの遺物の中でも圧倒的に多く出土したのが須恵器の蓋杯である。須恵器は陶邑編年によるⅡ形式2~4段階に相当するものと思われる（第14図~第18図）。

## 須恵器

杯蓋は個体数40点で、実測できたものは35点を数える。形態的な特徴は下記に示すように4分類に大別できる。

杯蓋A類：（やや高く）丸みをもつ天井部から下外方へ緩やかに下る口縁部で、端部は内傾する凹面をもつ。外面には体部と口縁部の境に稜がみられる（36~53）が、この中には、稜の下方に浅い沈線が巡るもの杯蓋A1類（36~45）。稜の下方に沈線が巡らないもの杯蓋A2類（46~53）に細別できる。

杯蓋B類：丸みをもつ天井部から下外方へ緩やかに下る口縁部で、端部は内傾する（浅い）凹面を呈する。外面には体部と口縁部の境に稜の痕跡が認められない（54~61）。

杯蓋C類：低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部で、端部は丸い（又は鈍く尖る）。外面には体部と口縁部の境に稜が認められない（62~65）。

杯蓋D類：平らな（やや凹むもの）天井部から垂直気味に下る口縁部で、端部は内傾する凹面向をもつ。外面には口縁部と体部の境に稜の痕跡が僅かに認められる（66~70）。

杯身は個体数53点で、実測できたものは49点である。形態的な特徴は下記の3分類に大別できる。

杯身A類：杯体部は（やや深く）丸みのある底部から上外方へ伸びる。受部は斜上方へ伸び丸く終わる。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸く終わる（71～78）。この中には、受部が断面三角形で鈍く尖るもの杯身A1類（79～84）と立ち上がりの端部が内傾する（凹）面をもつもの杯身A2類（85・86）がある。

杯身B類：杯体部は（やや深く）丸い底部から外上方へ伸びる。受部は外上方へ鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い（87～91）。

杯身C類：杯体部は（低く）平らに近い底部から上外方へ伸びる。受部は外上方へ伸びて丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸びる。端部は内傾する凹面をもつもの杯身C1類（94・95）と丸く終わるもの杯身C2類（96～102）がある。

杯身D類：杯体部は（やや低く）平坦な（四面をもつ）底部から上内方へ伸びる。受部は水平で、鈍く尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸く終わる（103～109）。なお、杯蓋・杯身には天井部（又は底部）外面にヘラ記号を施したもの（36・47・74）、また、内面には円弧タタキ（同心円タタキ）を施したもの（49・69・85・104）がある。

高杯は個体数5点で、実測できたものは3点である。

110は杯部のみで杯身B類の形態に類似する。111は脚部片で、下外方に短く下り、端部は平坦な面をもつ。脚部には二方に長方形のスカシがある。112も脚部のみ破片である。脚部は下外方へ下ったのち二段屈曲して下外方する。端部は丸く終わる。

大型器台は個体数1点で、実測できたものは脚部のみの1点（113）である。

壺は個体数5点で、実測できたものは3点を数える。114はほぼ完形で、中位からやや上に最大径をもつ球形に近い体部、緩やかに屈曲外反する口縁部で、端部は外傾し面をもつ。調整はは、体部外面に格子タタキ、内面円弧タタキ。他は回転ナデである。

#### 土師器

土師器は須恵器の出土量の約3分の1である。器種は鉢・瓶・羽釜・壺等である。

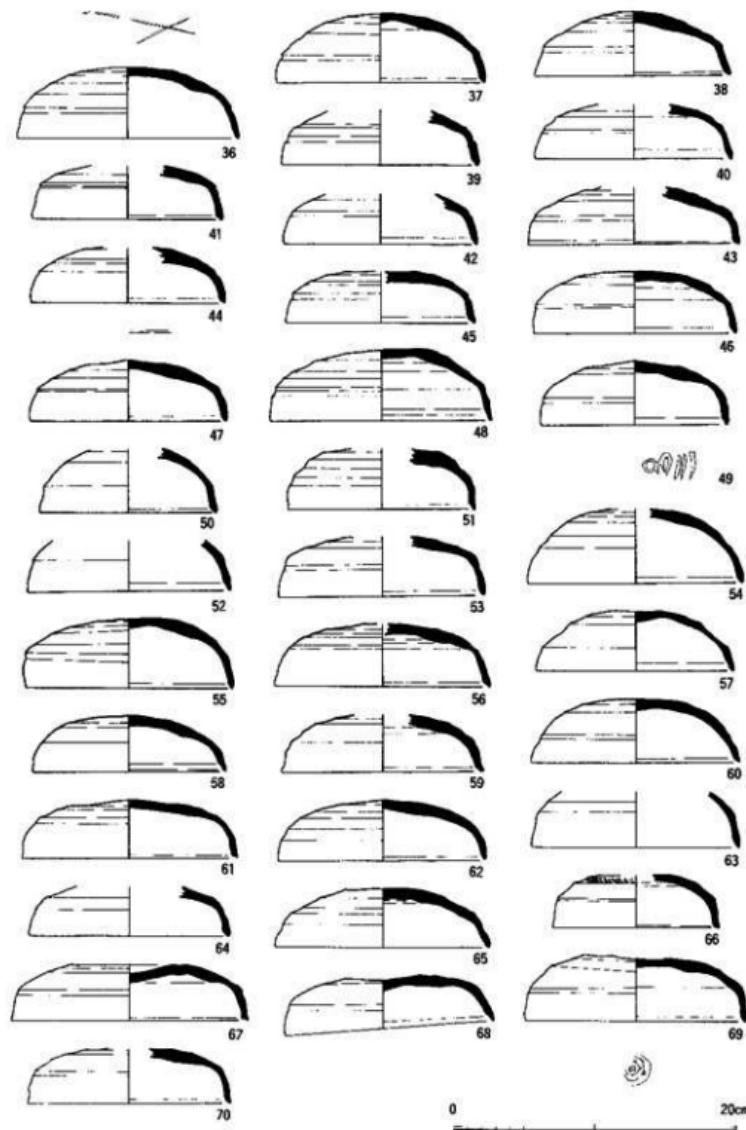
鉢は個体数3点で、実測できたものは2点を数える。117は布留式新相の鉢の形態に酷似している。118は突出しない平底で弥生時代中期から後期の時期の形態に類似する。

瓶は個体数5点で、実測できたものは3点を数える。形態は平底より屈曲し直線的に伸びる。底部の蒸気孔は中央部に円形1個、その周間に隅丸の三ヶ月形が3個を配置している。120の体部には螺旋状に凹形で小さい穿孔を施してある。

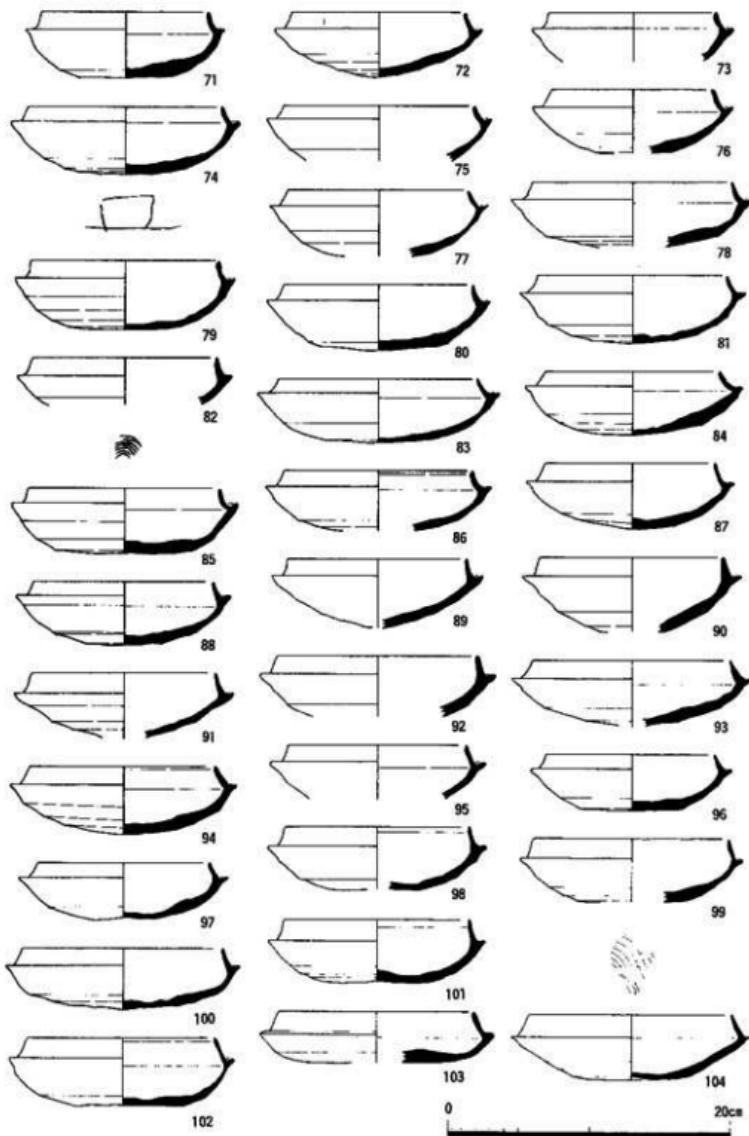
羽釜は個体数5点で、実測できたものは4点を数える。形態は長胴形の体部の上位に水平（又はやや上外方）に伸びる鈎から屈曲して上外方する。



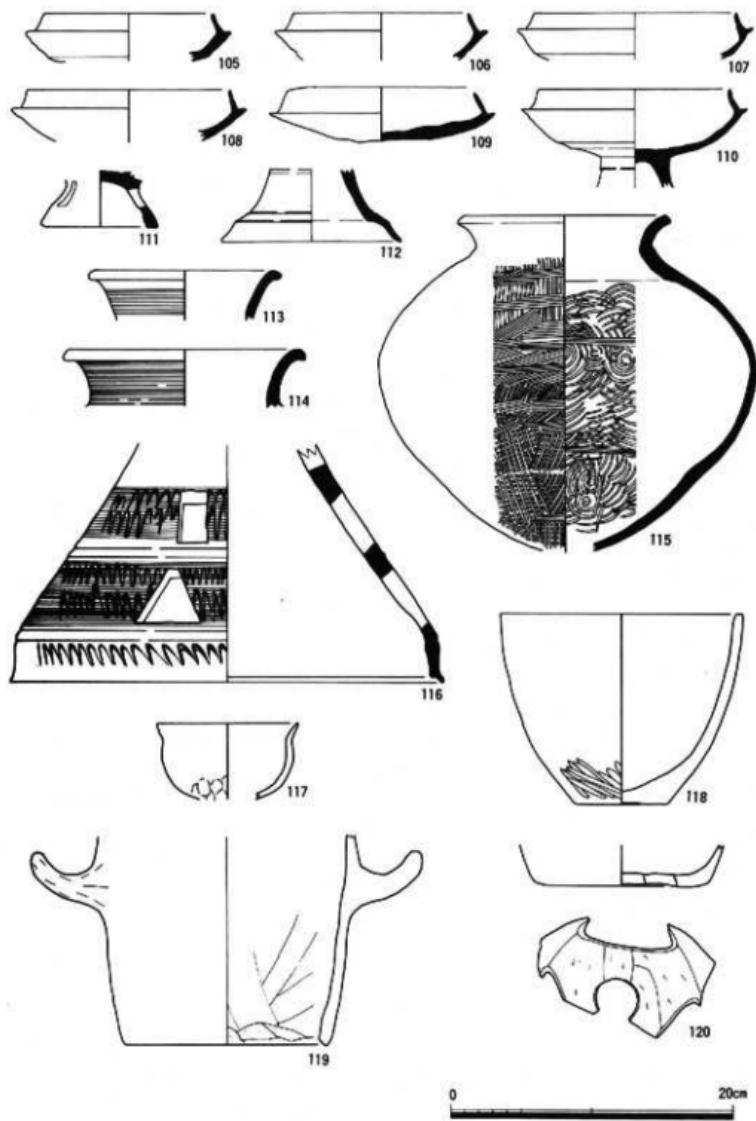
第13図 SD1 平断面図



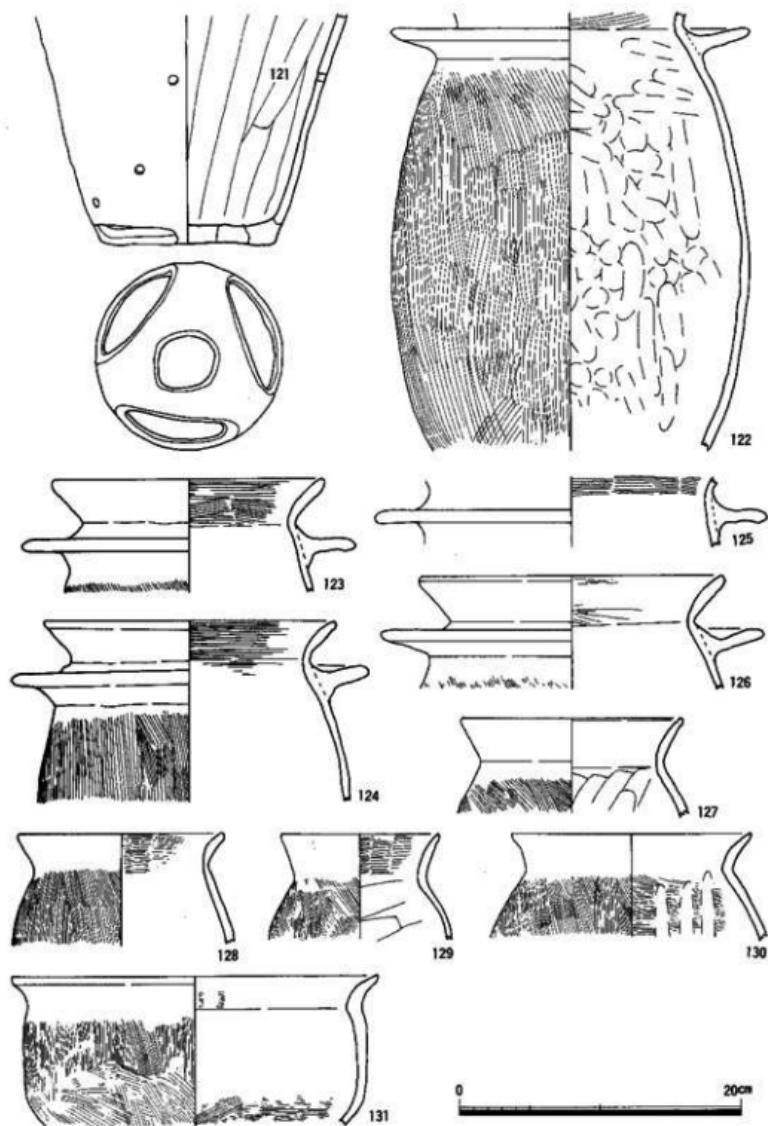
第14図 SD1出土遺物実測図1



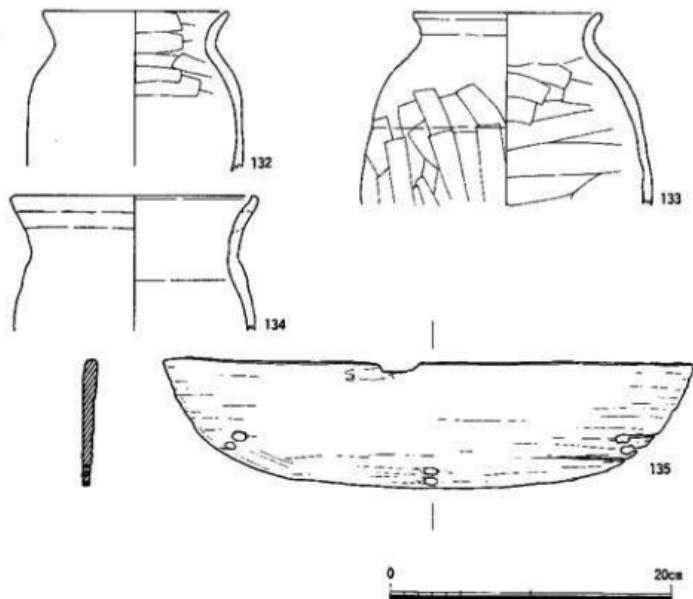
第15図 SD1出土遺物実測図2



第16図 SD1出土遺物実測図3



第17図 SD1出土遺物実測図 4



第18図 SD1出土遺物実測図5

壺は個体数10点で、実測できたものは8点を数える。形態は3分類に大別できる。

壺A類：張りのない体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部である。調整は内外面にハケナデを施す。129は体部内面にヘラ削りである（128～130）。

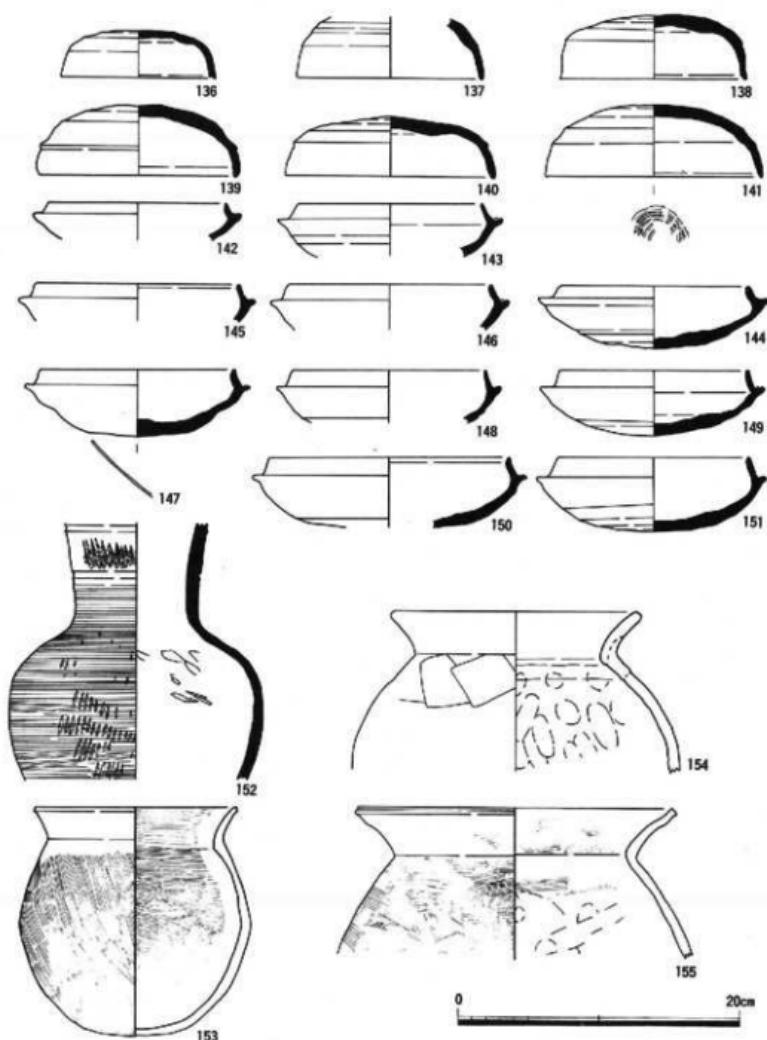
壺B類：張りのない体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部である。調整は体部外面ヘラナデ、内面ヘラ削りを施す（132～133）。

壺C類：張りのない体部から僅かに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部である（134）。

その他には、輕石2点が出土している。形状はほぼ楕円形を呈する。大きさは径3～6cm、重さ20～30gを測る。

#### SD 2

調査区の中央部で検出した溝である。方向は南東一北西方向で調査区の東部から二つに分れて西へ広がる。東部の南側はSK9を切り、東西とともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅0.6～2.5m、深さ20～40cmを測る。断面は浅い逆台形を呈する。堆積土は灰褐色シルト・暗灰褐色粘土・灰褐色砂混シルト・暗灰褐色粗砂混シルトである。



第19図 SD2出土遺物実測図

遺物は、南側の溝内の中央部で1箇所に集積した須恵器片が出土している。また他にも僅かに須恵器・土師器が少量出土している。器種に陶邑編年によるⅡ型式1～4段階に相当する須恵器の杯蓋(136～141)・杯身(142～151)・壺(152)と土師器の壺(153～155)である(第19図)。

#### S D 3

調査区の北部で検出した溝である。方向は南東一北西方向を示し、東西はともに調査区外に至る。規模は検出部で、幅6.5m、深さ40～58cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には灰褐色粘土・灰青色砂混粘土が堆積している。遺物は、溝内から須恵器・土師器の小片がごく少量出土している。

#### S D 4

調査区のS D 1西側で検出した溝である。方向は南東一北西方向を示す。南東はS D 1と交わり、南西部は途中で切れる。規模は検出部で、幅20～30cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰褐色粘質シルトが堆積している。遺物は出土していない。

#### S D 5

7 b区で検出した溝である。方向は東一西方向を示す。西部はS I 1に切られ、S D 6と交差する関係にある。東部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅80cm、深さ10cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には灰褐色粘質シルトが堆積している。遺物は出土していない。

#### S D 6

S I 1の南東部で検出した溝である。方向は南西一北東方向を示す。S D 5と交差し、S D 7が合流する。S I 1・S P 1・S P 4は切る関係にある。東部・南部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅17～24cm、深さ5cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、底面でS D 8を検出する。堆積土は褐灰色シルトである。遺物は出土していない。

#### S D 7

7 a区で検出した溝である。方向は南東一北西方向を示す。南東部はS D 6に合流し、北西部はS I 1によって切られている。規模は検出部で、幅10～24cm、深さ8cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には褐灰色シルトが堆積している。遺物は出土していない。

#### S D 8

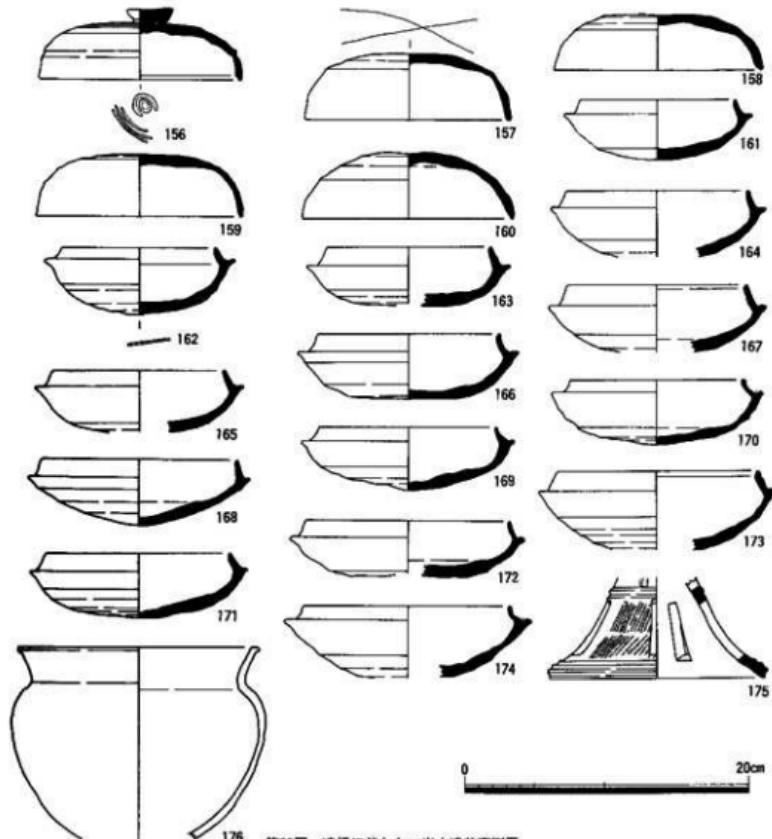
S D 6の底面で検出した溝である。北部はS I 1に切られ、南部は途中で切れている。規模は検出部で、検出長1.8m、幅20～30cm、深さ10cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰褐色粘質シルトが堆積している。遺物は出土していない。

#### 2) 遺構に伴わない遺物

第5層と第6層内からコンテナ箱にして約2箱分が出土した。第5層からは奈良時代に比定され壺が1点出土しただけ、ほとんどの遺物は第6層内からの出土である。出土遺物には須恵

器・土師器がある。須恵器は陶邑編年によるⅡ型式1～4段階に相当するもので、土師器はこれに並行するものであろう。実測できだものは20点を数える。器種は須恵器杯蓋(156～160)・杯身(161～174)・高杯(175)・提瓶・壺・土師器のミニチュア土器である。その他には、砥石片が1点出土している。大きさは縦5.3cm、横3.5cm、厚み1.5～2.5cmを測る。色調は乳灰色である（第20図）。

また、調査区の北東隅での第5層内から奈良時代に比定される土師器の壺(176)である。



第20図 造構に伴わない出土遺物実測図

第4節 出土遺物観察表  
S I I

遺物番号 四組番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
1	杯蓋 (須恵器)	口 径 13.7 後 径 12.7		大井部は欠損。口縁部は外方へ下り、端部は内傾する面をもつ。縁は痕跡がある。 同軸ナデ。	暗灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
2	同上	口 径 16.4 口 径 15.2		天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は丸い。縁は痕跡がある。 大井部外周面ハラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
3	同上	口 径 15.2 器 高 4.5 後 径 14.4 天井部高 1.9		やや低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る 口縁部に来る。端部は内傾する深い凹面を もつ。縁は痕跡があり、下方に沈殿が認る。 天井部外周約1/4回転ヘラ削り、天井部内 面円弧タキ。他は同軸ナデ。	外 灰 内 青灰色	微砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。 ヘラ記り。
4	杯身 (須恵器)	口 径 12.6 立ち上がり高 1.1 受部径 15.2		底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、縁部 は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、 端部は丸い。 同軸ナデ。	暗灰色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 焼付着。
5	同上	口 径 12.3 立ち上がり高 1.2 受部径 15.2		底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、縁部 は丸い。立ち上がりは内上方へ内凹気味に伸 び、端部は丸い。 底体部外周1/4回転ヘラ削り、他は同軸ナ デ。	青灰色	微砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
6	同上	口 径 14.0 立ち上がり高 1.8 受部径 16.2		底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は 丸く尖る。立ち上がりは上内方へ直線的に伸 び、端部は内傾する面をもつ。 同軸ナデ。	乳白色	6mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。
7	同上	口 径 13.4 立ち上がり高 1.1 受部径 16.0		底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、縁部 は丸い。立ち上がりは内上方へ直線的に伸び、 端部は内傾する面をもつ。 同軸ナデ。	灰色	稍白。	良好	ロクロ方向 不明。
8	同上	口 径 13.7 器 高 5.1 立ち上がり高 1.6 受部径 16.8		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上 がりは内上方へ外反気味に伸び、端部は 丸い。 底体部外周1/5回転ヘラ削り、底体部内側 中央部に円弧タキ。他は回転ナデ。	乳白色	3.5mm以 下の砂粒を多 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
9	同上	口 径 16.4 立ち上がり高 1.4 受部径 18.0		底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、縁部 は丸い。立ち上がりは直立して伸び、端部は 丸く尖る。 同軸ナデ。	白色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ方向 不明。
10	瓶 (須恵器)	口 径 14.6		口縁部は2段に屈曲して外上方へ伸びる。 端部は丸い。屈曲部外周に2条の凸線が認る。 同軸ナデ。	灰色	微砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ方向 不明。 自然釉。
11	壺 (土師器)	口 径 16.6		直立気味に内湾して伸びる体部から纏やか に屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部 に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナゲ、内面ハケナデ、体 部外周ヘラナデ、内面ハラ削り。	淡灰色	4.0mm以 下の砂粒を少 量含む。	良好	
12	同上	口 径 14.2		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はわずか につまみ上げる。 内外面ヘラナデ。	外 素灰褐 内 暗茶褐色	1.0mm以 下の砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。

## SK 1

植物番号 固有番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・病害等の特徴	色調	粒 子	発 育 状 態	備 考
13 七	杯茎 (吸器器)	口 径 13.8 器 高 4.1 根 径 12.8 天井部高 2.2		やや深く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に半分。端部は内傾する浅い凹面をもつ。根は痕跡があり。下方に浅い沈殿が混る。 天井部外面1/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰青褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
14 七	同上	口 径 14.2 器 高 13.4		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。根は純く尖る。天井部の一部は欠損。天井部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
15 七	同上	口 径 14.6 器 高 4.8 根 径 14.2 天井部高 2.6		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。根は痕跡がみられる。 天井部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳灰色 内 浅乳灰 褐色	5mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
16 七	同上	口 径 14.4 器 高 4.1		やや深く丸みをもつ天井部から下外方へ内側斜め下に下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。根はない。 天井部外面3/4回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
17 七	同上	口 径 14.4 器 高 4.6 根 径 13.2 天井部高 2.2		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。根は痕跡がある。 天井部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
18 七	同上	口 径 14.8 器 高 4.9		やや高い丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。根は痕跡がみられる。 天井部外面1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳灰 色 内 乳灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。 ヘラ記号。
19 八	杯茎 (吸器器)	口 径 12.0 器 高 4.3 立ち上がり高 1.1 受部径 14.4		やや深く丸い底体部から受部に至る。受部は上方へ伸び、端部は純く尖る。立ち上がりは内方に直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳灰 色 内 乳灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
20 八	同上	口 径 12.0 器 高 4.3 立ち上がり高 1.1 受部径 14.4		やや深く丸い底体部から受部に至る。受部は水平へ伸び、端部は純く尖る。立ち上がりは上方へ直線的に伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外面1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	2.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。 煤付着。
21 八	同上	口 径 12.7 器 高 5.2 立ち上がり高 1.4 受部径 7.5		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部はほぼ水平へ伸び、端部は純く尖る。立ち上がりは上方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外面約2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳灰色 内 乳灰 褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
22 八	同上	口 径 12.6 器 高 4.3 立ち上がり高 1.1 受部径 15.2		やや深く丸い底体部から受部に至る。受部はほぼ水平へ伸び、端部は純く尖る。立ち上がりは上方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外面1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 灰かぶり。
23	同上	口 径 13.2 器 高 5.0 立ち上がり高 1.4 受部径 16.0		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部はほぼ水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外面2/5回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 乳 色 内 淡乳 褐色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。

遺物番号 団版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
24 八	杯良 (須恵器)	口 径 17.1 立ち上がり高 14.1 受部径 16.6	1.5 1.5 9.1	やや浅く丸みをもつ底部から受部に至る。立ち上がりは上外方へ伸び、端部は尖る。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。底部の一部は欠損。 底部外周約1/6回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	内灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向不明。
25 八	無蓋高杯 (須恵器)	口 径 13.0 器 高 9.3 底部径 9.1	9.1	やや深く丸みをもつ杯底部から上外方へ内湾して伸びて伸びる1/4緑部に至る。端部は丸い。脚部は下方へ外反した後、端部付近で内湾して下る。端部は尖り、脚部上部は長方形の2カスカシを有する。 杯底部外周回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	灰青色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

## SK 5

遺物番号 団版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
26	杯蓋 (須恵器)	口 径 14.4 径 13.4		大井部は欠損。口縁部は下外方へ内湾気味に下り、端部は内傾する凹面をもつ。縁は直線がみられ、下方に直線が高まる。 大井部外周約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	青灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
27	同上	口 径 13.6 径 13.4		天井部は欠損。口縁部は下外方へ内湾気味に下り、端部は内傾する浅い凹面をもつ。縁は直線がみられる。 回転ナダ。	乳灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向不明。
28	同上	口 径 12.8 径 13.4		天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する浅い段をもつ。縁は直線がみられる。 天井部外周回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	乳灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
29	杯身 (須恵器)	口 径 14.4 立ち上がり高 1.1 受部径 15.0	3.7	底部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は尖り、立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は尖り。 底部は丸い。 回転ナダ。	灰色	2mm以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ左方向。

## SK 7

遺物番号 団版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
30 八	杯蓋 (須恵器)	口 径 14.4 径 3.7	3.7	低く上面凹状である天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。縁はない。 天井部外周約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	外 墓灰色 内 灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
31 八	杯身 (須恵器)	口 径 13.8 立ち上がり高 1.4 受部径 16.0	1.4 1.4 14.2	底部の一部は欠損。やや浅く平らな底部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は尖る。立ち上がりは上内方へ外反的伸び、端部は尖り。 天井部外周回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。
32 八	同上	口 径 12.0 立ち上がり高 1.4 受部径 14.2	4.3 1.3 14.2	底部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は尖り。 底部外周回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 灰かぶり。
33 八	同上	口 径 12.6 器 高 4.3 立ち上がり高 1.3 受部径 15.4	4.3 1.3 15.4	やや浅く丸みがある底部から受部に至る。底部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底部外周約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。

## SK 8

遺物番号 四版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	杯蓋 (須恵器)	口 径 14.0 器 高 3.9 後 径 13.2 天井部高 1.8	底くや丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。縁は痕跡がみられる。 大井部外側約2/5回転へラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰色 内 青灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。	
35	同上	口 径 14.0 後 径 12.0	天井部は欠損。天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は丸い。縁は痕跡がみられる。 大井部外側回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。	

## SD 1

遺物番号 四版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
36 九	杯蓋 (須恵器)	口 径 15.6 器 高 5.0 後 径 14.8 天井部高 2.9	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は純く尖る。縁は痕跡がみられる。 大井部外側約1/3回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡青灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 ハラ記号。 灰かぶり。	
37 九	同上	口 径 14.7 器 高 4.9 後 径 14.0 天井部径 2.9	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。縁は痕跡がみられる。下方に沈穂が満る。 大井部外側1/3回転へラ削り、他は回転ナデ。	外 淡青色 内 淡灰色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。	
38 九	同上	口 径 14.0 器 高 4.6 後 径 12.8 天井部高 2.5	やや高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。縁は痕跡がみられる。 大井部外側約1/5回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡火白色	長石等の微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。	
39	同上	口 径 14.0 後 径 13.2	天井部は欠損。口縁部は下外方へドリ。端部は内傾する凹面をもつ。縁は痕跡がみられる。 天井部外側回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。	
40	同上	口 径 14.0	やや高く丸みをもつと思われる天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は丸い。縁はわずかに痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 大井部外側回転へラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。	
41	同上	口 径 13.4 後 径 12.5	底くや丸みをもつと思われる天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。縁は痕跡があり。下方に浅い沈穂が満る。 天井部外側回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。	
42	同上	L.I. 径 13.8 横 径 12.6	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する浅い凹面をもつ。縁は痕跡があり。下方に浅い沈穂が満る。 天井部外側回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。	
43	同上	口 径 15.0	やや高く丸みをもつと思われる天井部から下外方へ内湾気味に下る口縁部に至る。端部は下方に浅い凹面をもつ。縁はわずかに痕跡がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外側回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡青色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。	

遺物番号 四版番号	器種	法盤 (cm)	口径 標高	形態・調査等の特徴	色調	地土	流域	備考
44	杯型 (折腹器)	口 径 13.8 盤 径 12.6	内汚氣味に外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後は直路がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	やや低く丸いをもつと思われる天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。後は直路がみられ、下方に沈線が進る。天井部の一部は欠損。	淡灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
45	同上	口 径 13.4 器 高 3.6 盤 径 12.6 天井部高 1.3	やや低く平らに近い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。後は直路がみられ、下方に沈線が進る。天井部の一部は欠損。 天井部外側約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	やや低く平らに近い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。後は直路がみられ、下方に沈線が進る。天井部の一部は欠損。	淡灰色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
46	同上	11 径 14.3 器 高 4.4 天井部高 2.4	やや高く丸いをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。 底体部外側約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	やや高く丸いをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。 底体部外側約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	7mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
47	同上	LJ 径 14.0 器 高 4.4 盤 径 13.0 天井部 2.1	やや低く丸いをもつ天井部から下外方へ内汚氣味に下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。後は直路がみられる。 底体部外側約4/7回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	やや低く丸いをもつ天井部から下外方へ内汚氣味に下る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。後は直路がみられる。 底体部外側約4/7回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。 ヘラ記号。
48	同上	口 径 15.6 器 高 5.0 天井部高 2.7	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。 天井部外側約4/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。 天井部外側約4/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の粗 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
49	同上	口 径 13.2 器 高 4.4 天井部高 2.7	やや高く丸い天井部から下外方へ内汚氣味に下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。 天井部外側約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	やや高く丸い天井部から下外方へ内汚氣味に下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。 天井部外側約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	2.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。 焼付着。
50	同上	口 径 12.2	高く丸いをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	高く丸いをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	乳灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
51	同上	口 径 13.1	やや高く丸いをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	やや高く丸いをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はわずかに直路がみられる。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	長石・チャート等の粗 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
52	同上	11 径 14.4	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はない。 回転ナデ。	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はない。 回転ナデ。	外 内 乳白色 乳灰白色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
53	同上	11 径 14.6	やや高く丸いをもつと思われる天井部から下外方へ内汚氣味下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。後はわずかに直路がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	やや高く丸いをもつと思われる天井部から下外方へ内汚氣味下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。後はわずかに直路がみられる。天井部の一部は欠損。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰褐色	長石等の粗 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
54	同上	口 径 15.3	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。後はない。 天井部の一部は欠損。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。後はない。 天井部の一部は欠損。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
55	同上	口 径 14.7	やや高く丸いをもつ天井部から下外方へ内汚氣味下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はない。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	やや高く丸いをもつ天井部から下外方へ内汚氣味下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はない。 天井部外側回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰白色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。

遺物番号 図版番号	器種	法身 (cm)	上縁 基高	形態・溝痕等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
56 —○	杯 (須恵器)	口 径 15.3 器 高 4.4		低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。縁はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	淡灰青色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
57 —○	同上	口 径 13.8 器 高 4.2		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。縁はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	淡灰白色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
58 —○	同上	口 径 13.8 器 高 4.0		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。縁はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色	精良。	良好	ロクロ方向 不明。
59 —○	同上	口 径 14.2		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する段をもつ。縁はない。 天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	乳灰白色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
60 —○	同上	口 径 14.8 器 高 4.4		高く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	灰青色	長石・チャート等の粗 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
61 —○	同上	口 径 15.2 器 高 4.1		低く丸い天井部から下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾する浅い凹面をもつ。後はない。 大井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	乳灰色	長石・チャート等の粗 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
62 —○	同上	口 径 14.9 器 高 4.3		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ内 溝気味に下る口縁部に至る。端部は内傾する 浅い凹面をもつ。縁はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	灰 色	精良。	良好	ロクロ右方 向。
63 —○	同上	口 径 14.6		天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端 部は丸い。縁はない。 大井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	外 淡黒灰 色 内 淡灰色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
64 —○	同上	口 径 14.1		天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端 部付近で肥厚し、端部は純く尖る。後はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	青灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
65 —○	同上	口 径 15.2 器 高 4.1		やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下 る口縁部に至る。端部は丸い。縁はない。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色	長石等の粗 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 底かぶり。
66 —○	同上	口 径 11.8 器 高 3.7 後 径 11.2 天井部高 1.7		やや低く平らと思われる天井部から下外方へ 重底気味に下る口縁部に平ら。端部は内傾する凹面をもつ。後は痕跡がみられる。大井部 の一部は欠損。 天井部外面約1/3回転ヘラ削り、刺突穴。他 は回転ナダ。	淡青灰色	2.5mm以 下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
67 —○	同上	口 径 16.8 器 高 4.0 後 径 15.9 天井部高 1.1		凹面で低い天井部から下外方へ内溝気味に 下る口縁部に平ら。端部は内傾する凹面をも つ。後は痕跡がみられ、下方に沈継がある。 天井部外面約1/3回転ヘラ削り、他は回転 ナダ。	青灰色	長石等の粗 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
68 —○	同上	口 径 15.8 器 高 3.9 後 径 13.8 天井部高 1.8		やや低く凹面をもつ天井部から下外方へ下 る口縁部に至る。端部は純く尖る。後は痕跡 がみられ、下方に浅い沈継がある。 天井部外面約1/6回転ヘラ削り、他は回転ナ ダ。	灰 色	長石等の粗 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 自然釉。

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
69	杯蓋 (須恵器)	口 径 15.6 器 高 4.4		底く凹面をもつ天井部から下外方へ垂直気味に下る1線部に至る。端部は内傾する面をもつ。縁はわずかに痕跡がみられる。 天井部外面約1/2回転ヘラ削り、内面中央に同心円タクテ、他は回転ナデ。	淡青灰色	長石・チャート等の粗砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
—○								
70	同上	口 径 14.2 器 高 3.9 天井部高 1.6		やや低く、平らと思われる天井部から下外方へ垂直気味に下る口線部に至る。端部は内傾する面をもつ。縁はわずかに痕跡がみられる。 天井部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰色	長石等の粗砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
71	杯身 (須恵器)	口 径 11.8 器 高 4.7 立ち上がり高 1.2 受部厚 14.0 底体部高 3.3		やや深く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、縁部は丸い。立ち上がり部は上内方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。 底体部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰褐色	2mm以下の粗砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 灰かぶり。
—								
72	同上	口 径 12.4 器 高 4.6 立ち上がり高 1.2 受部厚 14.0 底体部高 3.1		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、縁部は丸い。立ち上がり部は上内方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。 底体部外面約1/2回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	0.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方向。
—								
73	同上	口 径 12.0 立ち上がり高 1.1 受部径 14.4		底体部は欠損。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 同軸ナデ。	外 内 灰青色 灰褐色	2mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方向。
74	同上	口 径 13.8 器 高 4.8 立ち上がり高 1.0 受部厚 16.2 底体部高 3.8		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、縁部は丸い。立ち上がり部は上内方へ伸び、縁部は丸い。 底体部外面約2/7回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	長石等の粗砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 ヘラ記号。
75	同上	口 径 13.5 立ち上がり高 1.0 受部径 16.0		受部は欠損。受部は外上方へ伸び、縁部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	3mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方向。
76	同上	口 径 11.4 立ち上がり高 1.2 受部径 14.2		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、縁部は丸い。立ち上がり部は上内方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。 底体部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	2mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
77	同上	口 径 12.8 立ち上がり高 1.1 受部径 15.6		深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、縁部は純い。立ち上がり部は上内方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。 底体部一部は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	5mm以下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。
—								
78	同上	口 径 14.2 立ち上がり高 1.2 受部径 17.2		やや深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、縁部は丸い。立ち上がり部は上内方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	長石等の粗砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 煤付着。
79	同上	口 径 13.4 器 高 4.9 立ち上がり高 1.3 受部径 15.6 底体部高 3.6		やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、縁部は純い。立ち上がり部は上内方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。 底体部外面約2/3回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	長石等の粗砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
—								

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
80	杯身 (須恵器)	口 径 18.4 器 高 4.7 立ち上がり高 1.5 受部径 15.8 底体部高 3.5	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。乳灰色 受部は外上方へ伸び、端部は鋭い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外側約2/3回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	乳灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。	
—								
81	同上	口 径 13.6 器 高 4.8 立ち上がり高 1.2 受部径 16.0 底体部高 3.6	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は水平に伸び、端部は鋭い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は鋭く尖る。 底体部1/3回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	青灰色	長石等・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。	
—								
82	同上	口 径 13.6 器 高 4.8 立ち上がり高 1.2 受部径 15.2 底体部高 3.6	底体部は欠損。受部は断面三角形を呈し、 端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、 端部は丸い。 底体部外側約2/3回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	乳灰色	1mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。	
—								
83	同上	口 径 14.1 器 高 4.5 立ち上がり高 1.0 受部径 15.2 底体部高 3.5	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は水平に伸び、端部は鋭く尖る。立ち上 がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外側約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	外 青灰色 内 淡灰青 褐色	3mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 灰かぶり。	
—								
84	同上	口 径 12.4 器 高 4.5 立ち上がり高 1.0 受部径 15.2 底体部高 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は水平に伸び、端部は鋭い。立ち上 がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外側約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 焼付着。 灰かぶり。	
—								
85	同上	口 径 13.6 器 高 4.7 立ち上がり高 1.1 受部径 16.0 底体部高 3.5	やや深く平らな底体部から受部に至る。受 部は上外方へ伸び、端部は丸をもつ。立ち上 がりは上内方へ外反して伸び、端部は内傾す る面をもつ。 底体部外側約1/3回転ヘラ削り、底体部内 面円弧タッキ、他は回転ナガ。	淡灰色	長石等の砂 粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。	
—								
86	同上	口 径 13.4 器 高 4.7 立ち上がり高 1.2 受部径 16.0	やや深く丸みをもつと思われる底体部から 受部に至る。受部は水平に伸び、端部は尖る。 立ち上 がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は内 傾する面をもつ。 底体部外側約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	灰色	3.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。 焼付着。	
—								
87	同上	口 径 12.0 器 高 4.7 立ち上がり高 1.3 受部径 15.0 底体部高 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は外上方へ伸び、端部は鋭く尖る。立ち上 がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸 い。 底体部外側約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	乳灰色	0.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。	
—								
88	同上	口 径 12.8 器 高 4.5 立ち上がり高 1.0 受部径 15.2 底体部高 3.5	やや深く丸みをもつと思われる底体部から 受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鋭く 尖る。立ち上 がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸 い。 底体部外側約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	青灰色	長石・チャート等の 細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。 灰かぶり。	
—								
89	同上	口 径 12.6 器 高 4.9 立ち上がり高 1.2 受部径 15.0 底体部高 3.7	やや深く丸みをもつと思われる底体部から 受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鋭く 尖る。立ち上 がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 端部は丸い。 底体部外側約3/4回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	淡灰色	長石・チャート等の 細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。	
—								
90	同上	口 径 13.0 器 高 4.4 立ち上がり高 1.4 受部径 15.5	深く丸いと思われる底体部から受部に至る。 受部は外上方へ伸び、端部は鋭い。立ち上 がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底部の一部は欠損。 底体部外側回転ヘラ削り、他は回転ナガ。	淡灰色	3mm以下の 砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方 向。	
—								

遺物番号 同版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
91	杯身 (須器)	11 径 13.0 立ち上がり高 1.1 受部径 15.6	至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立 ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は 丸い。底部の一端は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	淡灰青色	長石等の細 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 焼付着。	
92	同上	口 径 14.2 立ち上がり高 1.3 受部径 16.8	底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は 丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、 端部は丸い。 底体部外面回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	淡灰青色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。 焼付着。	
93	同上	口 径 14.0 立ち上がり高 1.3 受部径 17.0	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ外反気味に伸び、端部は丸く尖る。 底部の一端は欠損。 底体部外面回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	淡灰色	長石等の細 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 焼付着。	
94	同上	11 径 13.2 器 高 4.8 立ち上がり高 1.3 受部径 16.0 底体部高 3.4	浅く丸い底体部から受部に至る。受部は上 外方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内 方へ外反気味に伸び、端部は内側する浅い凹 面をもつ。 底体部外面3/5回転ヘラ削り。他は回転ナ デ。	青灰灰化色	長石・チヤ ート等の細 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。	
95	同上	口 径 12.8 立ち上がり高 1.2 受部径 15.4	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、端部 は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は 内側する浅い凹面をもつ。 回転ナデ。	淡灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。	
96	同上	口 径 11.9 器 高 4.0 立ち上がり高 1.0 受部径 14.2 底体部高 3.0	やや深く平らな底体部から受部に至る。受 部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面1/3回転ヘラ削り。他は回転ナ デ。	外 暗灰褐色 内 暗灰褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。 自然釉。	
97	同上	口 径 12.2 器 高 4.0 立ち上がり高 1.0 受部径 14.8 底体部高 3.0	やや深く平らな底体部から受部に至る。受 部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面1/3回転ヘラ削り。他は回転ナ デ。	乳青灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。 焼付着。	
98	同上	11 径 13.0 器 高 4.4 立ち上がり高 1.3 受部径 15.6 底体部高 3.2	やや深く凹面をもつ底体部から受部に至る。 受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/4回転ヘラ削り。他は回転ナ デ。	淡灰色	2.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。	
99	同上	口 径 13.8 器 高 4.5 立ち上がり高 1.4 受部径 15.8 底体部高 3.1	浅く平らな底体部から受部に至る。受部は 外上方へ伸び、端部は丸く尖る。立ち上がり は上内方へ伸び、端部は丸く尖る。底部の一 端は欠損。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り。他は回転ナ デ。	乳青褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。	
100	同上	口 径 14.2 器 高 4.5 立ち上がり高 1.3 受部径 16.6 底体部高 3.1	やや深く平らに近い底体部から受部に至る。 受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外面約1/3回転ヘラ削り。他は回転ナ デ。	外 淡灰青色 内 暗灰褐色	長石等の細 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。 焼付着。	
101	同上	口 径 13.2 器 高 4.5 立ち上がり高 1.5 受部径 18.4 底体部高 3.0	やや深く平らな底体部から受部に至る。受 部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは 上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 天井部外側回転ヘラ削り。他は回転ナデ。	灰色	長石・チヤ ート等の細 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。	

遺物番号 図版番号	器種	法長 (cm)	口徑 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
102 一二	杯身 (須恵器)	口径 13.2 器高 4.8 立ち上がり高 1.4 受部径 16.0 底体部高 3.4		やや浅く平らな底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鋭い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は内傾する面をもつ。 底体部外表面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	乳灰色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
103	同上	口径 3.8 器高 3.6 立ち上がり高 1.4 受部径 16.6 底体部高 2.0		深くぐらかな底体部から受部に至る。受部は断面三角形を呈し、端部は鋭い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外表面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	外緑灰色 内青灰色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
104 一三	同上	口径 14.4 器高 4.6 立ち上がり高 1.5 受部径 17.0 底体部高 3.0		やや深く内面の底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鋭い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外表面約1/3回転ヘラ削り、底体部内圓弧タッキ、他は回転ナダ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
105	同上	口径 12.0 立ち上がり高 1.3 受部径 14.6		底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。	灰褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 蓋付着。
106	同上	口径 12.4 立ち上がり高 1.2 受部径 15.2		底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 回転ナダ。	灰褐色	2.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 底かぶり。
107	同上	口径 14.4 立ち上がり高 1.1 受部径 16.8		底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 底体部外表面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
108	同上	口径 14.4 立ち上がり高 1.3 受部径 16.8		底体部は欠損。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。 回転ナダ。	乳灰色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
109 一三	同上	口径 13.4 器高 3.9 立ち上がり高 1.8 受部径 15.9 底体部高 2.1		やや深く底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鋭く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外表面3/7回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	灰褐色	長石・チャート等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
110 一三	蓋付高杯 (須恵器)	口径 13.6 立ち上がり高 1.4 杯部径 16.0 杯部高 5.3		丸みをもつ杯底部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鋭く尖る。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。脚部は欠損。 杯底部外表面約1/3回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	青灰色	長石等の細砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
111	高杯 (須恵器)	底径 8.0		杯部は欠損。脚部は下外方へドリ。端部は下方に面をもつ。脚部には長方形の三方スカラシが摩かれている。 回転ナダ。	青灰色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
112	同上	底径 12.7		口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は外に肥厚する。体部は欠損。 脚部は回転ナダ。	灰褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
113	尊 (須恵器)	口径 12.4		口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は外に肥厚する。体部は欠損。 口縁部外表面回転カギ目、他は回転ナダ。	灰褐色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。

重物番号 回数番号	器種	法量 (ml)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
114	壺 (須恵器)	口 径 16.6		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は若干下方向へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部外側タキ復元回転カキ目、内面回転ナデ。	灰褐色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ方向不明。
115	器台 (須恵器)	口 径 30.8		杯部は欠損。肩部は下外方へ伸びた後屈曲して直下する。端部は内側する深い凹面をもつ。肩部には三段のスカシ（上は二段の長方形、下は一段の二角形）が施されている。また、三角形スカシの間に2条、底曲部に1条の浅い旋がめぐる。中央のスカシに2条（3本）、下校のスカシに2条（3本・1本）端部付近に1条（4本）の波状文を施す。 外回転カキ目・回転ナデ・内面回転ナデ。	外 清灰青色 内 底青色	精良。	良好	ロクロ方向不明。
一三								
116	壺 (須恵器)	口 径 14.3 底大径 27.0		中位より上に最大径をもつ球形に近い体部から傾曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は右外方に肥厚し、丸い。底部の一部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外側タキ目（上位は平行、下位は格子）後停止ハケナデ・内面回転カキ目後停止ナデ。	外 乳灰褐色 内 底褐色	精良。	良	ロクロ方向不明。
一三								
117	蒜 (上部器)	口 径 10.0		偏平な半球形の体部から細やかに屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部外側ナデ、内面ヨコナデ、体部外側上位～中位ナデ、下位ハラミガキ、内面上位ヨコナデ、中位以下ナデ。	暗灰褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
118	同上	口 径 17.2 器 高 13.5		半楕円形に近い体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、体部外側上位～中位ナデ・下位ハラミガキ、内面上位ヨコナデ、中位以下ナデ。	淡灰褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
一三								
119	瓶 (上部器)	底 径 14.4		底部からほぼ直上へ伸びる体部で、口縁部は欠損。体部中位には左右一对の取手を付く。取手は上方に溝曲する舌形である。底部は平底で、穿孔をもつと思われるが欠損で不明。 体部外側ナデ・ヘラナデ、内面ヘラナデ後ナデ、底部ハラ削り。	乳白色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
120	同上	底 径 10.4		底部は平底で中央に円形の穿孔、三方に椭円形の穿孔を有する。体部・口縁部は欠損。 底部外側ハラ削り、内面ハラ削り・指痕。	淡灰褐色	細砂粒を少量含む。	良好	焼付着。
121	同上	底 径 10.3		体部は上外方へ直線的に伸び、3箇所内孔（7×7 mm）が認められる。口縁部は欠損。 底部は平底で、中央に円形の穿孔、三方に椭円形の穿孔を有する。 体部外側ナデ、内面ハラ削り。	淡灰褐色	0.5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	焼付着。
一四								
122	羽釜 (上部器)	底 径 25.4		体部は長楕円形である。底部はやや外上方へ伸び、端部は丸い。口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。口縁部内外面に接合痕一筋がみられる。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ、底部ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面折ナデ。	淡灰褐色	細砂粒を少量含む。	良好	
123	同上	口 径 19.2 器 高 23.8		体部は欠損。器底は水平に伸び、端部は丸い。口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。口縁部内外面に接合痕一筋がみられる。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ、底部ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面ナデ。	灰褐色	2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	
一四								

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 基面	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成 度	備考
124 一四	羽蓋 (土器部)	11 径 20.3 鉢 径 25.4		体部下辺は欠損。側部はやや外上方へ伸び、端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ、側部ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面ナダ。	淡灰茶褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
125	同上	口 径 27.8		側部は水平に伸び、端部は丸い。体部・口縁部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ、側部ヨコナデ、体部内面ナダ。	淡灰褐色	角閃石・長 石・雲母等 の細颗粒を 少量含む。	良好	
126 一四	同上	口 径 21.4 鉢 径 26.1		体部は欠損。側部は上外方へ伸び、端部は丸い。口縁部は上外方へ伸び、端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ、側部ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面ナダ。	淡灰褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
127	壺 (土器部)	口 径 15.4		上内方に内湾気味に伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は若干上につまむ。端部外側ハケナデ、内面ナダ。	淡灰褐色	1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
128	同上	口 径 14.5		上内方に伸びる体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下には欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ後ナダ 体部外側ハケナデ、内面不明。	淡灰褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
129	同上	口 径 11.2		上外方に内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下には欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外側ハケナデ、内面ナダ。	灰褐色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
130 一四	同上	口 径 17.0		上内方に伸びる体部から屈曲し、上外方に外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。底部は丸い。 体部中位以下には欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外側ハケナデ、内面ナダ。	淡灰褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好 変色。 煤付着。	
131	同上	口 径 26.0		上内方に伸びる体部から屈曲し、上外方に外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。底部は丸い。 口縁部外側ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハ ケナデ、体部外側ハラナデ、下位ヨコナデ、下位ハケナデ、内面ナダ。	乳灰褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
132	同上	口 径 13.0		上内方に内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方に外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下には欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハラナデ、体部外側ハラナデ後ナダ、内面ナダ。	暗灰褐色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好 煤付着。	
133	同上	口 径 13.4		上内方に内湾して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方に外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。体部内面の上位には接着痕一条がみられる。 口縁部外側ヨコナデ、体部外側ハラナデ、内面ナダ。	乳灰褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好 煤付着。	
134	同上	口 径 17.0		上内方に内湾気味に伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方に外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。体部下位は欠損。体部内面の上位には接着痕一条がみられる。 体部外側摩滅の為不明。口縁部内面ヨコナ デ、体部内面ナダ。	赤茶色	微砂粒を少 量含む。	良好	

遺物番号 国版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色	調 査	胎 土	焼成	備考
136 一四	杯蓋 (須恵器)	11 径 器 高 天井部高	11.0 3.3 1.7	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口 縁部に至る。縁部は内傾する浅く凹面をもつ。 縁部は痕跡がみられる。 天井部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転 ナダ。	灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。	
137	同上	口 径 後 径	13.2 12.6	天井部は欠損。口縁部は下外方へ下り、端 部は丸い。縁は微擦がみられる。 天井部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転 ナダ。	暗灰色	微砂粒を少 量含む。	良好	灰かぶり。 自然釉。	
138 一五	同上	11 径 器 高 後 径 天井部高	13.7 4.5 12.6 1.8	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口 縁部に至る。縁部は内傾する浅く凹面をもつ。 縁は痕跡がみられる。 天井部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転 ナダ。	青灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。	
139	同上	口 径 器 高 後 径 天井部高	14.0 4.5 12.6 1.8	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ内 凹気味による口縁部に至る。縁部は丸い。後 部は痕跡がみられる。 天井部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転 ナダ。	青灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。	
140 一五	同上	口 径 器 高 後 径 天井部高	14.8 4.3 13.8 1.9	低く丸みをもつ天井部から下外方へ下る口 縁部に至る。縁部は丸い。縁は鋸く尖り、下 方に浅い凹溝が通る。 天井部外面約1/4回転ヘラ削り、他は回転 ナダ。	青灰色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。	
141 一五	同上	口 径 器 高	15.3 5.1	やや高く丸みをもつ天井部から下外方へ下 る口縁部に至る。縁部は内傾する浅く凹面を もつ。縁はない。 天井部外面約3/10回転ヘラ削り、内面円弧 タキ。他は回転ナダ。	青灰色	微砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。	
142	杯身 (須恵器)	口 径 立ち上がり高 受部厚	12.6 0.8 14.8	底体部は欠損。受部は外上方へ伸び、縁部 は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び る。縁部は丸い。 回転ナダ。	青灰色	3.5mm以 下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ方向 不明。	
143	同上	口 径 立ち上がり高 受部径	13.0 1.1 16.0	底体部は欠損。受部は上外方へ伸び、縁部 は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び る。縁部は丸い。 回転ナダ。	淡灰色白色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。	
144 一五	同上	口 径 器 高 立ち上がり高 受部径 底体部高	13.2 4.4 1.0 0.8 16.4 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る 受部は水平に伸び、縁部は丸い。立ち上がり は上内方へ外反気味に伸び、縁部は丸い。 底体部外面約1/5回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色白色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。	
145	同上	11 径 立ち上がり高 受部径	14.4 1.0 16.8	底体部は欠損。受部は若干上方へ伸び、 縁部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、縁 部は内傾する面をもつ。 回転ナダ。	青灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。	
146	同上	11 径 立ち上がり高 受部径	14.4 1.2 16.0	底体部は欠損。受部は外上方へ伸び、縁部 は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、縁部は 丸い。 回転ナダ。	青灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ方向 不明。	
147	同上	11 径 器 高 立ち上がり高 受部径 底体部高	13.8 4.8 1.1 16.0 3.5	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は水平に伸び、縁部は丸い。立ち上がり は上内方へ外反して伸び、縁部は丸い。 回転ナダ。	外 内 青灰色 暗灰色 色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ヘラ記号。	

## II 竹洞跡（第1次調査）

遺物番号 回収番号	器種	法量 (cm)	口徑 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
148	杯身 (須恵器)	口 径 13.8 立ち上がり高 1.2 受部径 16.0	底体部は欠損。受部は若干外上方へ伸び、端部は丸をもつ。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外側面回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	乳灰褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。 焼付着。	
149	同上	口 径 13.3 器 高 4.6 立ち上がり高 1.2 受部径 16.2 底体部高 3.4	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外側面約1/4回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	外 壁 内 壁 底盤	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 焼付着。	
一五	同上	口 径 17.1 立ち上がり高 1.2 受部径 19.6	やや深く丸みをもつと思われる底体部から受部に至る。受部は若干外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内傾する深い凹面をもつ。 底体部外側面約2/5回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	乳灰色	4.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。 自然釉	
一五	同上	口 径 13.6 器 高 5.2 立ち上がり高 1.3 受部径 16.3 底体部高 3.8	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は丸い。 天井部外側面2/5回転ヘラ削り、他は回転ナダ。	乳灰色	4mm以上の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。 ヘラ記号。	
一五	壺 (須恵器)	最大径 頭部径 18.0 8.6	上位に張りをもつ体部から屈曲し、直立して伸びる口縁部に至る。端部は欠損。口縁部に波状を有し、その上位に1条、下位に2条の凹部を有する。体部中段以下は欠損。 口縁部外側面カキ目、内面ヨコナダ、体部外側タタキ後回転ナダ、内面ナダ・彌留痕。	暗灰褐色	粗砂粒を少 量含む。	良好		
一六	壺 (土師器)	口 径 14.2 器 高 16.3	中位に最大径をもつ球形に近い体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。 口縁部外側面ナダ、内面ハケナダがヨコナダ 体部外側ハケナダ。	暗灰褐色	粗砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。	
一六	同上	口 径 17.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。端面には沈継が認められる。 口縁部外側面ヨコナダ、体部外側ハラナダ 内面ナダ。	暗灰褐色	4mm以下の 砂粒を多量 含む。	良好		
一五	同上	口 径 22.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。端面には沈継が認められる。体部中位以下は欠損。 口縁部外側面ナダ、体部外側ハケナダ、内面上位ハケナダ、中位指ナダ。	淡灰褐色	3mm以下の 砂粒を多量 含む。	良好	焼付着。	

## 包含層

遺物番号 回収番号	器種	法量 (cm)	口徑 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
一五	杯蓋 (須恵器)	口 径 14.4 器 高 5.0 後 径 13.6 天井部高 1.9 つまみ径 3.3	やや深く丸みをもつ天井部から外下方へド る口縁部に至る。端部は内傾する凹面をもつ。 天井部上面の中央部には偏平なつまみが付く。 縁は鋸く夷り、下方に沈継が認められる。体 部中位以下は欠損。 天井部外側面回転ヘラ削り後回転カキ目、内 面凹張タタキ、他は回転ナダ。	灰青色	6mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。	
一六								

遺物番号 図版番号	器種	法蓋 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
157 一六	杯蓋 (瓶蓋)	口径 器高 4.6 4.7	低く丸みをもつ大井部から下外方へ下るL字 縫部に至る。端部は丸い。縫はない。 天井部外圓約1/4回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰青色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。 ヘラ記号。
158 一六	同上	口径 器高 14.4 3.9	低く丸みをもつ大井部から下外方へ下るL字 縫部に至る。端部は丸い。縫はない。 天井部外圓約1/4回転へラ削り、他は回転ナダ。	淡灰青色	5mm以下の 砂粒の少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
159	同上	口径 器高 14.6 4.5	やや深く丸みをもつ大井部から下外方へ下る L字縫部に至る。端部は丸い。縫はない。 天井部外圓約1/4回転へラ削り、他は回転ナダ。	外 灰青色 内 灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。 飛化鉄附着
160	同上	口径 器高 14.8 4.6	やや深く丸みをもつ大井部から下外方へ下る L字縫部に至る。端部は丸い。縫はない。 天井部外圓約2/5回転へラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
161	杯身 (瓶身)	口径 器高 10.9 4.2 立ち上がり高 1.0 受部径 13.1 底体部高 3.1	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ外反気味に伸び、端部は丸い。 底体部外圓約1/5回転へラ削り、他は回転ナダ。	外 灰色 内 青灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
162 一六	同上	口径 器高 10.8 4.8 立ち上がり高 0.8 受部径 11.7 底体部高 4.0	深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受 部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外圓約1/5回転へラ削り、他は回転ナダ。	外 灰色 内 淡灰色	5mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
163	同上	口径 器高 11.6 4.1 立ち上がり高 1.3 受部径 14.4	やや深く平らな底体部から受部に至る。受 部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外圓約1/5回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰色	0.5mm以 下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
164	同上	口径 立上がり高 12.8 1.2 受部径 15.0	やや深く丸みをもつと思われる底体部から 受部に至る。受部はほぼ水平に伸び、端部は 丸い。立ち上がりは上内方へ外反気味に伸び、 端部は丸い。 底体部外圓約1/5回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰青色	5mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。
165	同上	口径 立上がり高 12.4 1.1 受部径 14.8	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ伸び、端部は丸い。 底体部外圓約1/5回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰青色-暗 灰色	0.5mm以 下の 砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
166	同上	口径 器高 12.8 4.5 立上がり高 1.3 受部径 15.6 底体部高 3.2	やや深く平らな底体部から受部に至る。受 部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ外反して伸び、端部は丸い。 底体部外圓約1/5回転へラ削り、他は回転ナダ。	外 灰色 内 暗灰色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ右方 向。
167	同上	口径 立上がり高 12.6 1.4 受部径 15.2	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。 受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がり は上内方へ直線的に伸び、端部は内側する 面をもつ。 底体部外圓約1/5回転へラ削り、他は回転ナダ。	青灰色	2mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	ロクロ左方 向。 自然釉。

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm) 口径 器高	形態・裏空等の特徴	色調	治土	焼成	備考
168 (瓶)	杯身	口 径 13.8 器 高 4.7 立ち上がり高 1.2 受部径 15.8 底体部高 3.2	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。底体部外周約1/2回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
169	同上	口 径 12.6 器 高 4.5 立ち上がり高 1.0 受部径 15.0 底体部高 3.3	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。底体部外周約1/3回転へラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	5mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。 袋付着。
170	同上	口 径 12.2 器 高 4.5 立ち上がり高 0.8 受部径 14.8 底体部高 3.6	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。底体部外周約1/4回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方向。
171 一六	同上	口 径 13.2 器 高 4.4 立ち上がり高 1.3 受部径 15.4 底体部高 3.2	やや深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ反対性に伸び、端部は丸い。底体部外周約1/2回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡灰青色	1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。
172	同上	口 径 14.4 器 高 3.9 立ち上がり高 1.2 受部径 16.6 底体部高 2.7	やや浅く平らに近い底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ直線的に伸び、端部は丸い。底体部外周回転へラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	1mm以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ右方向。 不別。 自然釉。
173 一六	同上	口 径 14.0 立上がり高 1.4 受部径 16.6	深く丸いと思われる底体部から受部に至る。受部は断面三角形を呈し、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ伸び、端部は内側を下側を裏て裏体部外周回転へラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2mm以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ右方向。
174	同上	口 径 14.4 立ち上がり高 1.0 受部径 17.2	深く丸みをもつ底体部から受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上内方へ外反して伸び、端部は丸い。底体部外周回転へラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	3mm以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ左方向。
175	高杯 (須恵器)	脚底径 15.0	脚部は欠損。脚部は下外方へ貰反して下り、端部は外傾する凹面をもつ。脚部には2段の長方形スカシがあり、不規則に4方分られる。端部の外側付近には2条の凸縁が走る。また上下のスカシの間にも1条の凸縁が走る。脚部外側に2段の網突文、内面回転ナデ。	灰青色	2mm以下の砂粒を多量含む。	良好	ロクロ右方向 小形。
176	壺 (土師器)	口 径 17.0	上位に最大伴をもつ球形の体部から屈曲し、赤茶色 上外方へ外反気味に伸びる口部部に至る。端部は外に肥厚し、上に面をもつ。底部は欠損。 上縁部内外回転ヨコナダ、体部外側ナデ。	3mm以下の砂粒を多量含む。	良好	爆形。	

### 第3章 まとめ

今回の調査は、八尾市竹渕に所在する市立竹渕小学校敷地内の校舎立替え工事に伴う発掘調査である。当該地は龜井遺跡の東部に隣接することから、八尾市教育委員会が試掘調査を実施したことによって遺跡の存在が明らかになった遺跡である。

発掘調査では、古墳時代後期の集落遺構の一部が検出された。遺構は竪穴式住居1棟・土坑・小穴・溝等で、これらの遺構内から遺物が多く出土している。

今回の調査で検出した古墳時代後期（6世紀初頭～中葉）の集落遺構は、西部に近接する龜井遺跡との関連が考えられる。

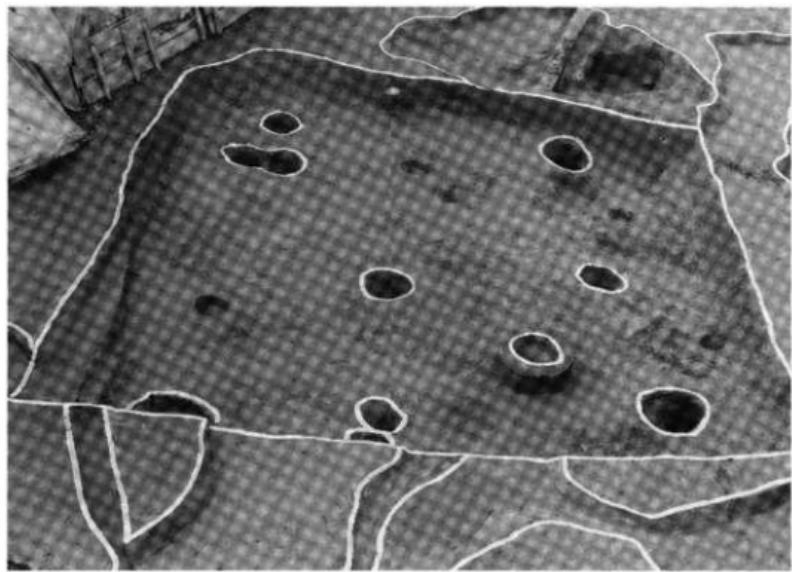
出土遺物では、特に須恵器が多量に出土している。時期は蓋杯の形態的特徴から、陶邑編年（中村浩氏）によるとII型式1～3段階に比定されると考えられる。また、少量であるが土師器が出土している。この土師器の中では特に甌と羽釜があげられる。甌（121）は、形態的特徴は各地域で普遍的に出土されているが、体部の一部に若干こことにする。体部には、体底部付近より螺旋状を描きながら口縁部に至る径約8mmを測る円孔が約5～7cmの間隔で穿孔している。この円孔の調整は、八尾市内の発掘調査でははじめての出土例ではないかと考えられる。羽釜は、体部が胴長で、口縁部付近にやや下外方する鋸が廻らしている。口縁部は鋸のやや上で屈曲し、大きく外上方する。端部は丸く終わるの形態的特徴をもつ。この形態は、6世紀後半～7世紀初頭に出土している羽釜の形態に類似するが、検出した溝（SD1）の時期は多量に出土した須恵器から6世紀初頭～中葉に位置付けられるものであり、ここで出土した羽釜の時期が若干遅るのではないかと考えられる。例えば、6世紀後半～7世紀初頭で出土している遺跡は、大樹遺跡・美園遺跡・発志院遺跡等があげられる。

以上、調査の結果について述べてきたが、今回の調査が竹渕遺跡での最初の発掘調査であり当遺跡の全体像や性格等については今後の発掘調査の成果と研究に委ねたい。

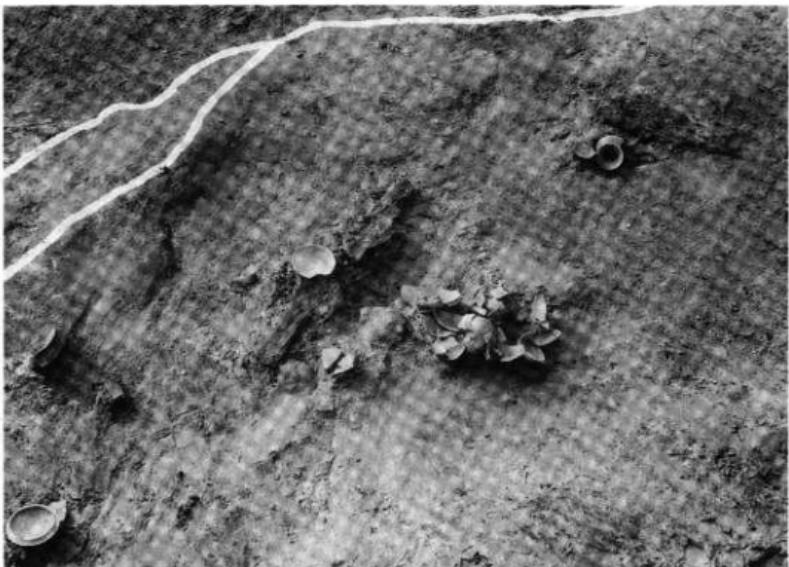
# 図 版



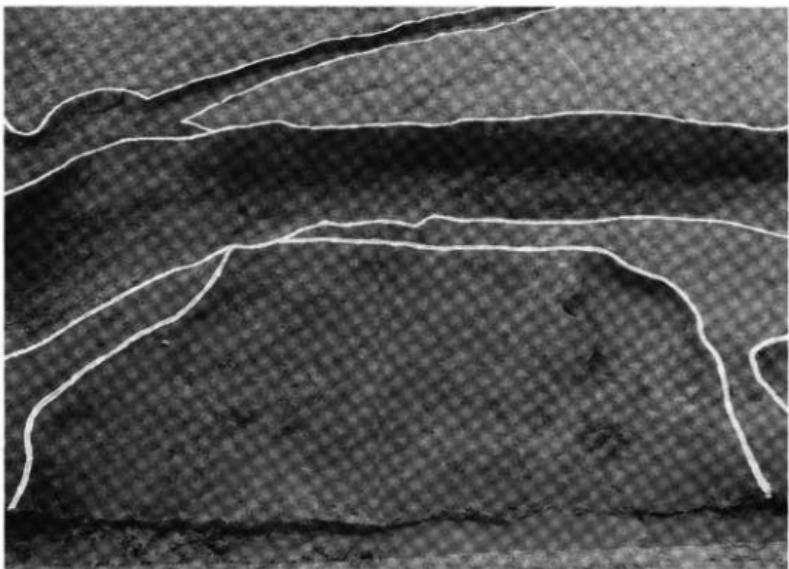
1. 調査区全景(南から)



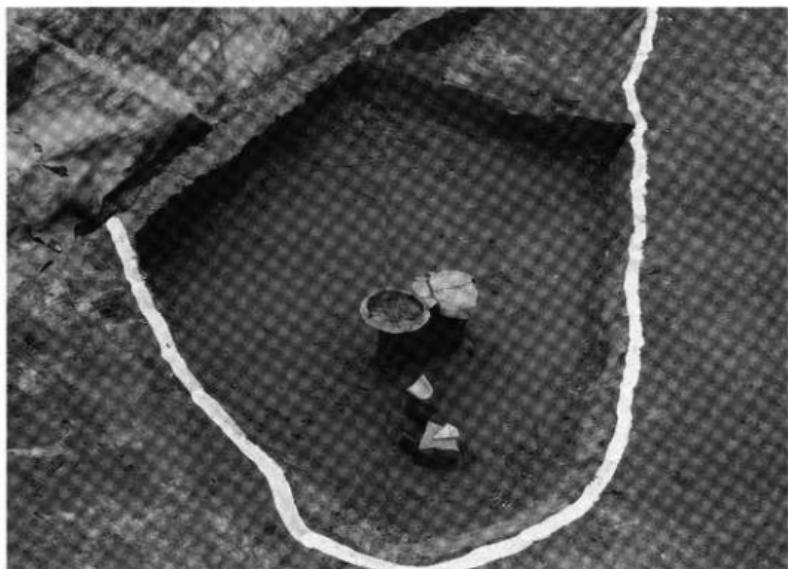
2. SK1 (南東から)



1. SK1 遺物検出状況(東から)



2. SK1 実掘(東から)



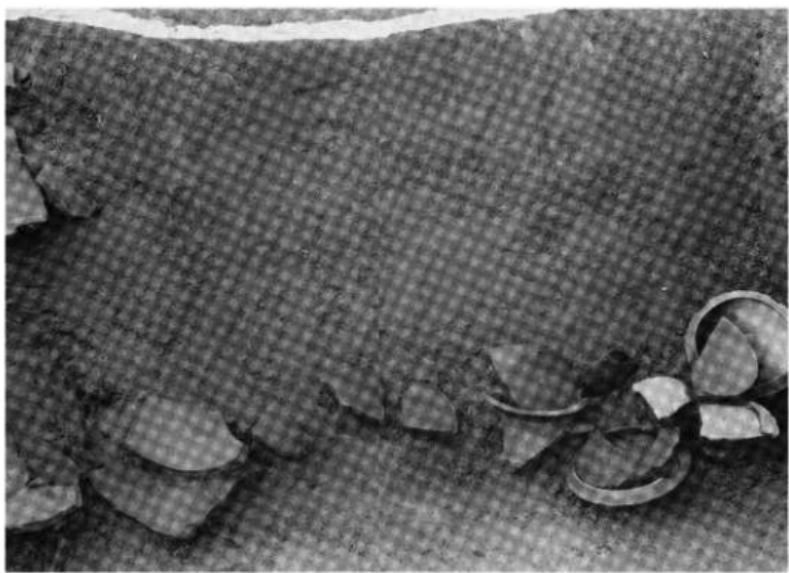
1. SK8遺物検出状況(南東から)



2. SD1遺物検出状況(南東から)



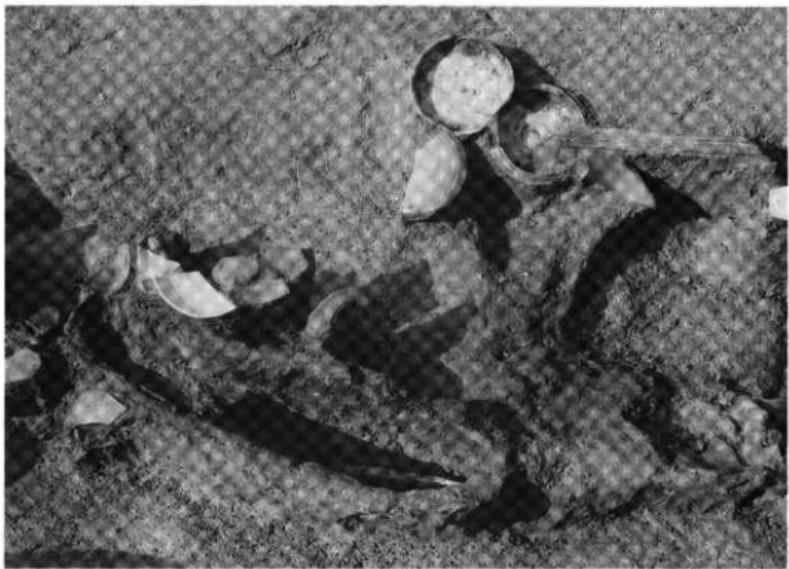
1. SD1南部遺物検出状況(南から)



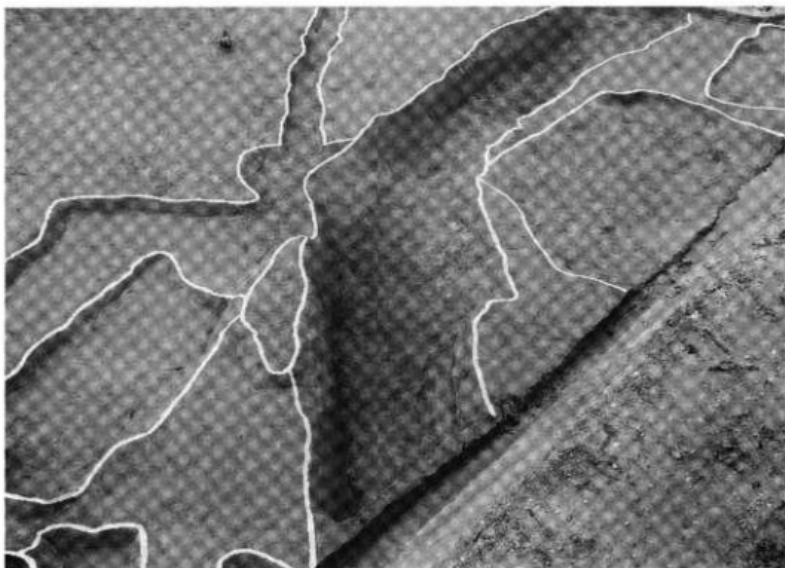
2. SD1中央よりや南部遺物検出状況(東から)



1. SD1中央部遺物検出状況(東から)



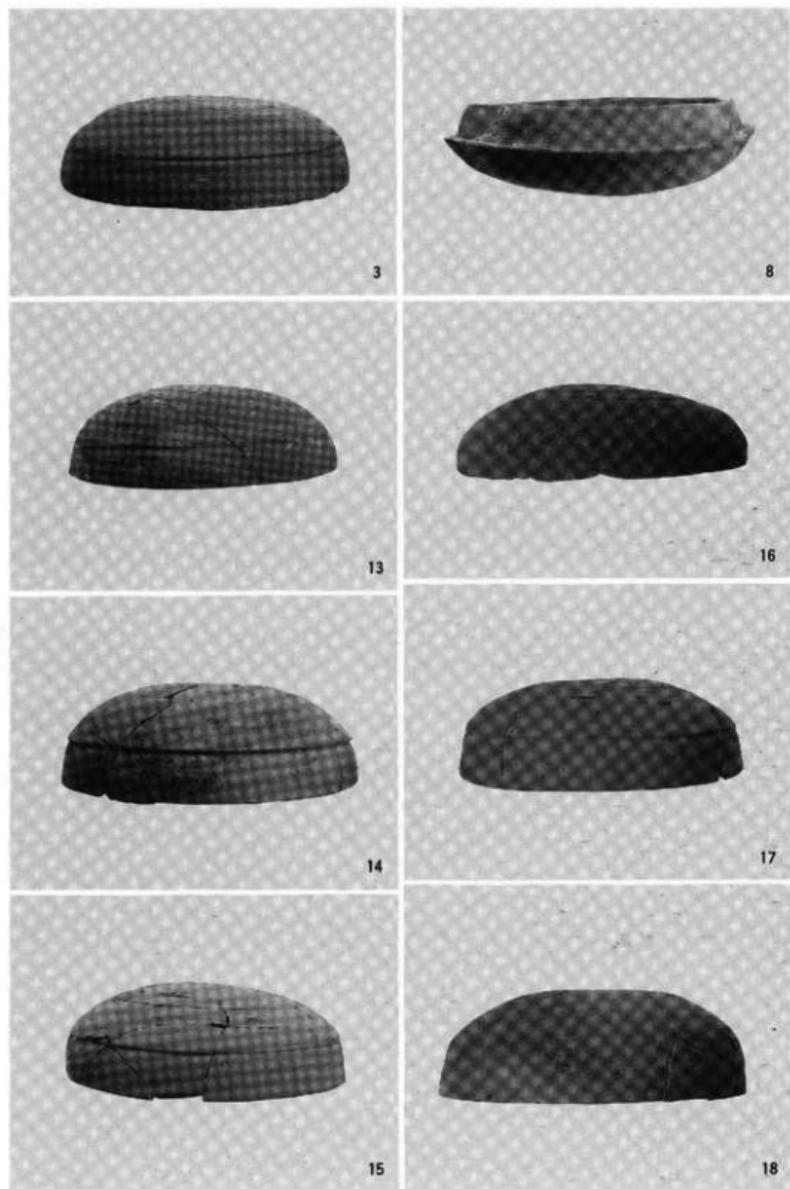
2. SD1中央部遺物検出状況(東から)



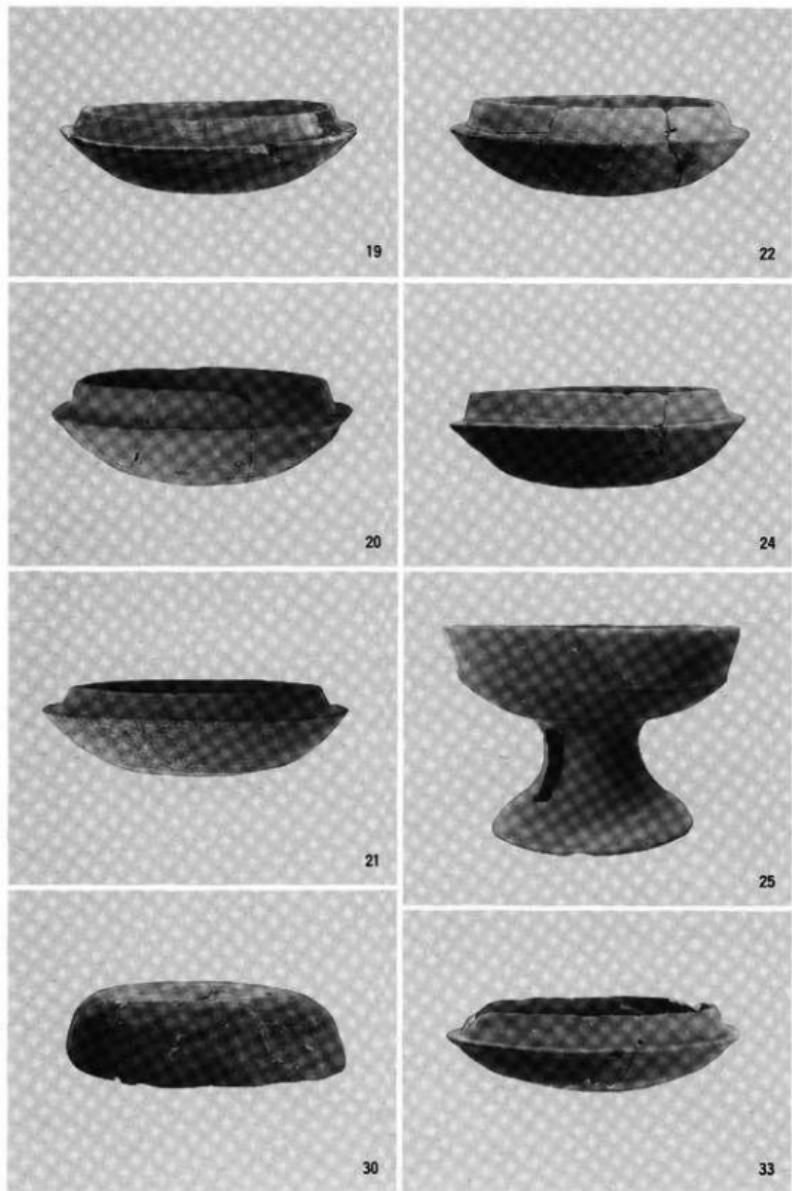
1. SD1発掘(南東から)



2. SD2中央部遺物検出状況(東から)

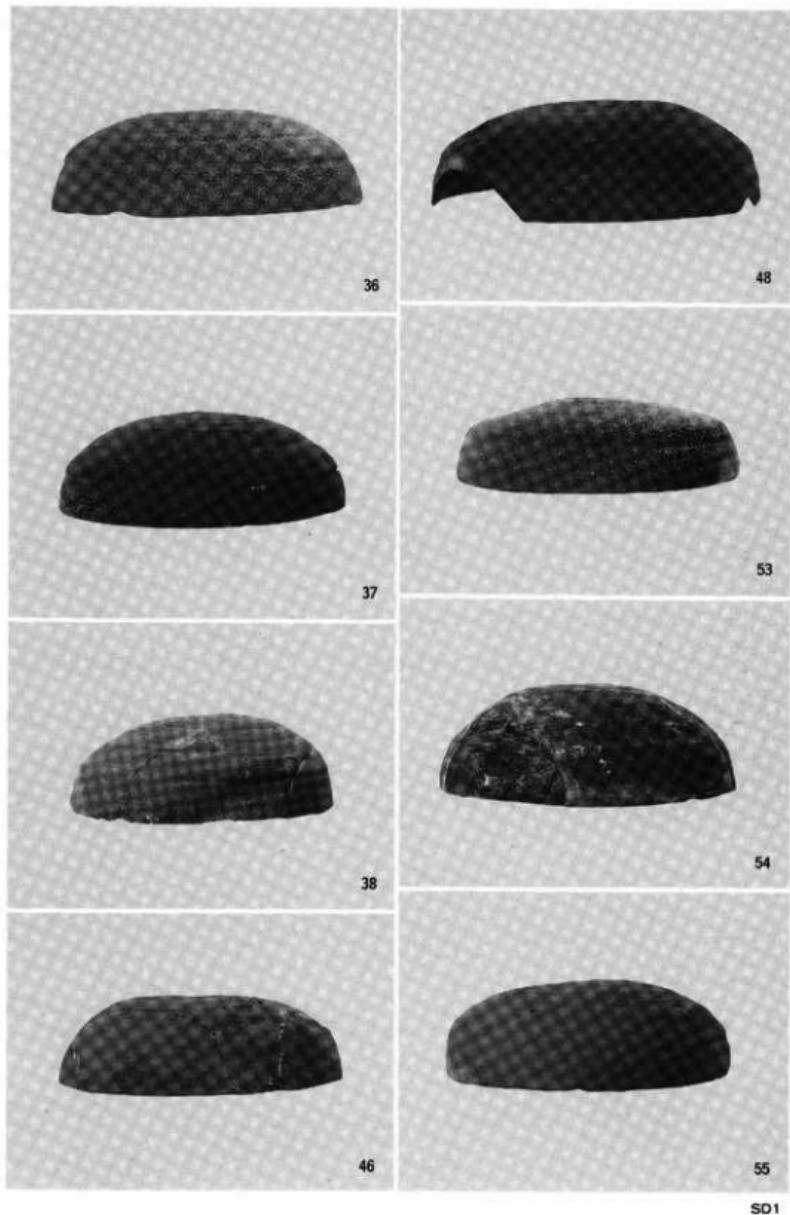


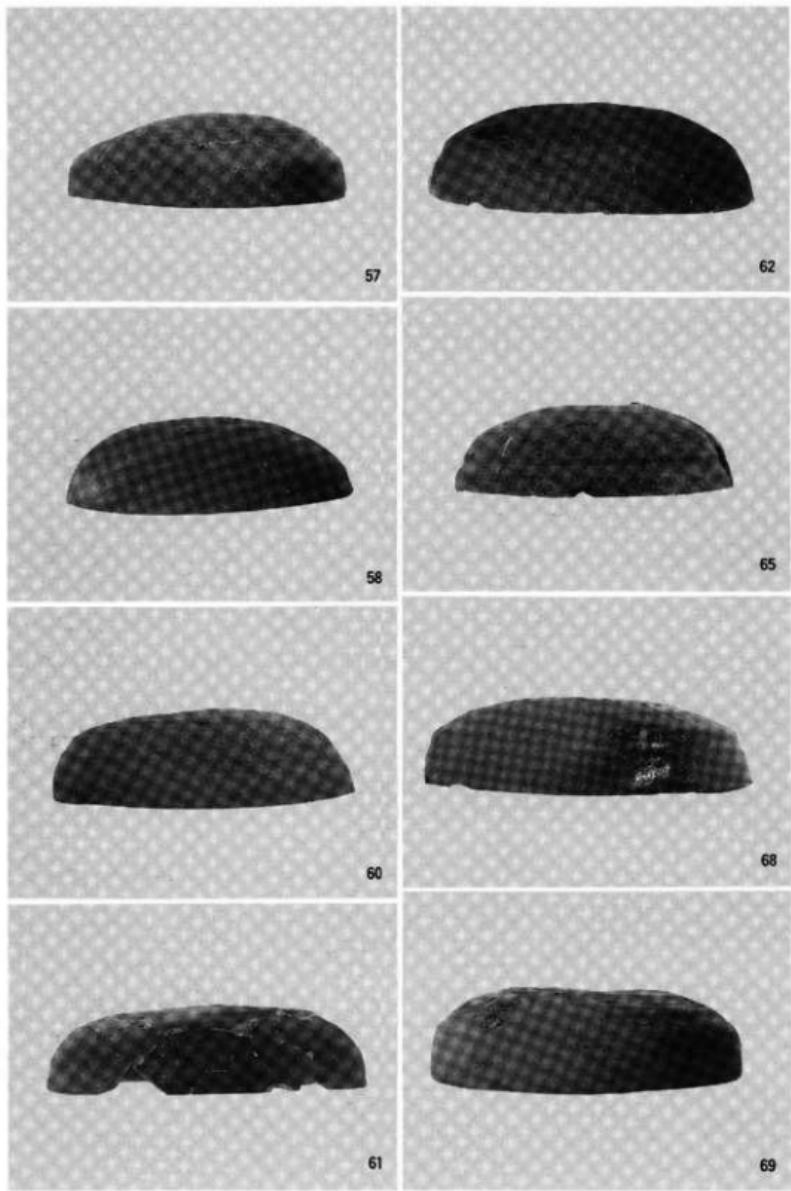
SI1 3・8  
SK1 13~18



SK1 19~22・24・25

SK8 30・33







71



80



72



81



77



83

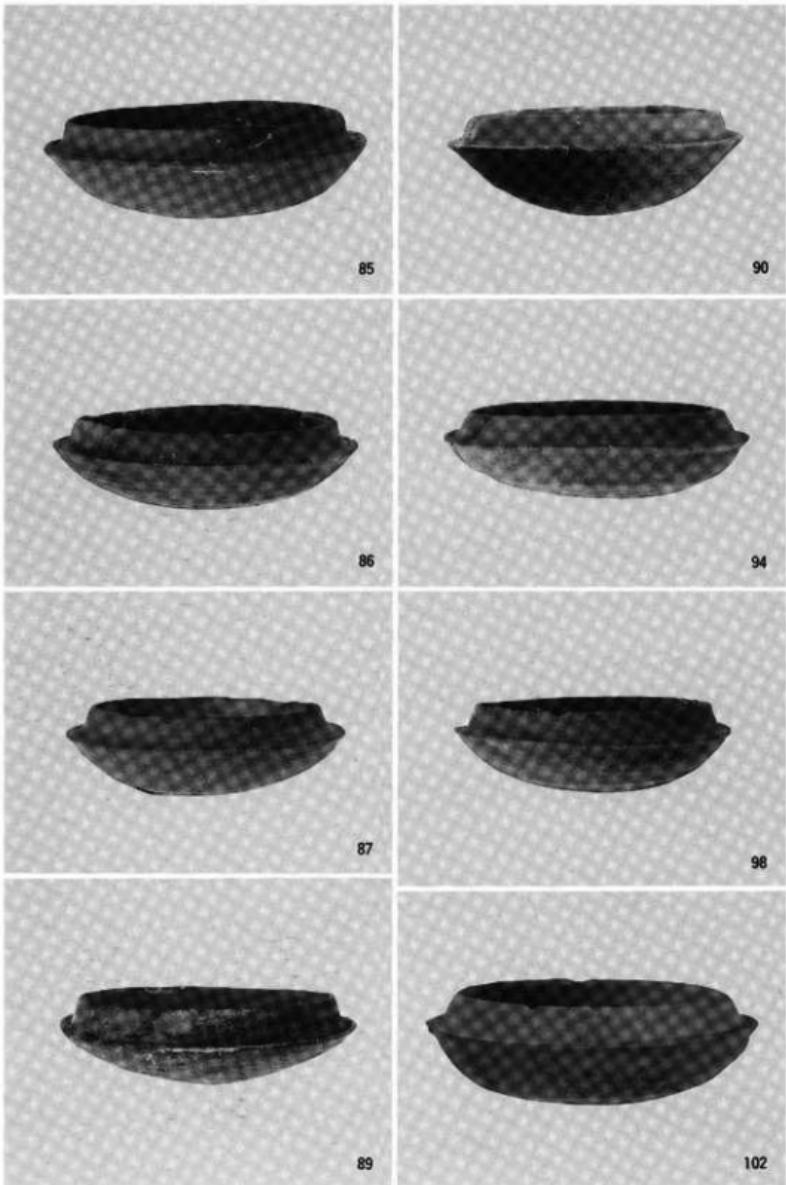


79

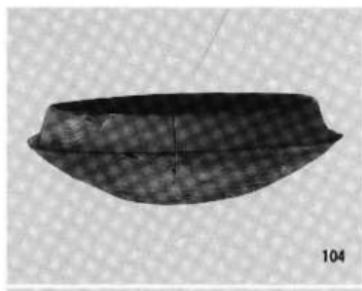


84

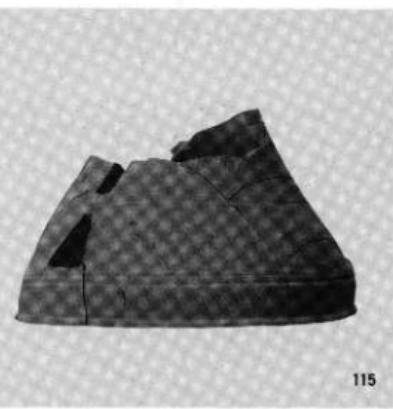
SD1



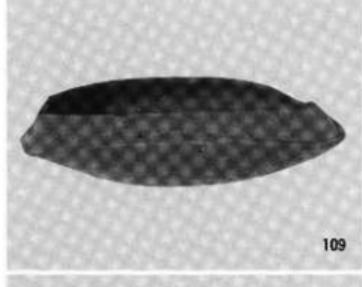
図版一三 出土遺物



104



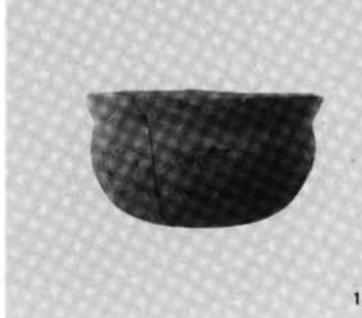
115



109



116



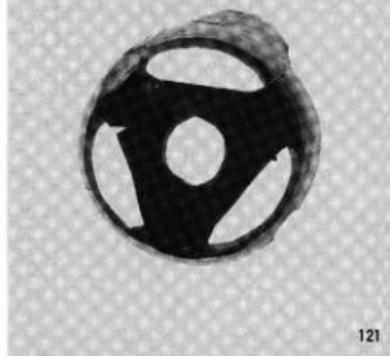
117



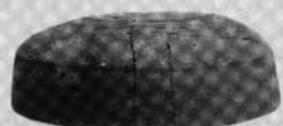
118

SD1

圖版一四 出土遺物



SD1



138



149



140



150



141



151



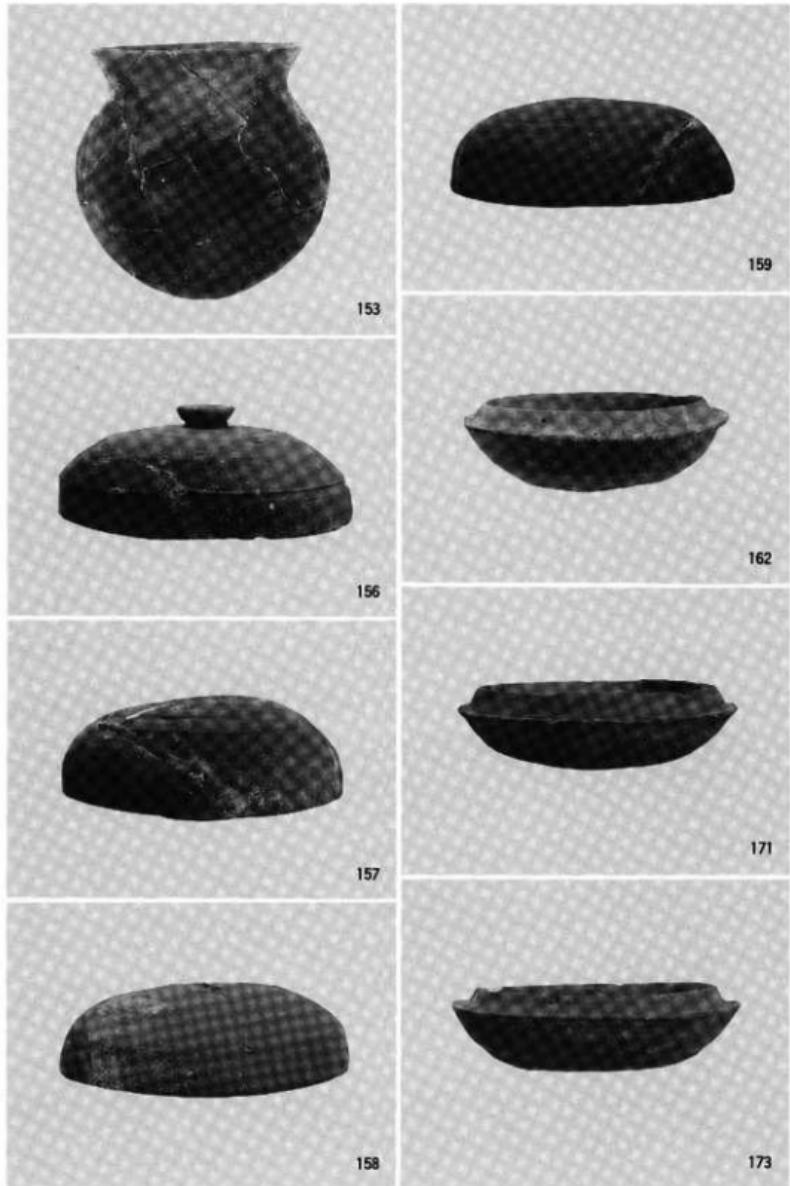
144



152

SD2

図版一六 出土遺物



遺構に伴わない出土遺物

III 恩智遺跡（第1次調査）

## 例　　言

- 1、本書は、八尾市恩智北町1丁目51番地内で実施した共同住宅建設に伴う発掘調査の報告である。
- 1、本書に報告する恩智遺跡（第1次調査）の発掘調査業務は、財團法人八尾市文化財調査研究会が松岡亀雄氏から委託を受けて実施したものである。
- 1、現地調査は昭和60年5月9日から6月8日にかけて、高萩千秋を担当として実施した。調査面積は380m<sup>2</sup>を測る。なお、調査においては笠井伸彦・山西嘉彦・西森忠幸・徳谷光貞・中野健太郎が参加した。
- 1、内業整理は、現地調査終了後実施し、平成元年9月に刊行した。
- 1、本書に関わる業務は、遺物実測—笠井・徳谷・西森・高井裕之、図面レイアウト—乾（旧姓木曾）直美・村田英子・村田圭子、図面トレークス—岩本多賀子・村田（英）、遺物写真撮影—高萩が行った。
- 1、本書の執筆は主に高萩が担当したが、第3節 出土遺物観察表については村田（英）が担当した。
- 1、全体の編集は高萩が行った。

## 本　文　目　次

第1章 はじめに.....	53
第1節 調査に至る経過.....	53
第2節 地理・歴史的環境.....	54
第3節 調査の方法と地区割.....	56
第2章 調査の結果 .....	57
第1節 基本層序.....	57
第2節 検出遺構・出土遺物.....	58
1) 古墳時代前期.....	59
2) 古墳時代中期.....	64
3) 遺構に伴わない遺物.....	67
第3節 出土遺物観察表.....	86
第3章 まとめ .....	111

## 挿 図 目 次

第1図 調査地位置図.....	53
第2図 調査区配図及び区割図.....	56
第3図 基本層序柱状図.....	57
第4図 遺構平面図.....	58
第5図 SK1 平断面図.....	59
第6図 SK1 出土遺物実測図.....	60
第7図 SK1 出土遺物（石器）実測図.....	61
第8図 SD1・SD2 検出遺物平面図.....	62
第9図 SD1 出土遺物実測図1 .....	63
第10図 SD1 出土遺物実測図2 .....	64
第11図 SD2 出土遺物実測図1 .....	65
第12図 SD2 出土遺物実測図2 .....	66
第13図 遺構に伴わない出土遺物実測図1 .....	69
第14図 遺構に伴わない出土遺物実測図2 .....	70
第15図 遺構に伴わない出土遺物実測図3 .....	71
第16図 遺構に伴わない出土遺物実測図4 .....	72
第17図 遺構に伴わない出土遺物実測図5 .....	73
第18図 遺構に伴わない出土遺物実測図6 .....	74
第19図 遺構に伴わない出土遺物実測図7 .....	75
第20図 遺構に伴わない出土遺物実測図8 .....	76
第21図 遺構に伴わない出土遺物実測図9 .....	77
第22図 遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図10.....	78
第23図 遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図11.....	79
第24図 遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図12.....	80
第25図 遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図13.....	81
第26図 遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図14.....	82
第27図 遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図15.....	83
第28図 遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図16.....	84
第29図 遺構に伴わない出土遺物（石器）実測図17.....	85

## 表 目 次

第1表 既往調査一覧表.....	55
第2表 SK 1 サヌカイト剥片の法量一覧表.....	60
第3表 遺構に伴わない出土遺物（石器類）の法量一覧表.....	67

## 図 版 目 次

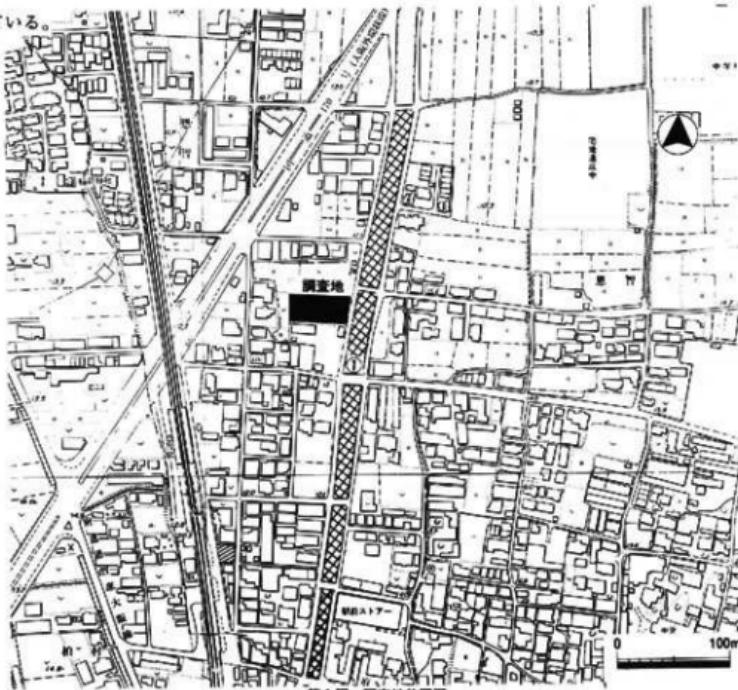
図版 一	調査区全景（東から）
	SK 1（東から）
図版 二	SK 1 検出遺物（西から）
	SD 1・SD 2（南から）
図版 三	SD 1（北東から）
	SD 1（東から）
図版 四	SD 2（西から）
	SD 2（東から）
図版 五	SD 2（西から）
	SD 2（南から）
図版 六	SD 2（南から）
	土器出土状況（東から）
図版 七	出土遺物 SK 1
図版 八	出土遺物 SD 1
図版 九	出土遺物 SD 1 52・53・55 SD 2 57・64～67
図版一〇	出土遺物 SD 2
図版一一	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
図版一二	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
図版一三	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
図版一四	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
図版一五	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
図版一六	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
図版一七	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
図版一八	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
図版一九	出土遺物 遺構に伴わない出土遺物

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経過

今回の調査は、八尾市恩智北町1丁目51番地内の共同住宅建設に伴う発掘調査である。当遺跡は、「恩智中町3丁目に所在する「天王の社」の周辺から遺物の散布地として知られ、梅原末治・島田貞彦の両氏が大正6年（1917）7月に初めて踏査して弥生時代の遺物を検出されている。そして同年8月に鳥居龍藏氏の試掘調査（「天王の社」の南西約200mの字茶の木地区付近）が行われ、多数の弥生式土器を検出された。その後も戦前までにいくつかの調査が行われ、これらの成果に基づいて昭和18年（1943）に「天王の社」の一角に『恩智石器時代遺跡』の顕彰碑が建てられている。

その後、戦後も小規模ではあるがいくつかの調査が実施され、多量の遺物が出土している。この様な中、昭和53年恩智川河川改修工事に伴う大規模な発掘調査が実施される（①）。その結果、縄文式土器や弥生時代から古墳時代の遺構・遺物が多量に出土された。また、この調査地の東部に隣接する共同住宅建設に伴う発掘調査でも縄文式土器・弥生式土器が多量に出土されている。



第1図 調査地位置図

今回の調査地は、恩智川河川改修工事に伴う発掘調査報告に記載されている区割図のNW46～NW48地区の道路を隔てた西側に隣接する箇所であり、埋没した遺跡が予想された。八尾市教育委員会は、昭和60年2月22日に建築工事によって破壊される部分に対し、試掘調査を実施した。その結果、現地表下約1.5～1.8mを測る土層内に古墳時代前期から後期の遺物包含層が確認された。この為、八尾市教育委員会は事業者と協議を行った結果、若干の設計変更を行い、出来る限り遺跡を保護する事になり、地下構造によって破壊される部分だけを発掘調査することになった。

当調査研究会は八尾市教育委員会の指示により、事業者を交えて発掘調査の実施と方法について三者協議を重ね、当調査研究会の協定書の契約を締結した。発掘調査の期間は昭和60年5月9日～6月10日まで実施した。調査面積は約284m<sup>2</sup>である。

内業整理は、当調査研究会分室において、出土遺物の整理作業及び報告文作成業務などを実施した。

## 第2節 地理・歴史的環境

恩智遺跡は、現在の行政区画では八尾市恩智北町・恩智中町・恩智南町の一帯に所在する縄文時代から中世に至る複合遺跡で、古くから多量の遺物が出土される区域として有名である。

当遺跡の立地は、東に生駒山地の高安山・信貴山の西麓に広がる扇状地の末端部と沖積地（狭義でいう河内平野）の交わる標高10～15mの地点に位置している。この間を旧大和川の中小河川の一つである恩智川が縱断するように南から北へ流れている。

当遺跡と同一地形上には、南に八尾市の神宮寺遺跡・柏原市の大平寺遺跡・安堂遺跡、北に八尾市郡川遺跡・水越遺跡・大竹遺跡・楽音寺遺跡等と、古墳時代に築造された墳墓が数多く存在する。八尾市域では、前期が西の山古墳・花岡山古墳（現在はなく大阪経済法科大学の敷地となる）・向山古墳、中期が心合寺山古墳・鏡塚古墳・中谷山古墳、後期が愛后塚古墳・郡川東塚古墳・郡川西塚古墳、生駒山西麓の斜面には大阪府下最大の規模をもつ群集墳で知られる高安古墳群が存在している。

当遺跡に位置する扇状地上は、後期旧石器時代の石器が出上している東大阪市の山畠遺跡・正興寺山遺跡等が存在するが、人々が定住し始めたのは縄文時代からと考えられている。縄文時代早期では押型文土器が出上している八尾市の神宮寺遺跡・枚方市の穂谷遺跡・大東市の寺川堂山遺跡・中垣内遺跡等があげられる。前期は前記の他に当遺跡がこの時期からはじまる。中期になると、東大阪の縄手遺跡・馬場川遺跡が新たに出現し、晚期まで継続して存在する。縄文時代後期になると、急激に増え扇状地上の全体に広がるようになる。東大阪市の日下貝塚遺跡・鬼塚遺跡・芝ヶ丘遺跡、四条畷市の岡山再荒寺遺跡が追加される。八尾市では遺物包含層を確認している楽音寺遺跡、後期から晩期頃の石鎧・石刀等が採集されている水越遺跡があげられる。またこの時期は柏原市と藤井寺市に跨がる船橋遺跡が晩期の標識遺跡として知られている。

弥生時代には、水稻農耕の伝播により大きな変革が起り、河内地方の集落が生駒山西麓の扇状地から河内平野の低平地にも、農耕集団の集落が現れようになる。八尾市では亀井遺跡・山賀遺跡・美園遺跡等が前期から始まる。その後、急激に低平地に集落が営まれているようになり、弥生時代後期から古墳時代前期ではより活発になる。この時代の扇状地上でも古墳時代に入ると前述した古墳時代の墳墓が多く築造された。

歴史時代は、大化の改新以降、律令制国家体制のもとで、土地区画による条里制で郡郷の制が行われた。当該地は河内国高安郡坂本郷に属す。また、延喜式内社に入る恩智神社が鎮座する。奈良時代には交通の要衝として東高野街道（現在の旧国道170号線）が縱断して南北に通る。

第1表 恩智遺跡の既往調査一覧表

調査年月	調査場所	調査原因	調査主体	主な検出遺物・出土遺物	文献
大正6年7月 (1917)	恩智中町3丁目	——	京都大学(梅原末治・島田貞彦)	弥生時代前期～後期の土器・石器類の出土。	註1
大正6年8月 (1917)	恩智中町3丁目 (字茶の木)	——	鳥居龍藏	弥生式土器・石器類出土。	註2
大正7年 (1918)	安養寺山(通称 櫛塚山)	耕作上作業中	——	流水鋼錠(外様付式)出土。	註3
昭和14年 (1939)	恩智中町3丁目	史前遺跡調査事業	藤岡謙二郎	弥生時代前期～後期の出土・石器。古墳時代の須恵器。	註4
昭和16年 (1941)	「天王の社」 (北側)(詳細不明)	井戸掘削作業中	——	人骨・绳文式土器出土。	註5
昭和24年 (1949)	安養寺山(通 称櫛塚山)	耕作上作業中	——	表袋・文鏡錠(扁平式)出土。	註3
昭和49年12月 (1974)	恩智中町3丁目	八尾市消防署 用水貯水槽設置	八尾市教育委員会	縄文時代晩期の土器。弥生時代前期～後期の土器出土。	註6
昭和50～53年 (1975～77)	恩智中町～北側	恩智川河川改修工事	瓜生堂遺跡調査会	弥生時代前期～後期の土器と木棺墓・土坑・溝等。古墳時代前期の井戸・溝等。	註7
昭和51～53年 (1976～78)	恩智中町3丁目 240・245	マンション建設	八尾市教育委員会	弥生時代中期の遺構と土器が多量に出土。	——
昭和54年 (1979)	恩智中町2丁目 94	天理教会宿舎増築	八尾市教育委員会	弥生時代の遺構・土器。	——
昭和58年2月 (1983)	恩智中町2丁目 265	個人住宅建設	八尾市教育委員会	弥生時代前期の土坑。	註8
昭和59年6月 (1984)	恩智中町3丁目 214	個人住宅建設	八尾市教育委員会	弥生時代の遺構検出。	註9
昭和59年6月 (1984)	恩智中町1丁目 77-2	銀行建設	八尾市教育委員会	弥生時代中期の遺構検出。	註9

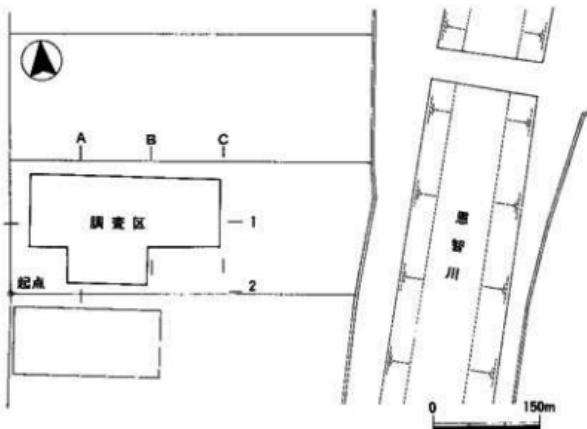
## 註

- 註1 梅原末治・島田貞彦「河内国石器時代遺跡発掘報告書」『京都大学文学部考古学研究報告』第2卷1923  
 註2 鳥居龍藏・岩井武俊「石器時代遺跡調査(15)」大阪毎日新聞大正6年8月12日付(1917)  
 註3 梅原末治「銅錠の研究」1926  
 註4 藤岡謙二郎「中河内郡高安村恩智跡牛式遺跡」『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告』第12回1941  
 註5 今里義次「河内恩智の織文土器」『日本考古学』1-3 1948  
 註6 山本昭・泉本知秀・福岡澄治「八尾市恩智遺跡の出土遺物について」『大阪文化誌』第2卷1号1976  
 註7 瓜生堂遺跡調査会「恩智遺跡I・II」1980と「恩智遺跡II」1981  
 註8 八尾市教育委員会「八尾市内遺跡昭和57年度発掘調査報告書」1983  
 註9 八尾市教育委員会「八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書」1985

### 第3節 調査の方法と地区割

調査は、建設基礎工事によって破壊される部分に対し調査区を設定した。調査区の掘削はまず、現地表下0.4～0.5mの厚みの土壌を機械による掘削で外部へ搬出した（これは、事業者の要望から耕土の土壌を再利用するためである）。そして、土壌の搬出終了後、再びその下の土層について再度機械による掘削を実施し、八尾市教育委員会の試掘結果による約1～1.2mの土層（古墳時代後期の遺物包含層）の上面までを掘り下げた。これより以下の土層については人力による掘削・精査を実施した。

地区割は調査区の機械掘削後、当調査地の土地区画がされている南西部コーナー部の境界杭を起点にし、南北軸の方向はその北西部コーナー部の境界杭に合せて東西40m、南北50mの調査区範囲に10mの方眼に割付けた。調査区名は、南北線がアルファベット、東西線が数字を付称した。なお、区名の表示は、調査区内で割付けを行った一区画（10m角）の中央線上に交差する東部の南北線を用い、A 1～C 3と付称した。



第2図 調査区配置図及び区割図

## 第2章 調査の結果

### 第1節 基本層序

当調査区では、発掘調査前まで農地として耕されていた土地であり、埋没土層が比較的に荒らされず、現在まで良好に遺存していた。

以下、今回の調査区内で現地表面から約2.5mまでに存在する土層内から普遍的にみられる11層を抽出して基本土層とした。現地表面は標高10.2mを測る。

第1層 耕土：層厚20~30cm。現在まで耕さ

れていた土層である。

第2層 床土：層厚30~40cm。耕土の床土で  
ある。内部には近世以前の摩滅した  
土器片がごく少量含まれている。

第3層 揭灰色粗砂混粘質土 (7.5 G Y5/1)  
：層厚10~20cm。この上面から切込  
む土坑状の窪みがいくつか見られた。

第4層 暗青灰色~暗黄褐色細砂 (10 B G  
4/1 ~ 2.5 Y G 6/1)：層厚30~50cm。  
この土層は中世の時期の氾濫によっ  
て堆積した土層である。この層内か  
ら中世の遺物に混じり、弥生時代中期（畿内第II~III様式）が多量に含まれていた。

第5層 青灰色粘土 (10 B G 5/1)：層厚5~10cm。粘性のある上層である。

第6層 暗青灰色粘土 (5 B G 4/1)：層厚5~30cm。第5層と同様である。

第7層 青灰色粘質土 (5 B G 5/1)：層厚5~20cm。第5層よりやや粘性が弱い。

第8層 暗青灰色細砂混粘土 (10 B G 4/1)：層厚5~10cm。第5層と同様で、少量の砂粒が含  
まれる。

第9層 暗青灰粘質土 (10 B G 3/1)：層厚20~30cm。この土層内から古墳時代中期の遺物が含  
まれている。

第10層 青黒色細砂混粘土 (10 B G 2/1)：層厚30~50cm。この土層は東へ行くに従い厚く堆積  
する。西部では検出していない。内部には古墳時代前期（布留式古相）の遺物が含  
まれている。

第11層 暗緑灰色シルト (5 G 4/1)：層厚30cm以上。この上面から古墳時代前期の遺構が切込  
まれている。また、第10層上面からの切込みと考えられる後期の遺構をこの面で検出  
した。上面は標高8.2~8.6mを測る。

\* 土層の( )内の記号は、農林省農林水産技術会議事務局 監修 (財)日本色彩研究所  
色票監修『新版 標準土色帳』1976の色調記号である。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11

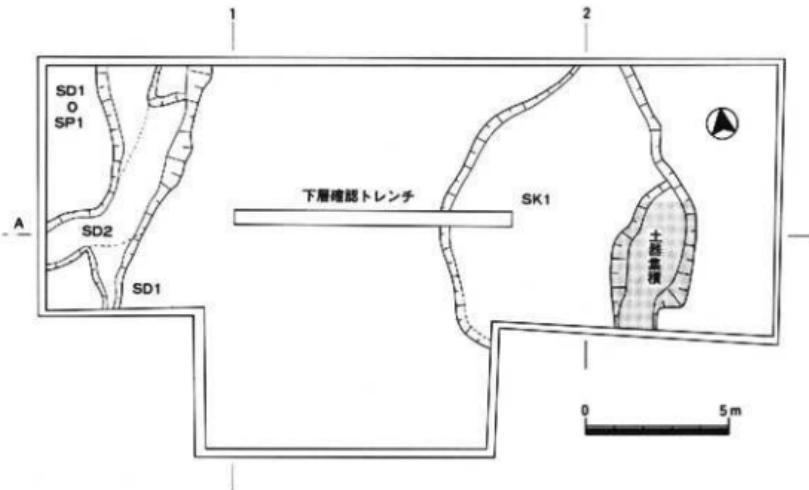
## 第2節 検出遺構と出土遺物

第11層の上面を調査面とした。その結果、この上面は調査区の中央部が微高地の高まりがあり、東部・西部へなだらかに傾斜して低くなっている。この斜面で古墳時代前期に比定される溝（西側斜面のSD1）・土坑（東側斜面のSK1）と古墳時代中期に比定される（西側斜面のSD2）・小穴（SP1）を検出した。微高地上では後世によって削平が受られたと考えられ、遺構や遺物包含層は検出しなかった。

第4層では、中世の時期の氾濫したと考えられる層厚0.3～0.5m（標高8.8～9.2m）の細砂の堆積層を確認した。この層内からは、中世の時期の土師質皿・瓦器碗などの遺物に混じり、弥生式土器（ほとんどの土器は畿内第II～III様式に比定される）が多量に出土している。

今回の調査で出土した遺物は、弥生式土器（畿内第II様式～畿内第V様式）・土師器・須恵器・瓦器などで、出土量はコンテナ箱にして約18箱分を数える。

以上、検出遺構と出土遺物について概説する。なお、個々の遺物の法量・形態的特徴などについては「第4節 出土遺物観察表」に詳細したので参照されたい。



第4図 調査区遺構平面図

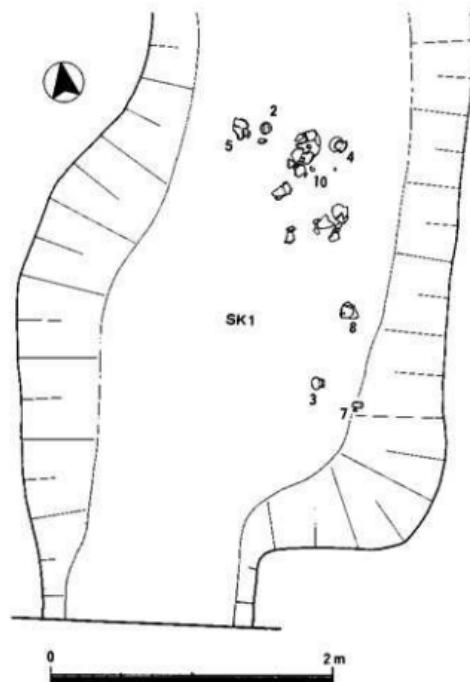
## 1) 古墳時代前期の遺構

## 上坑（SK1）

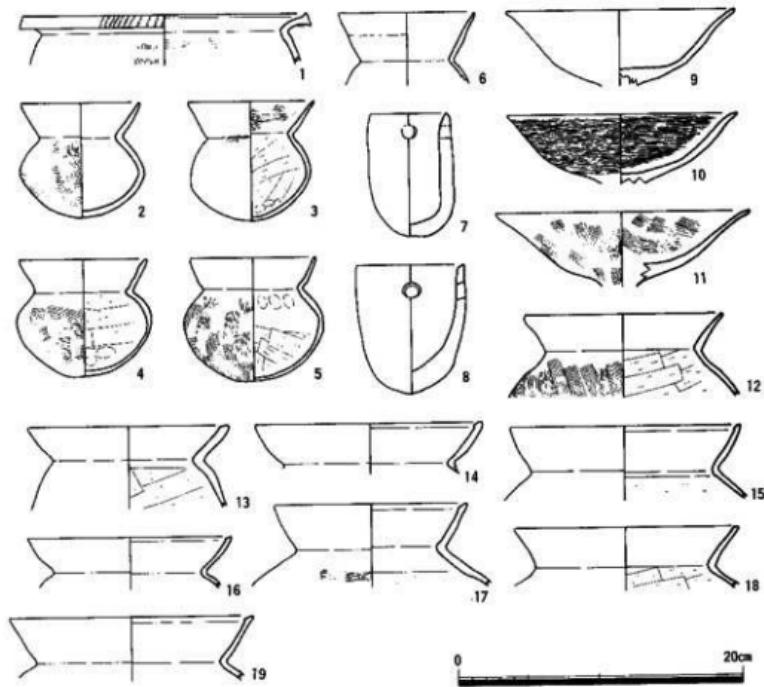
SK1

調査区の東部の第11層上面で検出した大きな土坑である。平面は不定形を呈し、東西9m、南北9.5m、深さ50cmを測る。断面は穏やかな逆台形を呈するが、東側の一部では急斜面で落ち込み深くなっている。内部には黒褐色砂泥粘土が堆積し、底面には若干の植物遺体が薄く沈殿している（第4図）。

遺物は、布留式古相に比定される土器が東側の底面上で集積していた。器種には小型丸底壺（2～6）・鉢壺（7・8）・高杯（9～11）・布留式壺（12～19）がある。その他には畿内第IV様式に比定される壺（1）やサスカイト製の刺片（20～26）が混入していた（第5図）。



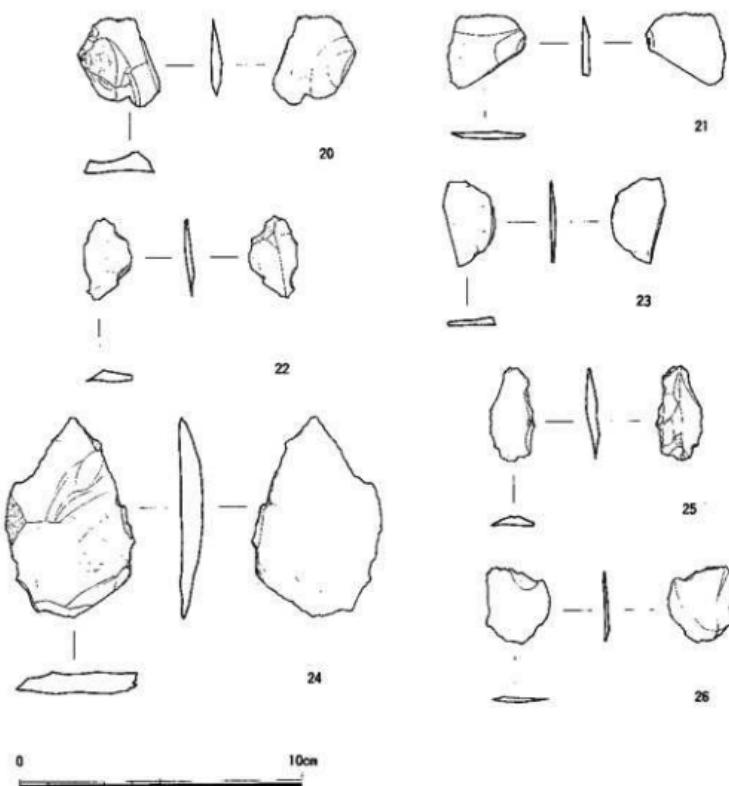
第5図 SK1検出遺物平面図



第6図 SK1出土遺物実測図

第2表 SK1サヌカイト剝片の法量一覧表

遺物番号	出土地区	縦(cm)	横(cm)	厚み(cm)	重さ(g)
2 0	b 2	3.1	2.5	0.4	5
2 1	b 2	2.5	2.7	0.2	4
2 2	b 2	1.7	2.8	0.2	2
2 3	b 2	3.0	1.7	0.2	1
2 4	b 2	7.1	4.1	0.8	27
2 5	b 2	1.5	3.3	0.3	2
2 6	b 2	2.5	2.2	0.1	2

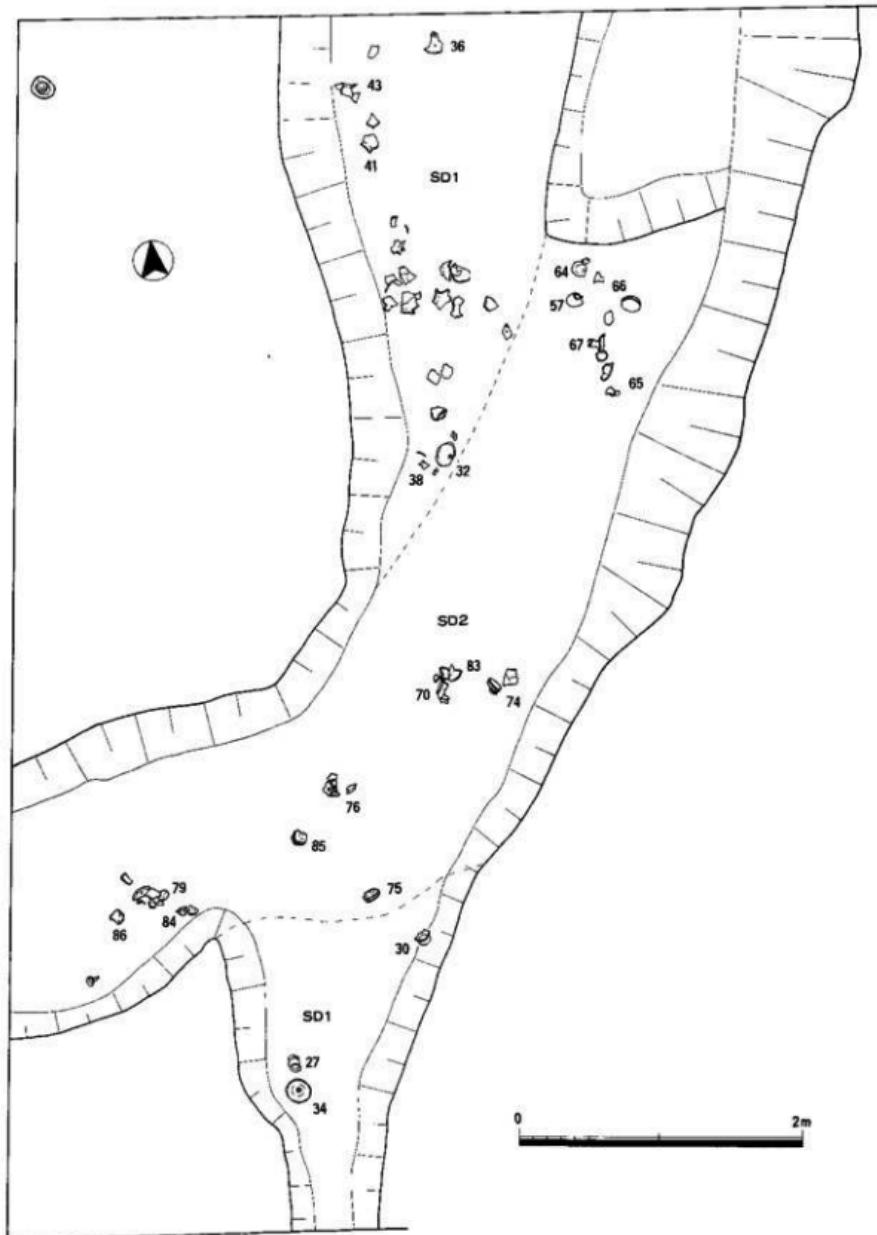


第7図 SK1出土遺物(石器)実測図

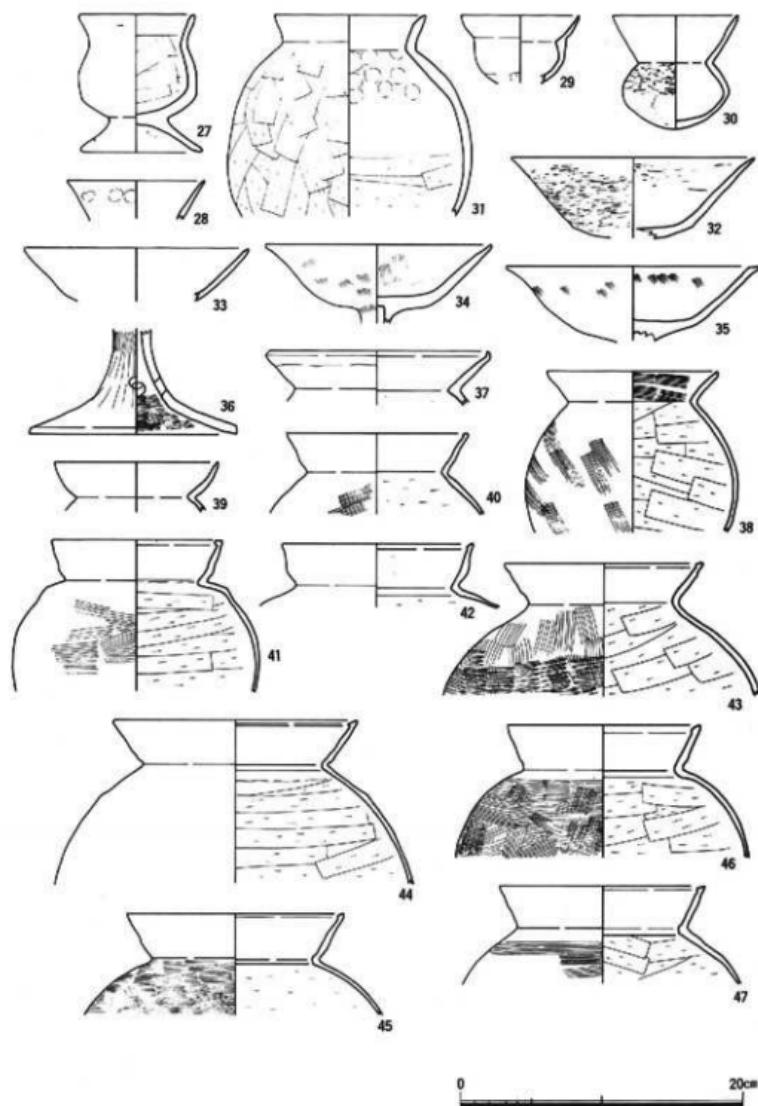
## 溝 (S D)

## SD 1

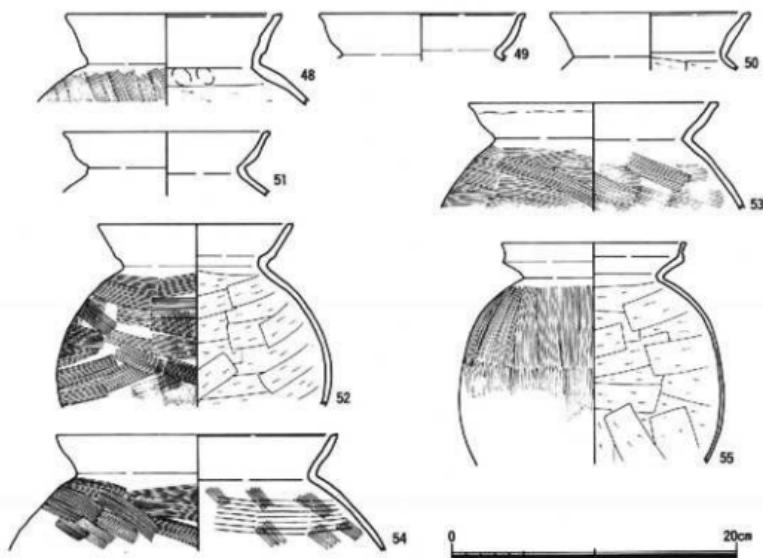
調査区の西部の第11層上面で検出した溝で、SD 2によって切られている。方向は南北方向を示し、幅 0.6~1.2 m、深さ 20~30 cm を測る。断面は浅い逆台形を呈し、内部には暗灰黒色砂粘土が堆積している。遺物は、溝の側壁の斜面に沿うように土器片が出土している。器種には布留式古壺に比定される小型台付壺 (27)・小型丸底壺 (28~30)・壺 (31)・高杯 (32~36)・庄内式壺 (37)・布留式壺 (38~54)・吉備系壺 (55) がある (第6・7図)。



第8図 SD1・SD2検出遺物平面図



第9図 SD1出土遺物実測図1

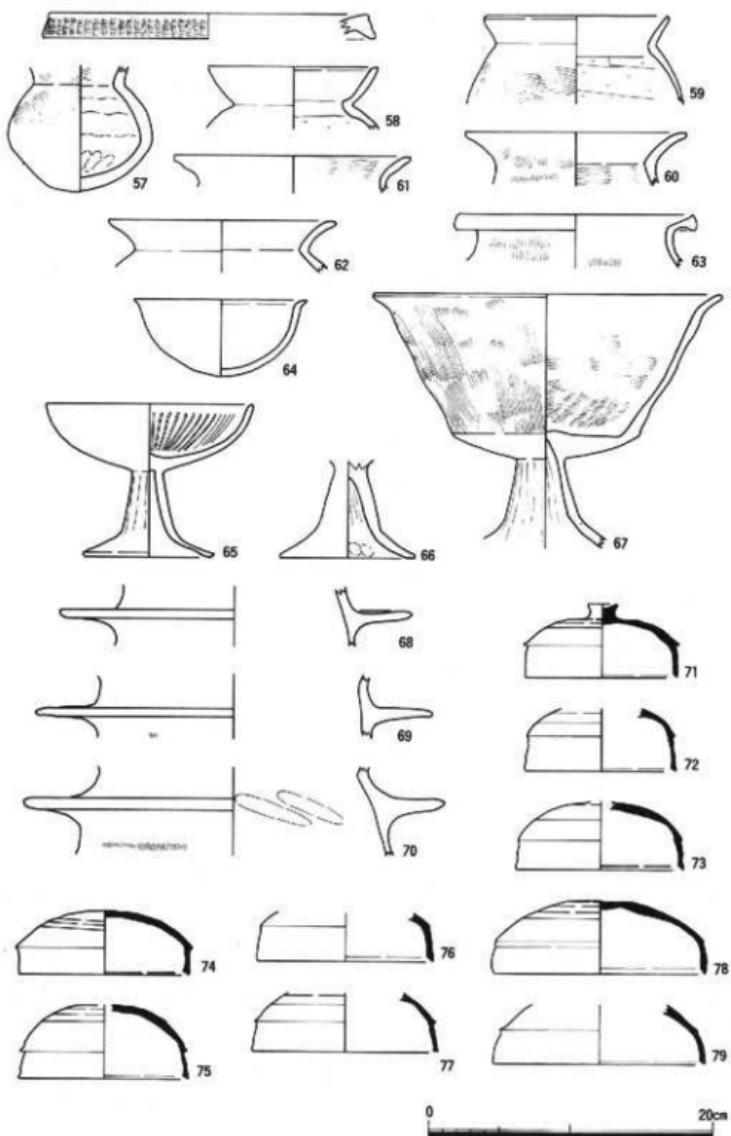


### SD 2

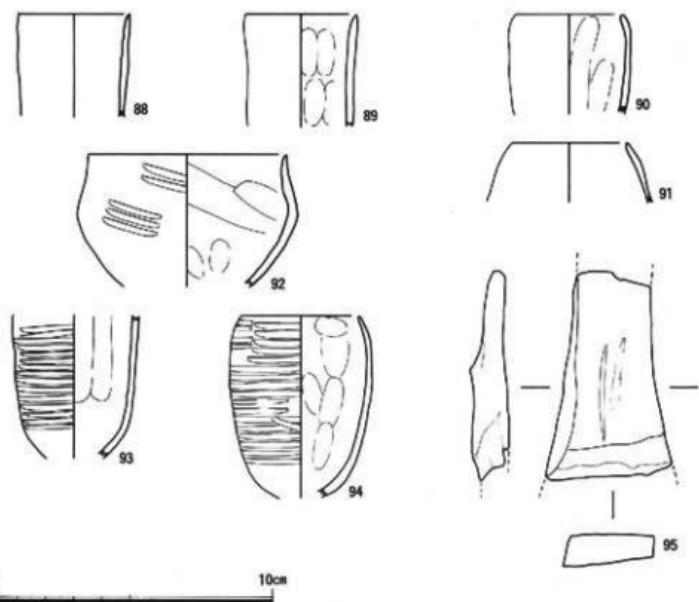
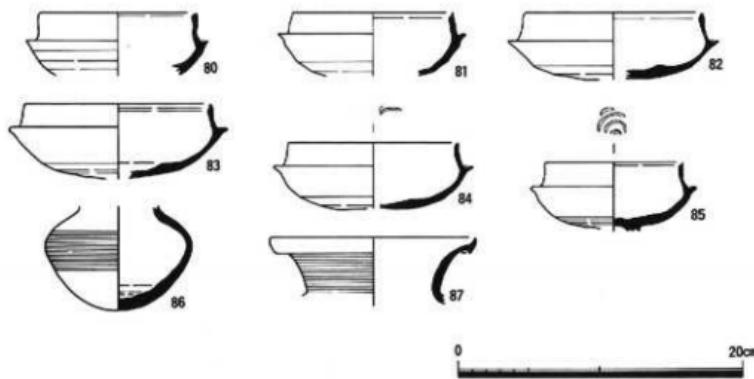
調査区の西部で検出した溝で、SD 1を切っている。平面は北西部を主軸として円弧を描きながら西部及び北部の調査区外に至る。規模は検出部で、幅1~1.2 m、深さ30~40cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には黒灰色粘土・灰黒色粘土混細砂の2層が堆積している。遺物は、底面上付近から古墳時代中期に比定される土師器の小型壺(57)・杯(64)・高杯(65~67)。羽釜(68~70)、須恵器(陶邑編年によるI型式2~4段階に相当する)の杯蓋(71~79)・杯身(80~84)・高杯(85)・翫(86)・壺(87)、製塙土器(88~94)。その他には畿内第Ⅳ様式の壺(56)、砥石(95)である(第8~10図)。

### 柱穴(S P 1)

調査区の北西隅で検出した柱穴である。平面は円形を呈し、径30cm、深さ30cmを測る。この柱穴の中には柱根(径10cm、長さ40cm)が腐敗した状態で残存していた。掘形の埋土は黒灰色粘土である。遺物は出土していないがSD 2と同一土層であることから古墳時代中期後業に位置づけられるものと考えられる。この柱穴は調査区内で1個だけの検出であり関連するものは検出しなかった。



第11図 SD2出土遺物実測図1



第12図 SD2出土遺物実測図2

## 3) 造構に伴わない出土遺物

第4層と第9・10層内から主に出土した。出土量はコンテナ箱にして約7箱分を数える。遺物は弥生時代中期～鎌倉時代に至るものである。第4層は河川の氾濫した堆積土で、内部からは主に弥生時代中期に比定される畿内第II様式～畿内第III様式の土器・石器類と、鎌倉時代に比定される瓦器などが出土している。第9層は古墳時代中期～後期に比定される包含層で、内部から土師器・須恵器・石器類が出土している。第10層は古墳時代前期（布留式古相）に比定される包含層で、調査区の東部だけ堆積する。内部からは土師器が出土している。

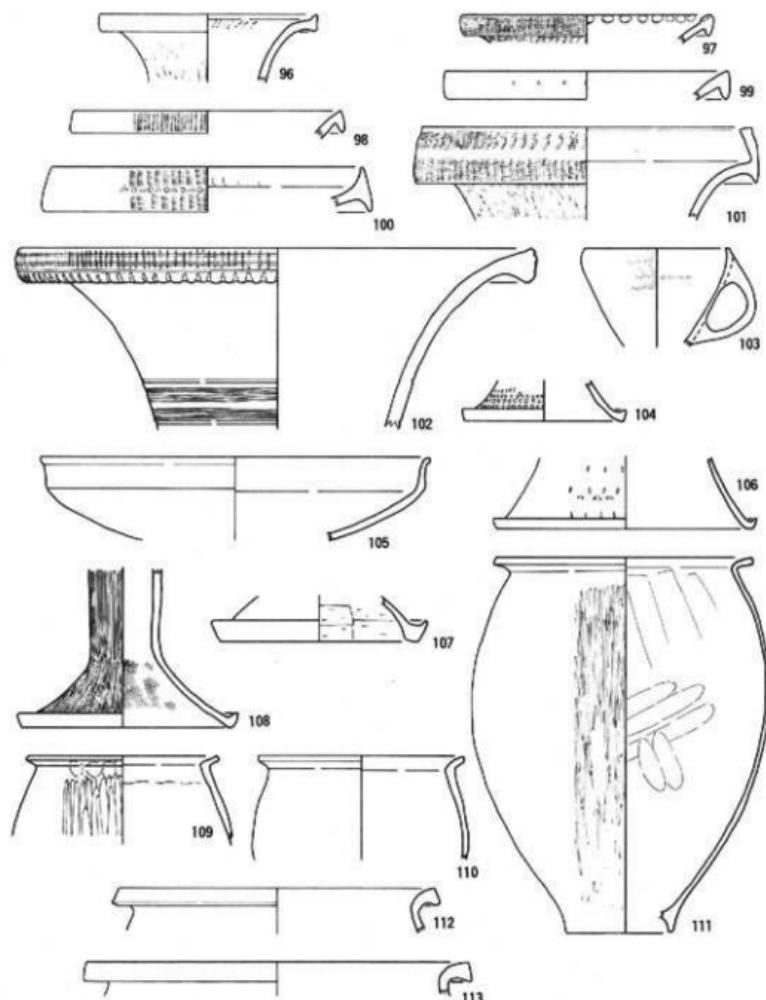
図示できたものを時期別に分けると、以下のようなになる。

弥生時代に比定されるもの（第4層出土）として、畿内第II様式の壺（96～102）・コップ形土器（103）・畿内第IV様式の器台（104・105）・高杯（106～108）・壺（109～118）である。古墳時代前期に比定されるもの（第11層出土）として、布留式古相の壺（119～128）・小型壺（129～135）・鉢（136～141）・高杯（142～164）・V様式系壺（165）・庄内式壺（166）・布留式壺（167～205）・壺（206～216）・複合口縁の壺（217～219）・高杯（220～225）である。古墳時代中期～後期に比定されるもの（第10層出土）として、土師器の瓶（226～228）・羽釜（229～231）・製塩土器（232～244）・須恵器（陶邑編年によるT型式2段階～II型式3段階）の杯壺（245～257）・杯身（258～278）・高杯（279～283）・壺（284～287）・壺（288～292）である。鎌倉時代に比定されるもの（第11層出土）として、瓦器（293）である（第13～21図）。その他には第4層内から出土した弥生時代中期に比定される石器類がある（第22～30図）。石器類は滑石製の双孔円盤（294）の1点だけで除けば、ほとんどがサスカイト製である。295～297は石槍、298～299は石核、300～340は剥片である。これらの石器類の法量などの詳細について第3表に掲載した。

第3表 造構に伴わない出土遺物（石器類）の法量一覧表

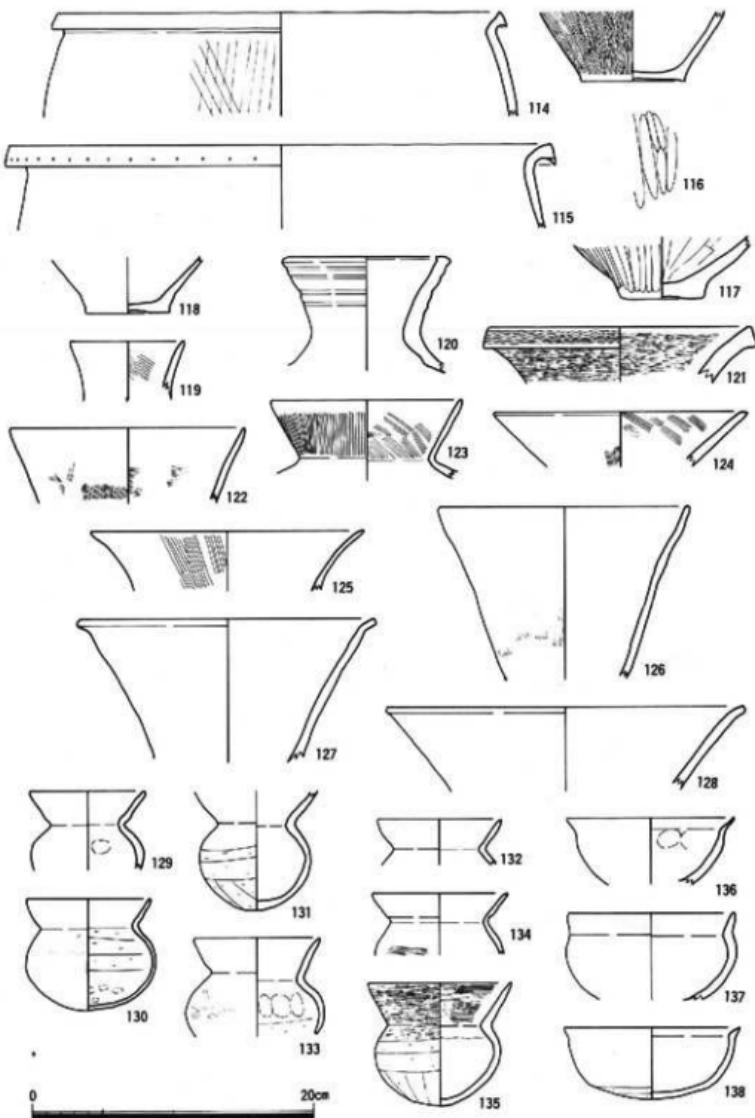
遺物番号	名 称	出土地区	層位	縦(cm)	横(cm)	厚み(cm)	重さ(g)
294	滑石製有孔盤	a 2	第4層	3.1	2.8	0.4	27
295	石 槍	a 2	第4層	10.2	4.4	1.6	20
296	石 槍	a 2	第4層	10.9	5.9	3.0	143
297	石槍未製品	a 2	第4層	8.9	4.0	1.1	65
298	石 核	a 1	第4層	8.8	6.2	1.5	100
299	石 核	a 2	第4層	6.3	5.7	0.6	30
300	剥 片	a 2	第4層	6.3	5.7	0.6	30
301	剥 片	a 2	第4層	4.6	6.0	1.4	30
303	剥 片	a 2	第4層	7.5	4.4	1.3	32
304	剥 片	a 1	第4層	4.1	2.9	0.4	6
305	剥 片	a 1	第4層	3.9	3.1	0.6	8
306	剥 片	a 1	第4層	4.9	3.0	1.0	26
306	剥 片	a 1	第4層	5.0	2.3	1.5	31

遺物番号	名 称	出土地区	層 位	縦(cm)	横(cm)	厚み(cm)	重さ(g)
307	剥 片	a 1	第4層	5.0	3.0	1.5	31
308	剥 片	a 1	第4層	4.9	2.3	1.4	20
309	剥 片	a 1	第4層	6.2	3.9	1.9	48
310	剥 片	a 1	第4層	4.6	1.9	1.1	12
311	剥 片	a 1	第4層	6.4	3.8	1.4	31
312	剥 片	a 1	第4層	5.0	3.1	0.9	20
313	剥 片	a 1	第4層	5.7	2.8	0.7	11
314	剥 片	a 1	第4層	4.4	2.4	0.7	9
315	剥 片	a 1	第4層	3.9	2.7	0.5	8
316	剥 片	a 1	第4層	4.3	2.9	0.5	6
317	剥 片	b 2	第4層	2.3	1.3	0.4	1
318	剥 片	a 3	第4層	3.0	1.5	0.4	2
319	剥 片	b 2	第4層	2.7	1.7	0.9	3
320	剥 片	b 2	第4層	3.6	1.6	0.6	5
321	剥 片	a 1	第4層	2.6	1.4	0.3	1
322	剥 片	b 2	第4層	2.6	1.5	0.2	1
323	剥 片	b 2	第4層	3.0	2.1	0.5	4
324	剥 片	b 2	第4層	3.8	3.1	1.0	14
325	剥 片	b 2	第4層	3.3	2.3	0.4	5
326	剥 片	b 2	第4層	1.7	1.8	0.7	2
327	剥 片	b 2	第4層	3.6	3.3	1.0	12
328	剥 片	a 1	第4層	1.8	1.5	1.1	6
329	剥 片	a 1	第4層	5.2	3.1	1.0	10
330	剥 片	a 1	第4層	3.3	2.5	1.0	16
331	剥 片	a 1	第4層	4.6	4.0	1.4	22
332	剥 片	b 2	第4層	4.1	1.9	0.9	8
333	剥 片	a 1	第4層	4.4	2.0	0.5	5
334	剥 片	a 1	第4層	4.1	2.2	0.9	12
335	剥 片	a 1	第4層	3.6	2.0	0.7	6
336	剥 片	b 2	第4層	3.9	2.4	1.0	10
337	剥 片	b 2	第4層	4.6	2.6	0.3	5
338	剥 片	b 2	第4層	2.5	2.3	0.4	3
339	剥 片	b 2	第4層	2.6	2.2	0.4	3
340	剥 片	b 2	第4層	2.2	2.1	0.6	4
341	剥 片	b 2	第4層	2.9	2.4	0.7	7
342	剥 片	b 2	第4層	2.5	1.7	0.4	2
343	剥 片	b 2	第4層	3.3	2.3	0.4	4
344	剥 片	a 1	第4層	2.0	1.4	0.1	1
345	剥 片	b 2	第4層	4.0	2.6	0.5	7
346	剥 片	a 1	第4層	2.1	2.0	0.4	2
347	剥 片	a 1	第4層	2.2	2.1	0.3	4
348	剥 片	b 2	第4層	3.3	2.5	0.4	4
349	剥 片	b 2	第4層	2.1	2.0	0.6	4

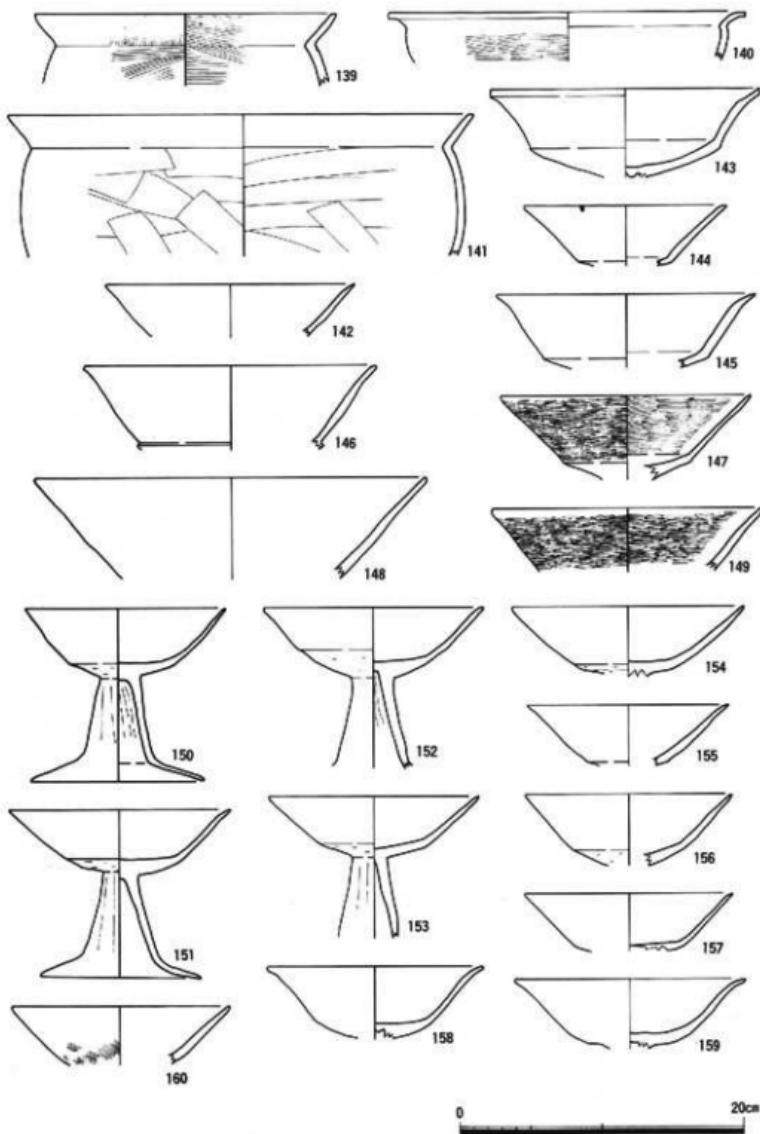


0 20cm

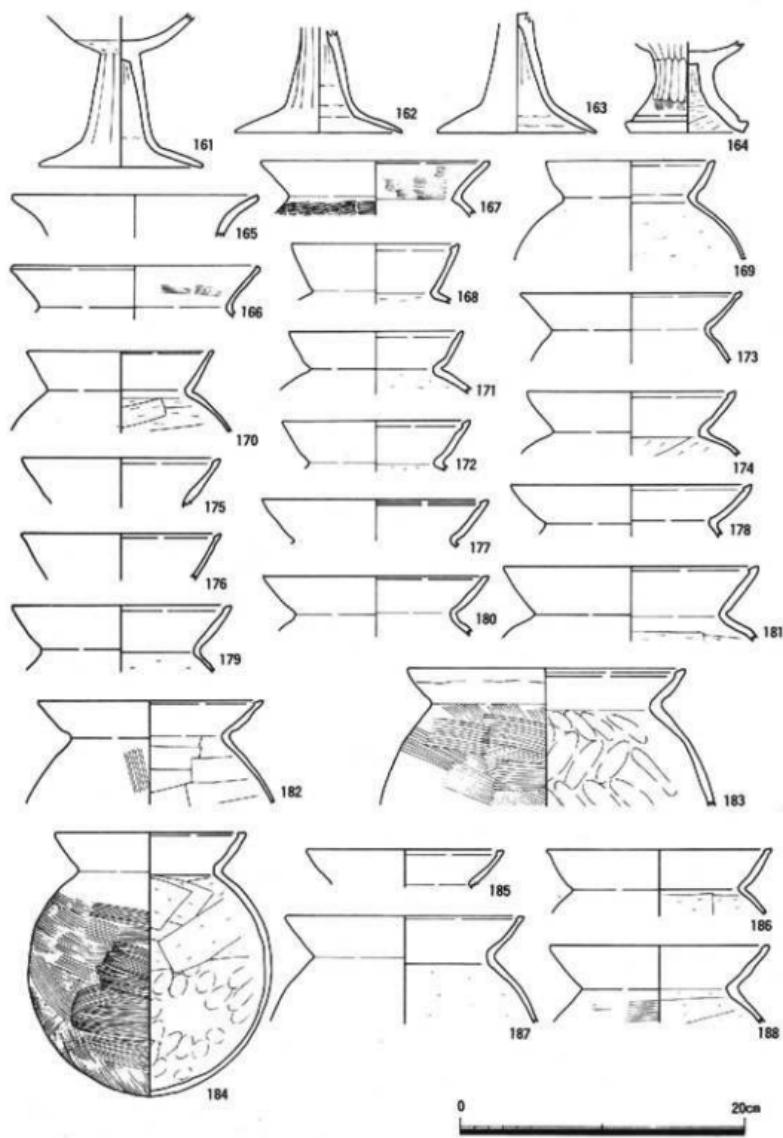
第13図 遺構に伴わない出土遺物実測図1



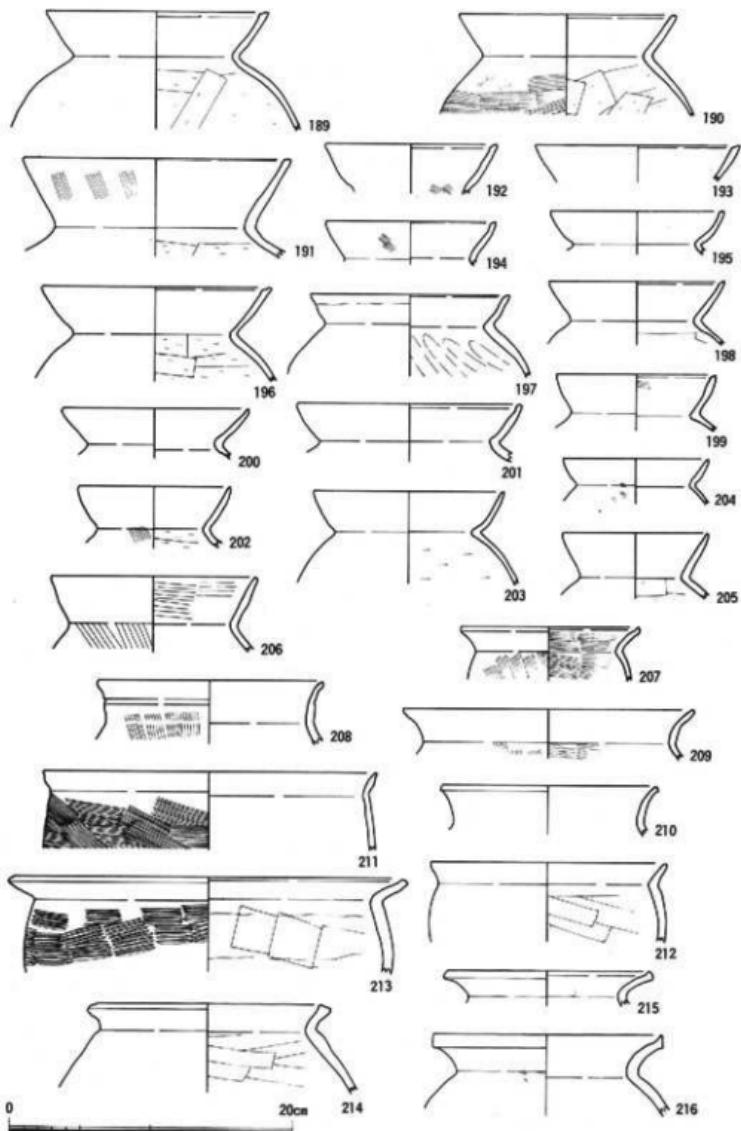
第14図 遺構に伴わない出土遺物実測図2



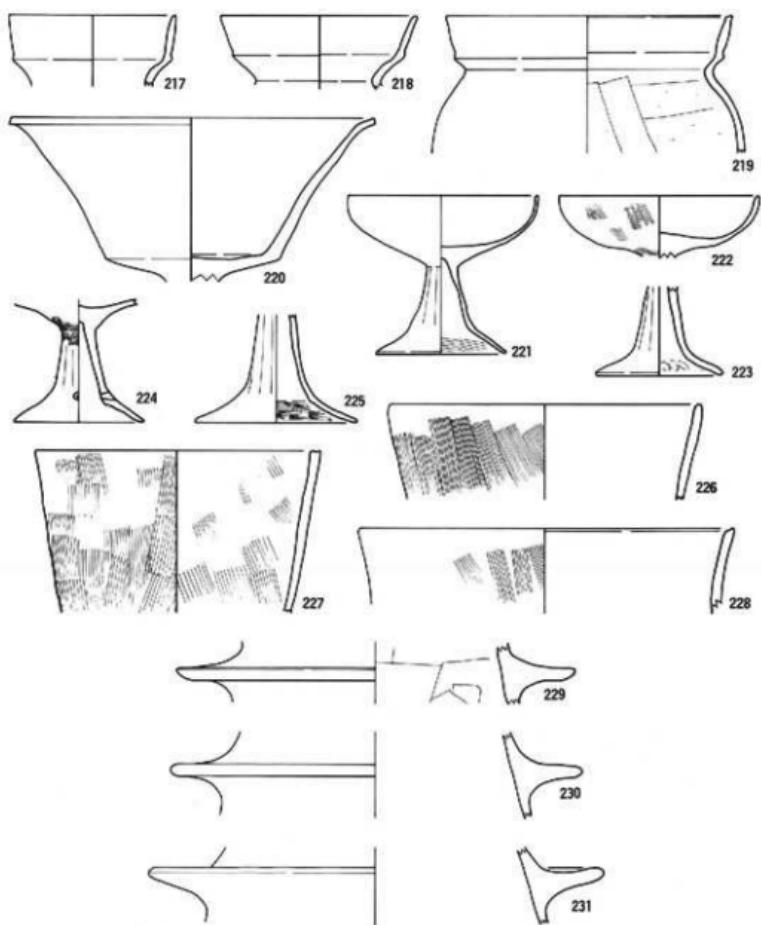
第15図 造構に伴わない出土遺物実測図3



第16図 遺構に伴わない出土遺物実測図4

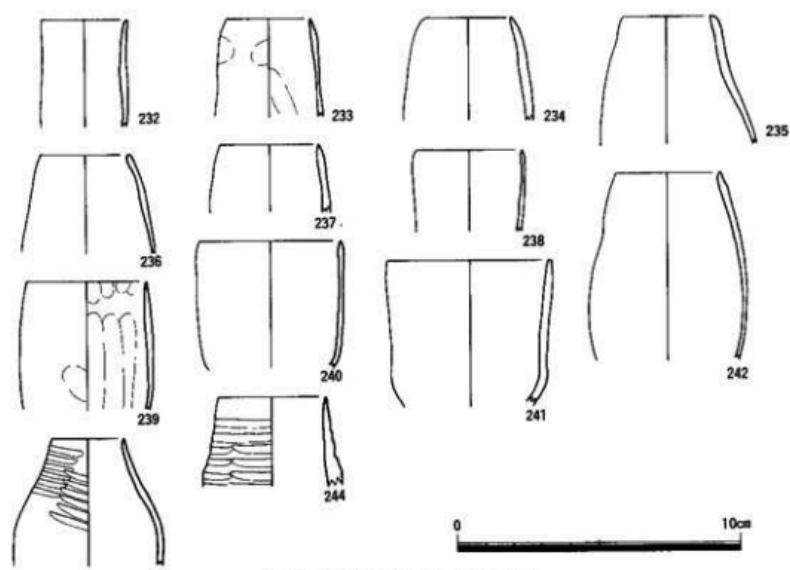


第17図 遺構に伴わない出土物実測図5

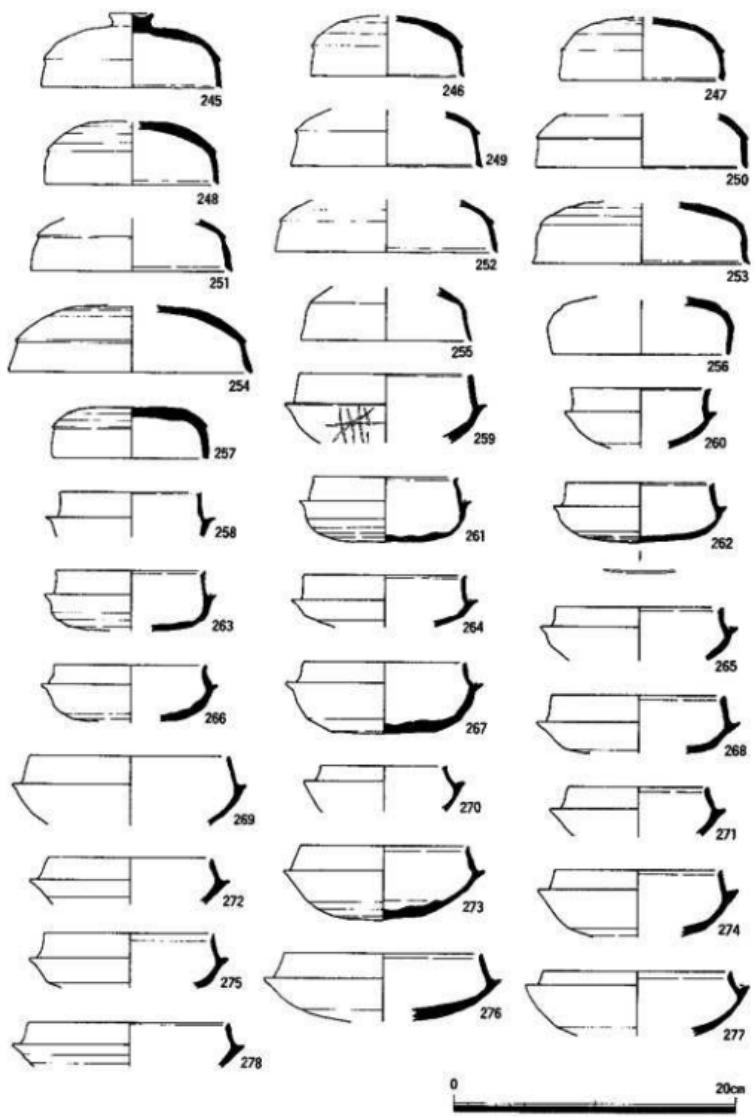


0 20cm

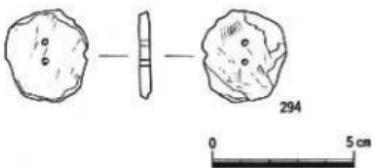
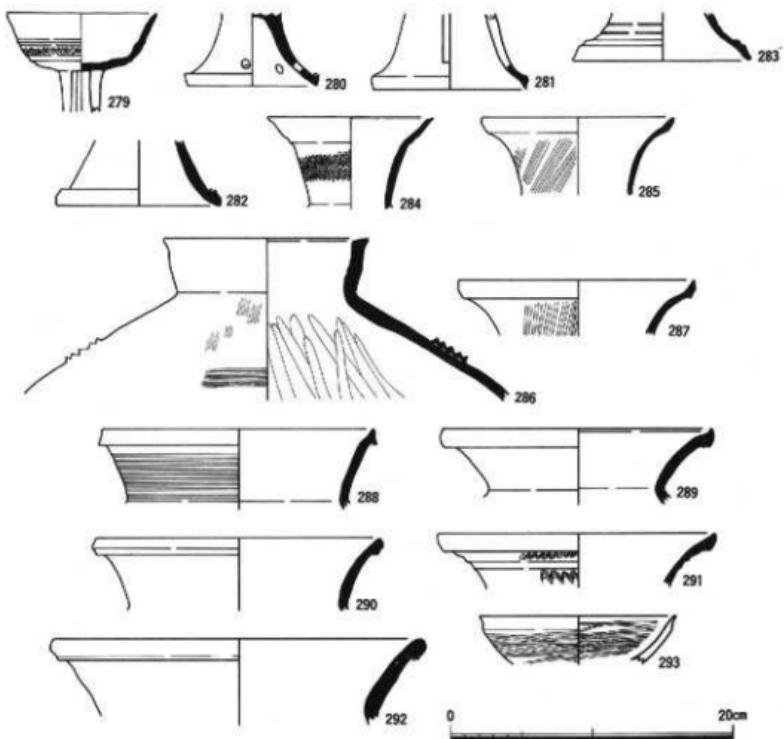
第18図 造構に伴わない出土遺物実測図 6



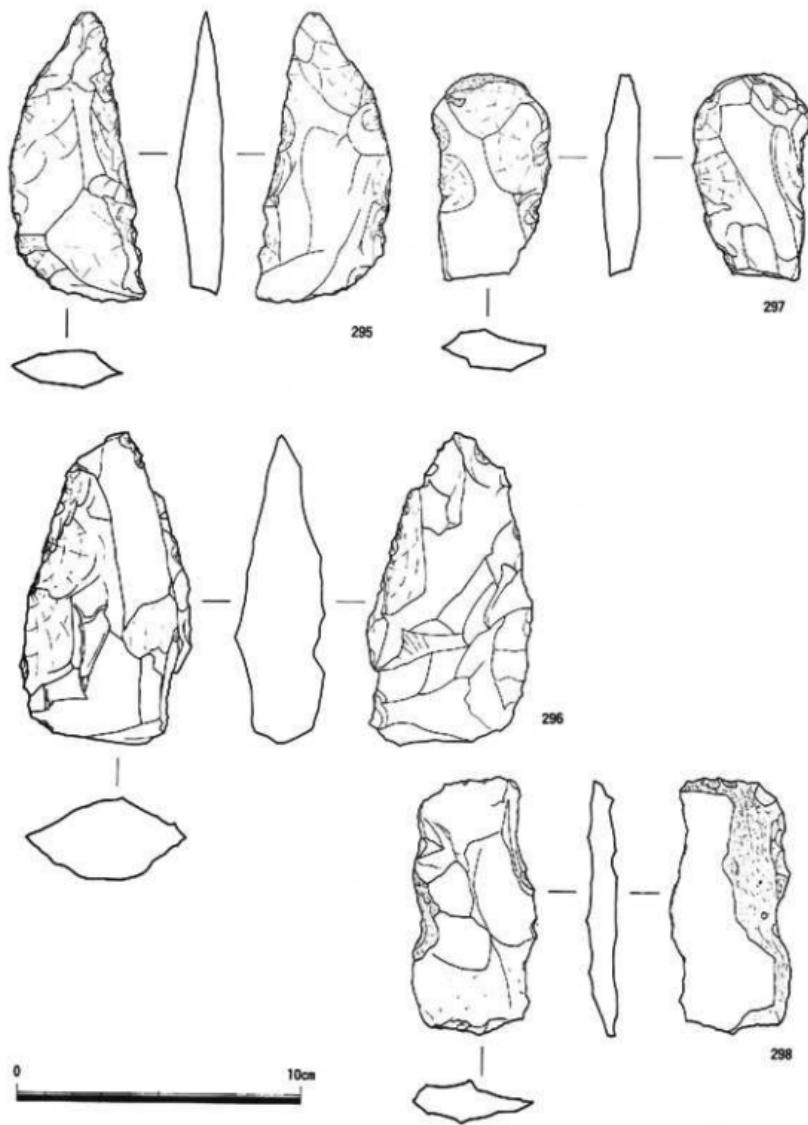
第19図 遺病に伴わない出土遺物実測図7



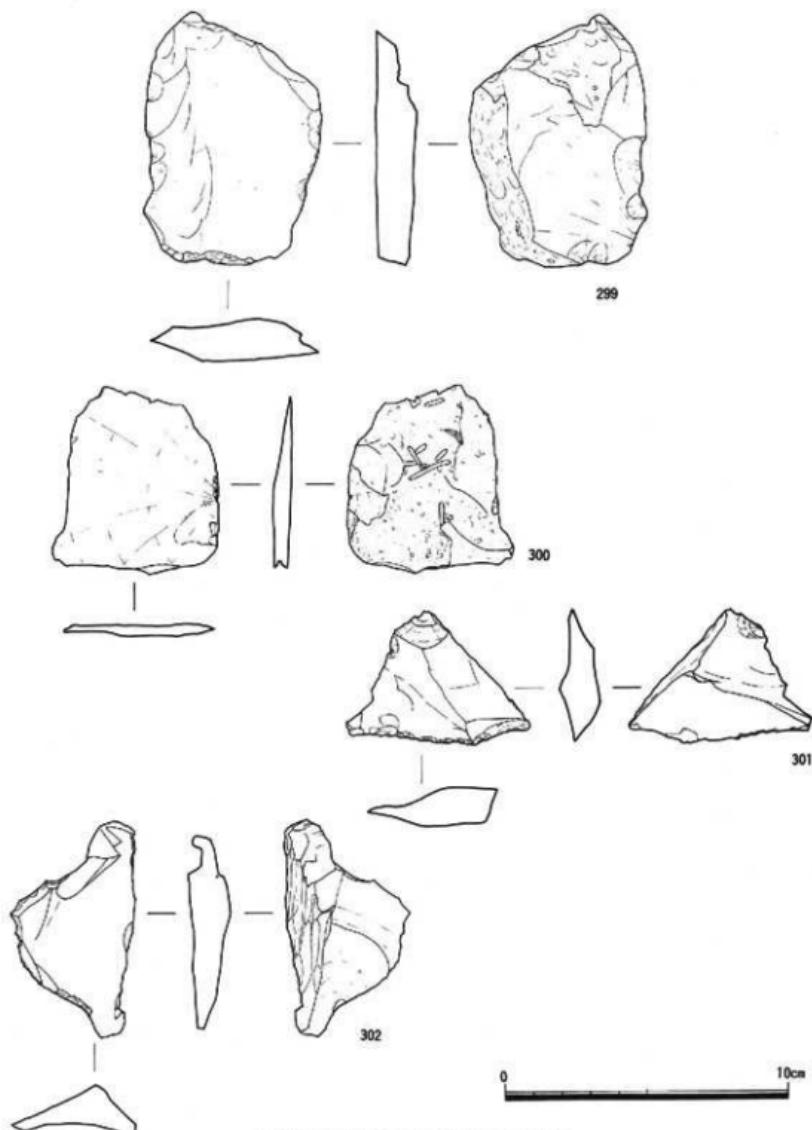
第20図 造構に伴わない出土遺物実測図8



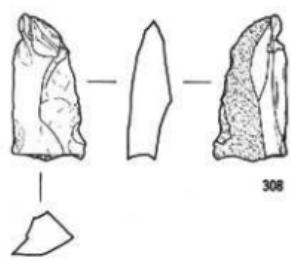
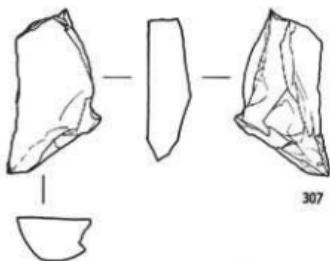
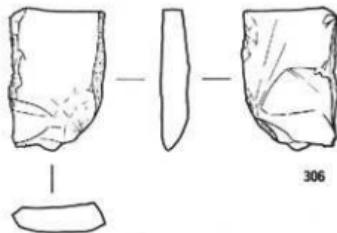
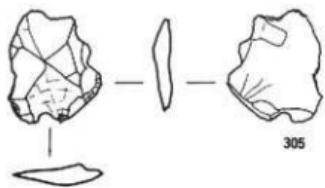
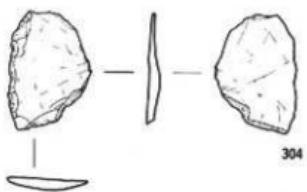
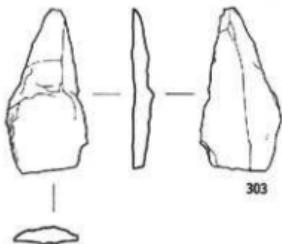
第21図 造構に伴わない出土遺物実測図 9



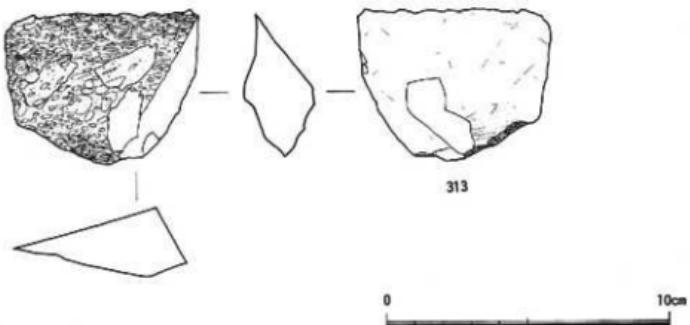
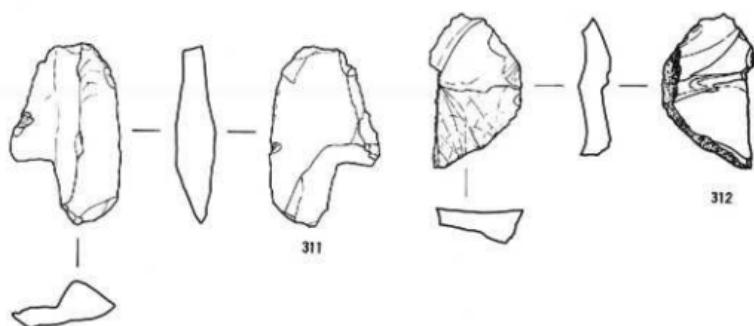
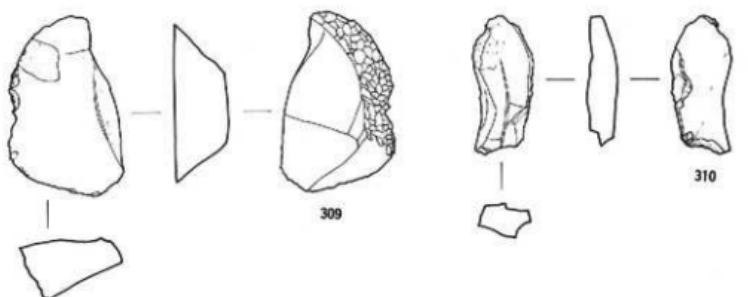
第22図 遺構に伴わない出土遺物(石器)実測図10



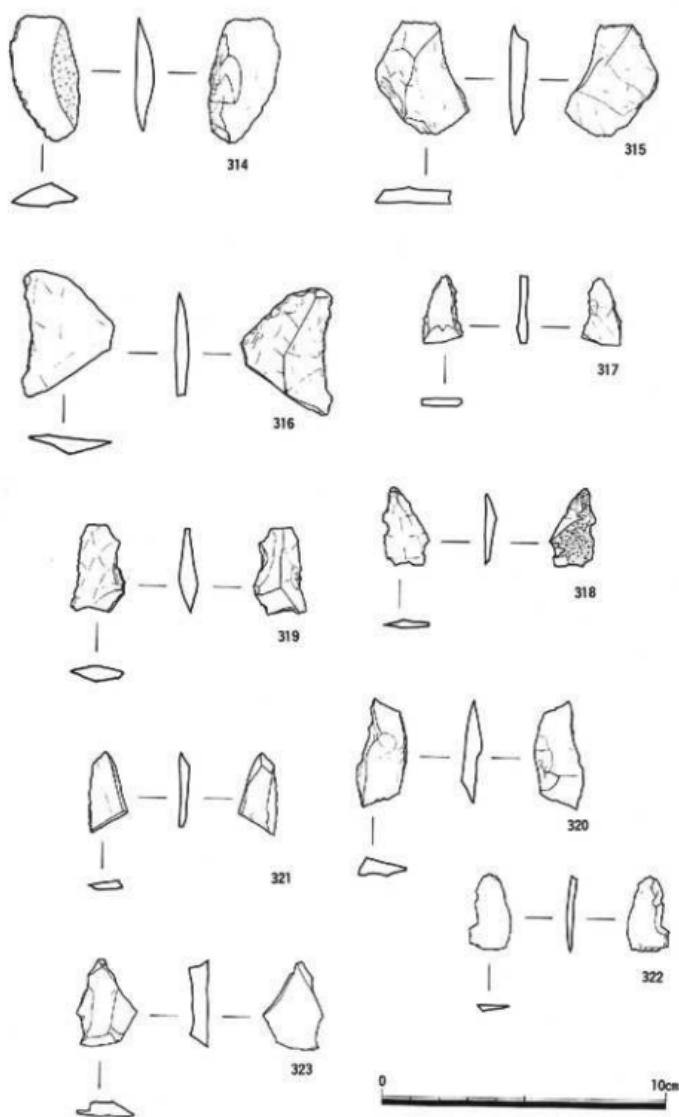
第23図 漢標に伴わない出土遺物(石器)実測図11



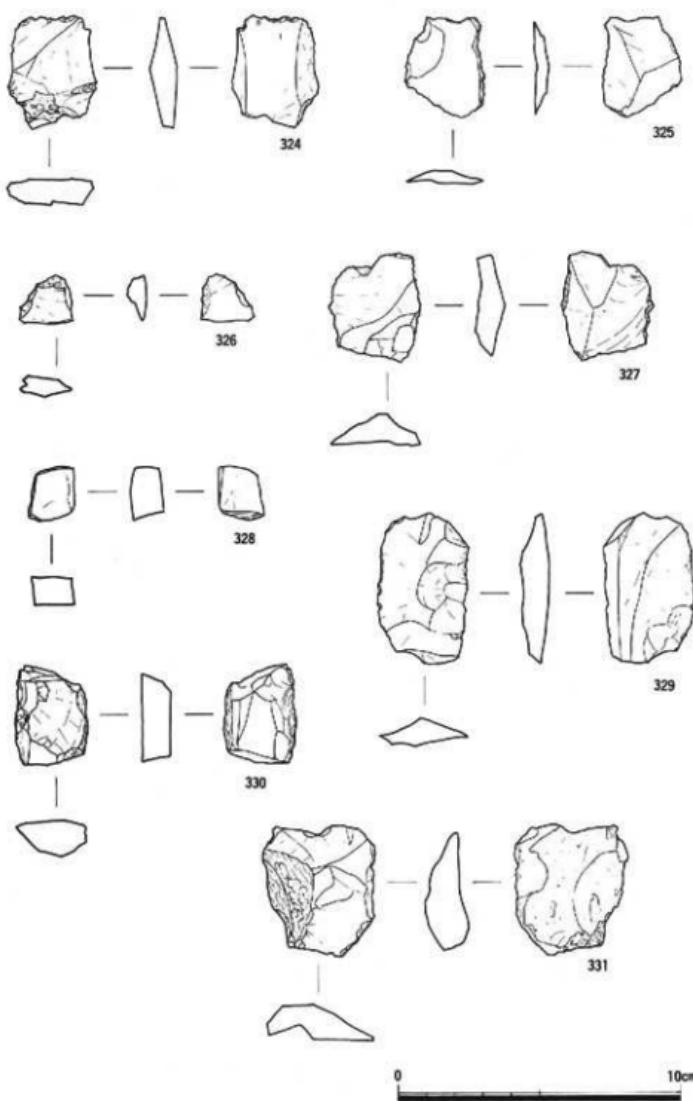
第24図 遺構に伴わない出土遺物(石器)実測図12



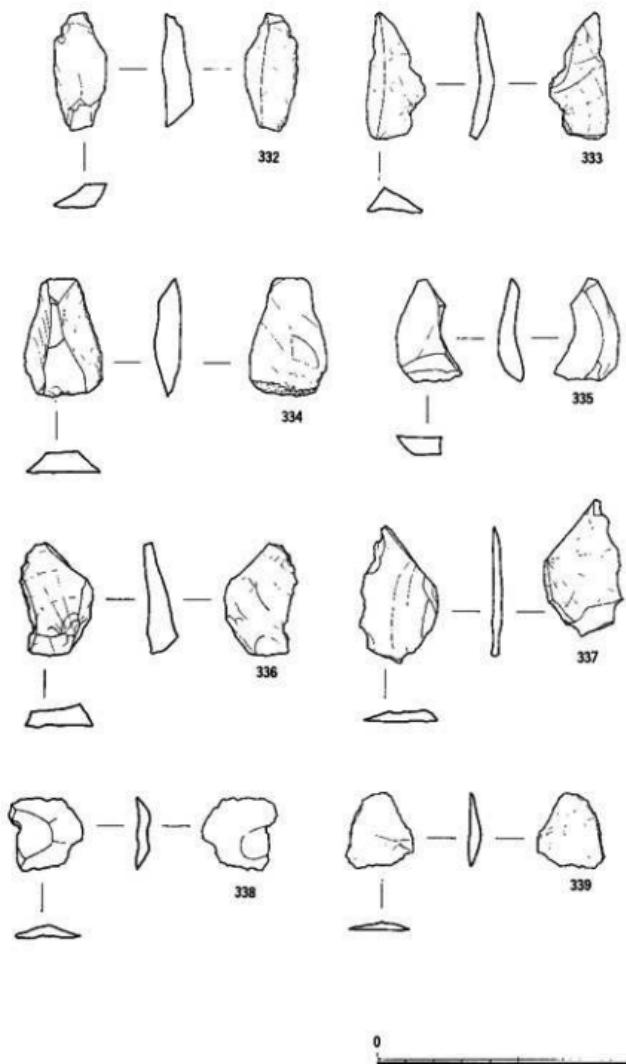
第25図 造形に伴わない出土遺物(石器)実測図13



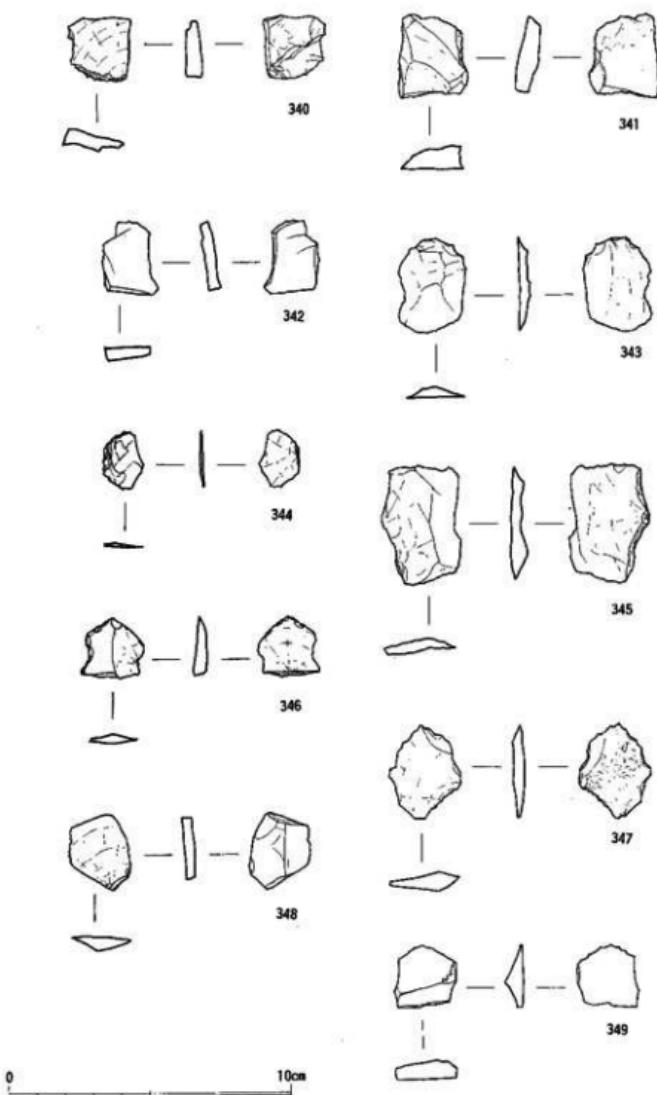
第26図 造構に伴わない出土遺物(石器)実測図14



第27図 造構に伴わない出土遺物(石器)実測図15



第28図 通構に伴わない出土遺物(石器)実測図16



第29図 造構に伴わない出土遺物(石器)実測図17

第4節 出上遺物観察表  
SK1

遺物番号 (同種番号)	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成歴	考
1	壺 (弥生式土器)	口 径 20.2		上内方へ内凹気味に体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚し、外側する面をもつ。 口縁部内外円弧点立、内側ヨコナギ、体部外縁ハケナダ(10本)後ナナ、内面ハケナダ(10本)。	茶灰色	3mm以下の 長石・石英 雲母等の砂粒を多量含む。	良	
2	小堅丸底壺 (土器)	口 径 8.4 器 高 8.2		中位に張りをもつ体部から屈曲し、上外方へ内凹気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外ヨコナギ、体部外縁ハケナダ(10本)後ナナ、内面ナナ。	外 内 部 色 底 天 色	3mm以下の 長石・石英 雲母等の砂粒を多量含む。	良	
3	同上	口 径 8.8 器 高 8.5		球形に近い体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸底。口縁部外縁ハケナダ後ヨコナギ、内面ハケナダ、体部外縁不明、内面ハラ削り、底部内面指痕。	淡灰茶色	長石・石英 赤褐色酸化鉄・ 雲母等の砂粒を多量含む。	良好	光沢、 黒斑有。
4	同上	口 径 9.2 器 高 8.3		中位に張りをもつ偏平な体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部外縁ヨコナギ、体部外縁ハケナダ(10本)・一部ナナ、内面ハラ削り、底部内面指痕。	淡灰茶色	2mm以下の 石英・赤褐色酸化鉄・ 雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
5	同上	口 径 9.6		上内方へ内凹して伸びる体部から屈曲し、上外部へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。口縁部内外に沿って、体部内面ハラ削りがみられる。 口縁部内外ヨコナギ、体部外縁ナナ。	淡灰茶色	長石・石英等の微砂粒を少量含む。	良	
6	同上	口 径 5.4 器 高 10.2		断面「U」字形の体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。口縁部付近にはほぼ円形の穿孔(深さ1cm)を有する。底部は丸底。内外面ナナ。	淡灰色	4.5mm以下の チャード・長石・石英 赤褐色酸化鉄の砂粒を多量含む。	良好	
7	たこ壺 (土器)	口 径 7.6		断面「U」字形の体部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。口縁部付近にはほぼ円形の穿孔(U.1 ~ 1.3 cm)1個を有する。底部は丸底。 体部内面ハラナナ、他はナナ。	淡灰茶色	3mm以下の 長石・チャード・石英等の砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
8	同上	口 径 18.0		平頂な杯底部から緩やかに屈曲し、上斜方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯底部外縁ヨコナギ。	淡灰茶色	長石・石英・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
9	高杯 (土器)	口 径 16.2		やや平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、上斜方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外に無くつまみ、鋸く尖る。脚部は欠損。 杯底部外縁ハラミガキ、内面ハケナダ後ハラミガキ。	淡灰茶色	長石・石英・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
10	同上	口 径 17.8		やや平坦な杯底部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯底部外縁ハケナダ後ナナ。	淡灰茶色	長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	黒斑有。
11	同上	口 径 13.6		上内方へ内凹気味に伸びる口縁部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内外に肥厚し、内側する面をもつ。体部は大口。 口縁部内外ヨコナギ、体部外縁ハケナダ、内面ハラ削り。	淡褐灰色	3mm以下の 石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	煤付有。

## III. 愚智遺跡 (第1次調査)

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	LH径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
13	盃 (土師器)	口径 14.2		上内方へ内沟気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡褐色	3mm以下の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
14	同上	口径 13.8		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外気味に伸びる全縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	3mm以下の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	焼付着。
15	同上	口径 16.0		体部から屈曲し、上外方へ内沟気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	1.0mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量含む。	良好	焼付着。
16	同上	口径 14.6		体部から屈曲し、上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は内側に肥厚する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
17	同上	口径 15.2		体部から屈曲し、上外方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部はわずかに内折する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm以下の石英・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
18	同上	LH 径 16.2		上内方へ直線的に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・角閃石・雲母・石英・赤褐色鐵化殻の微砂粒を少量含む。	良好	
19	同上	口径 17.4		体部から屈曲し、上外方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ。	淡茶灰色	長石・石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	

## SD 1

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
27	古仔盃 (土師器)	口径 8.2 器高 9.9 径 9.4		最大径を中心より下にもつ球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。脚部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(5本)。	灰褐色	2.0mm以下の長石・雲母・石英・赤褐色鐵化殻の砂粒を少量含む。	良好	完形。
28	小型丸底盃 (土師器)	LH 径 9.6		口縁部は上外方に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ・指痕痕、内面ヨコナデ。	淡灰系色	微砂粒を少量含む。	良好	
29	同上	口径 10.8		肩部の張らない球形と思われる体部から屈曲し、上外方へ外気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。端部内面には一束の接合痕がみられる。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面上位ナデ・指痕痕、下位ナデ・ヘラ削り。	淡茶灰色	5.5mm以下の長石・雲母・石英等の砂粒を多量含む。	良好	黒斑有。

遺物番号 国版番号	器種	法蓋 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
30	同上	口 径 8.4		半球形の体部から屈曲し、上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部外側ナナ、底部外側ヘラ削り。	外 淡灰黒 色 内 黑灰色	石英・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
31	小型九底盃 (土師器)	口 径 9.0 高 8.1		最大径を半位にもつ偏平な体部から屈曲し、上外部へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部外側上位ヘラミガキ、底部外側ヘラミガキ、内面ナナ。	茶褐色	長石・石英 雲母・赤褐色 色酸化粒の 砂粒を少量含む。	良好	
32	高杯 (土師器)	口 径 17.2		平底な杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する小さい面をもつ。端部は欠損。 杯部外側ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後ヨコナナ。	淡灰茶色	2.0 mm以下の 赤褐色酸化 粒・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	黑斑有。 焼付有。
33	同上	口 径 15.8		杯底部・脚部は欠損。杯部の口縁部は斜上方に至る。端部は丸い。 杯部内外面ハケナナ(19本)後ヨコナナ。	白灰色	長石・チャ ート・石英 雲母・赤褐色 色酸化粒の 砂粒を少 量含む。	良好	
34	同上	口 径 16.0		平底な杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 杯部外側上位ヨコナナ、下位ハケナナ、内面ハケナナ(10本)、底部内面調整不明。	茶灰色	3.0 mm以下の 長石・雲 母・石英・ 赤褐色酸化 粒等の砂 粒を少 量含む。	良好	
35	同上	口 径 16.8		半球形の杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまり、水平な面をもつ。脚部は欠損。 杯部内外面ハケナナ(10本)後ヨコナナ。	淡灰茶色	3.0 mm以下の 長石・雲 母・石英等 の砂粒を多 量含む。	良好	
36	同上	口 径 14.6		杯部は欠損。脚部は中空の柱状部から大きく外下方へ外反する。端部は外に面をもつ。中位には二方に円孔が穿かれている。 内面ハケナナ(10本)、底部内面は摩耗の為調査不明。	茶灰色	長石・石英 雲母等の 砂粒を少 量含む。	良好	
37	壺 (土師器)	口 径 15.6		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。口縁部外面には一一条の接合痕が残る。 口縁部内外面ヨコナナ、体部外側ヘラ削り。	暗灰茶色	2.5 mm以下の 角閃石・ 長石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
38	同上	口 径 12.2		肩部に張らない球形と思われる伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外側ナナ、内面ハケナナ(10本)後 体部外側ハケナナ(10本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	2.5 mm以下の 長石・石英 雲母等の 砂粒を多 量含む。	良好	
39	同上	口 径 11.6		体部から屈曲し、上外方へ内側して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、内面ナナ。	暗灰茶色	1.5 mm以下の 雲母砂粒を 少量含む。	良好	焼付有。
40	同上	口 径 13.0		下内方へ直線的に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部外側ハケナナ(10本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	1.5 mm以下の 長石・石 英等の砂 粒を多 量含む。	良好	焼付有。

遺物番号 図版番号	器種	法蓋 (cm)	口径 基高	形態・構造等の特徴	色	調 試	土	焼 成 度	考
41	壺 (土師器)	II 種	12.0	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端 部は内方に肥厚する。体部下位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外周ハケナダ (10本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	1.5 mm以 下の長石・石 英等の砂粒 を少量含む。	良好	潔付着。	
42	同上	口 總	13.6	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端 部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	細砂粒の長 石・石英等 を少量含む。	良好	潔付着。	
43	同上	II 種	14.2	内外方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に 肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外周タキ (3本)ハケナダ(10本)、内面ヘラ削り。	灰褐色	2.5 mm以 下の砂粒を少 量含む。	良好		
44	同上	口 總	13.8	環形と思われる体部から屈曲し、上外方へ 内湾して伸びる口縁部に至る。端部は若干内 方に肥厚し、上に凹凸もつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外周ハケナダ (10本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	2.5 mm以 下の長石・石 英・雲母・ 赤褐色顔化 粒の砂粒を 多量含む。	良好		
45	同上	II 種	13.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に 肥厚し、内側する面をもつ。体部下位は欠 損。体部外周には3条の接合痕がみられる。 口縁部外周ナグ、内面ヨコナギ、体部外周 ハケナダ(10本)、内面ヘラ削り。	灰褐色	3.0 mm以 下の長石・石 英・赤褐色 顔化粒の砂 粒を多量含 む。	良好		
46	同上	II 種	14.2	体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に 至る。端部は内側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	2.0 mm以 下の長石・石 英等の砂粒 を少量含む。	良好		
47	同上	II 種	14.8	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端 部は内側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外周ハケナダ (10本)、内面ヘラ削り。	基褐色	長石・雲母 等の細砂粒 を少量含む。	良好		
48	同上	口 總	15.2	内上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部 は内側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外周ハケナダ (10本)、内面ヘラ削り。	外 内 灰褐色 淡灰褐色	3.0 mm以 下の長石・石 英等の砂粒 を少量含む。	良好	潔付着。	
49	同上	II 種	14.6	体部から屈曲し、上外方へ内湾して伸びる 口縁部に至る。端部は内側する面をもつ。体 部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ。	淡灰褐色	長石・雲母 等の細砂粒 を少量含む。	良好		
50	同上	口 總	14.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 内湾して伸びる口縁部に至る。端部は上に凹 をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外周ヨコナギ、 内面ナグ。	淡灰褐色	長石・雲母 等の細砂粒 を少量含む。	良好		
51	同上	II 種	15.6	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に 肥厚し、内側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外周ハケナダ (10本)、内面ヘラ削り。	外 基底褐 色 内 淡灰白 色	長石・石英 等の細 砂粒を少 量含む。	良好		
52	同上	II 種	17.4	上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に 肥厚し、内側する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外周ナグ、内 面ヘラ削り。	外 内 灰褐色 淡灰褐色	角閃石・長 石・雲母・ 石英等の細 砂粒を少 量含む。	良好		

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・構造等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
53	甕 (上部器)	口 径 17.6		上内方へ内凹気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内凸気味に伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部は欠損。 I) 縫部外表面に一束の接合痕がみられる。 II) 縫部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ(10本)。	褐色	1.5mm以下 の角閃石・長石・雲母等の砂粒を 少量含む。	良好	
54	同上	I) 径 19.8		上内方へ内凹して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びるI) 縫部に至る。端部は内方に肥厚し、内側する面をもつ。体部は欠損。 II) 縫部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ(10本)。	暗褐色	角閃石・長石・雲母等の微砂粒を 少量含む。	良好	焼付着。
55	同上	口 径 12.6		最大径を中位にもつ体部から屈曲し、外上方へ伸びる後、上方へ外反して伸びるI) 縫部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 II) 縫部内外面ヨコナデ、体部外面上部ハケナデ(10本)、下部は不明、内面へラブリ。	灰茶色	2.5mm以下 の長石・雲母・石英等 の砂粒を少 量含む。	良好	

## S D 2

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・構造等の特徴	色 調	胎 土	焼成	備考
56	甕 (弦生式上器)	口 径 22.7		端部は直し、外傾する面をもつ。口縁部 体部は欠損。 II) 縫部外表面ヨコナデ、端面彫刻状、内面 ヨコナデ。	褐色	3.0mm以下 の角閃石・ 長石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
57	甕 (下脚部)	最大径 13.4		最大径を中位にもつやや偏平な球形の体部 から屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部 は丸い。体部内面上部には三束の接合痕 がみられる。 II) 縫部内外面ハケナデ(10本)、体部外面上 位ハケナデ(10本)、下位ナデ、内面上位 ナデ・接合痕。	乳灰褐色	3.5mm以下 の長石・雲 母等の砂粒 を多量含む。	良好	
58	甕 (下脚部)	口 径 11.0		上内方へ内凹して伸びる体部から屈曲し、 上方へ内凸して伸びる口縁部に至る。端部 は内傾する面をもつ。体部は欠損。 II) 口縁部内外面ハケナデ(10本)、後ヨコナデ、 内面ヨコナデ、体部外面上部ハケナデ(10本)、内面へラブリ。	外 部 乳灰茶 色 内 部 淡灰褐色	長石・石英等 の微砂粒 を少量含む。	良好	
59	同上	I) 径 12.7		上内方へ内凹気味に伸びる体部から屈曲し、 上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する 面をもつ。体部は欠損。 II) 縫部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナ デ(10本)、内面へラブリ。	乳灰茶色	2.0mm以下 の長石・雲 母等の砂粒 を多量含む。	良好	黒斑石。
60	同上	口 径 15.6		体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる I) 縫部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 II) 縫部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナ デ(10本)。	赤褐色	長石・雲 母・石英等 の微 砂粒を多 量含む。	良好	
61	同上	口 径 16.6		口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。体部 は欠損。 II) 縫部内外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハ ケナデ(10本)。	乳灰褐色	2.0mm以下 の長石・雲 母・石英等 の砂粒を多 量含む。	良好	
62	同上	I) 径 16.6		体部から屈曲し、I) 縫部は上方へ伸びる 端部は丸い。体部は欠損。 II) 縫部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナ デ(10本)、内面ナデ。	乳灰茶色	長石・雲 母・石英等 の微 砂粒を多 量含む。	良好	
63	同上	口 径 16.6		体部から屈曲し、上方へ外反して伸びる 端部は下方に肥厚する。体部は欠損。 II) 縫部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナ デ(10本)、内面ナデ・ハケナデ(10本)。	淡茶色	石英・赤褐色 色酸化鉄等 の微砂粒を 多量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法華 (cm)	口徑 身高	形態・調査等の特徴	色調	粒 十	焼成	備考
64	鉢 (土師器)	口 径 12.3 身 高 3.4		半球形の体部から扁曲し、上外方へ強く伸びる口縁部に至る。端部は純く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、背部内外面ナデ、底部外面ヘリ彫り。	淡茶灰褐色	3.5 mm以下 の石英・長石・雲母・赤褐色碳化 鉱の砂粒を多量含む。	良好	黒既存。
65	萬杯 (土師器)	口 径 14.7 身 高 11.5 底 径 9.0		半球形の杯底部からそのまま口縁部に至る。端部は丸い。下外方へ下だる中空の柱状部から緩やかに扁曲し、外下方へ聞く脚部に至る。 端部は内側する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、杯部外面ナデ、内面ナデ後放射状紋、柱状部体外側ヘラ削り、内面ヘラ彫によるくりぬき、底部内外面ナデ、指痕斑。	淡茶色	2.5 mm以下 の長石・石英等の砂粒 を多量含む。	良好	
66	同上	底 径 9.5		杯部は欠損。脚部は下外方へ伸びる中空の柱状部から緩やかに扁曲し、外下方へ伸びる脚部に至る。端部は丸い。 脚部内外ナデ、内面しづり目、指押え。	淡灰茶色	石英・長石 雲母等の微 砂粒を少量 含む。	良好	
67	同上	口 径 24.6		平坦な杯底部から扁曲し、上外方へ伸びる杯部から外上方へ屈曲して伸びる脚部に至る。 端部は丸い。異部は下外方へ伸びる中空の柱状部から脚部に至る。端部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯部外面イケナデ(104)、内面上位ハケナデ(104)、下位ハケナデが放射状紋、柱状部体外側ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	2.5 mm以下 の長石・石英等の砂粒 を多量含む。	良好	黒既存。
68	羽蓋 (土師器)	口径 25.2		縁はやや一向向で造る。端部は丸い。他は欠損。 外縁ヨコナデ、内面ナデ。	暗茶褐色	3.0 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母等 の砂粒を 多量含む。	良好	
69	同上	口径 28.4		縁は水平に造る。端部は丸い。他は欠損。 外縁ヨコナデ、内面ナデ。	暗茶褐色	3.0 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母等 の砂粒を 多量含む。	良好	
70	同上	口径 30.2		縁は水平に造る。端部は丸い。 外縁ヨコナデ、下位ハケナデ、内面指捺ナデ。	暗茶褐色	2.5 mm以下 の角閃石・石 英・雲母等 の砂粒を 多量含む。	良好	
71	杯蓋 (須恵器)	口 径 10.7 身 高 5.2 天井部高 1.9 つまみ径 2.0 つまみ高 1.1		丸味をもつ大井部から外下方へし、後に至る大井部の中央上面に凹状つまみが付く。縁は純く尖る。口縁部は内溝気味に下方へ下り、端部は内側する面をもつ。 天井部外側回転部ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。 灰かぶり。
72	同上	口 径 10.6 身 高 10.5		天井部は欠損。縁は純く尖る。下方に凹線 が高まる。口縁部は下方へ内溝気味に下り、端部は内側する凹面をもつ。 天井部外側回転部ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
73	同上	口 径 11.8 身 高 11.6		天井部の一部は欠損。高く丸い天井部から外下方へ至る。縁は純く尖る。口縁部は内溝 気味に下り、端部は内側して段をもつ。 天井部外側回転部ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	2.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	灰かぶり。
74	同上	口 径 12.1 身 高 4.6 天井部高 2.7 身 高 12.1		高く丸い大井部から外下方へ内溝して縁に至る縁は純く尖る。口縁部は直下し、端部は内側する凹面をもつ。 底部外面回転部ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰青色	4.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	完形。 ロクロ左方 向。 自然端。

通物番号 同族番号	器 様	沈量 (cm)	口徑 器高	形態・調査等の特徴	色 表	胎 土 焼 成	備 考
75	杯蓋 (須恵器)	口 径 12.2 器 高 3.3 天井部高 3.5	高く丸い天井部から下外方へ内湾して梗に至る。梗は斜く尖る。口縁部は内湾気味に下方へ至り、底盤は内傾する浅い段をもつ。天井部の一部は欠損。 天井部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	淡灰青色	4.0mm 以 下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
76	同上	口 径 12.6	天井部は欠損。梗はまことに斜く尖る。口縁部は下方へ平り、端部は内傾する凹面をもつ。 天井部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色	3.0mm 以 下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
77	同上	口 径 13.3	天井部は欠損。天井部から斜下方へ内湾して梗に至る。梗は断面三角形を成し、斜く尖る。I 棱部は下方へ至り、端部は水平な四面をもつ。 天井部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰褐色	粗砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
78	同上	I I 径 14.9 器 高 5.2	やや平坦な天井部から下外方へ内湾気味に梗に至る。梗は直線を有す。I 棱部は下方へ内湾気味にあり、端部は内傾する段をもつ。 天井部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色	1.2cm の砂 粒を 1 個と 微砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
79	同上	口 径 15.0	天井部は欠損。天井部から下外方へ伸びて梗に至る。梗はやや上方へ斜く尖る。I 棱部は下方へ至り、端部は内傾する面をもつ。 天井部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色	粗砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
80	杯身 (須恵器)	I I 径 11.2 受部径 13.0	底部は欠損。底部から内溝して上外方に伸びて受部に至る。受部は水平に伸び、端部は尖る。立ち上がりは上方へ内傾後直立して伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰青色	微砂粒を少 量含む。		ロクロ右方 向。
81	同上	I I 径 11.4	底部は欠損。底部から内溝して上外方に伸びて受部に至る。受部は水平に伸び、端部は尖る。立ち上がりは上方へ伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。 底体部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰褐色	寄	良好	ロクロ左方 向。
82	同上	口 径 12.5 立ち上がり高 1.9	丸い底部から斜上方へ内湾して伸びて受部に至る。受部は水平に伸び、端部は尖る。立ち上がりは上方へ伸び、端部は内傾する浅い凹面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	淡灰色	2.5mm 以 下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
83	同上	I I 径 13.2 立ち上がり高 1.6	深くて丸い底部から斜上方へ内湾して受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上方へ伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰褐色	3.5mm 以 下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
84	同上	口 径 2.1 立ち上がり高 1.6	丸味のある底部から斜上方へ内湾して伸びて受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	灰青色	3.0mm 以 下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
85	同上	I I 径 9.7	丸味のある底部から斜上方へ内湾して伸びて受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは上方へ外反気味に伸び、端部は内傾する面をもつ。底部の一部は欠損。 底体部外縁回転へラ削り、他は回転ナダ。	青灰褐色	1.2cm 大の 砂粒を 1 個と 4.5mm 以 下 の砂粒を少 量含む。	良好	
86	腹 (須恵器)		最大径を中位より上にもつ蝶形に近い体部で、口縁部は欠損する。底部は丸底。 体部外縁回転へラ削り、中位円転カキ目、下位不定方向ナダ、内面回転ナダ。	灰褐色	3.5mm 以 下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。

## III 恩智遺跡（第1次調査）

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
87	壺 (須恵器)	口 径 16.5		体部から扁曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ出し、外に曲をもつ。底部は欠損。 口縁部外側凹凸縦ナギ、外側回転カキ目、内面回転ナギ。	青灰色	3.0mm以下 の砂粒を多 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
88	製塙上器	口 径 4.0		体部から直上して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外側回転ナギ。	乳灰褐色	1.0mm以下 の砂粒を多 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
89	同上	口 径 3.9		体部から外反気味に直上して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外側ナギ、内面滑ナギ。	淡灰色	1.0mm以下 の長石等の 砂粒を少量 含む。	良好	
90	同上	口 径 3.8		体部から上内方する内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側ナギ。	淡黃褐色	1.0mm以下 の長石等の 砂粒を少 量含む。	良好	
91	同上	口 径 4.0		体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側凹縦ナギ。	外 淡青褐色 内 淡灰褐色	1.0mm以下 の長石・石英・赤褐色 酸化鉄等の 砂粒を少 量含む。	良好	
92	同上	口 径 7.0		上外方へ内湾する体部から上内方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外側タタキ飛ナギ、内面ハナナギ、擦痕。	淡茶褐色	1.0mm以下 の赤褐色酸 化鉄・長石等 の砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。 二次焼成。
93	同上			体部から上外方へ伸びる口縁部に至る。端部・底部は欠損。 口縁部外側タタキ飛ナギ、内面滑ナギ。	外 淡青褐色 内 淡青褐色	2.0mm以下 の長石・石英等の砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。 二次焼成。
94	同上	口 径 4.2		体部から直上へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外側タタキ、内面滑ナギ、底部外側ナギ。	淡褐色	2.0mm以下 の長石・石英等の砂粒を少 量含む。	良好	

## 包含層

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
95	壺 (弥生式土器)	口 径 15.6		口縁部は上外方へ外反し、端部は上につまみ、外に曲をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ヘリマガキ、内面ナギ、口縁部内面剥離文。	淡青色	角閃石・長石・雲母等の砂粒を少 量含む。	良好	
97	同上	口 径 17.9		口縁部は外上方へ伸び、端部は垂下し、外に曲をもつ。内面には円形浮文が窓る。体部は欠損。 口縁部外側・端面彫刻状文、内面ヨコナギ。	灰褐色	角閃石・長石・雲母等の砂粒を少 量含む。	良好	
98	同上	口 径 19.2		口縁部は外上方へ伸び、端部は毛下し、外に曲をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナギ、端面彫刻状文。	暗茶灰色	3.0mm以下 の角閃石・ 石英・雲母等の砂粒を少 量含む。	良好	
99	同上	口 径 20.2		口縁部は上外方へ伸び、端部は上に延張し、外に曲をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナギ、端面彫刻状文。	暗茶灰色	3.0mm以下 の角閃石・ 石英・雲母等の砂粒を少 量含む。	良好	

遺物番号 同版番号	器種	法量 (cm)	口径 基高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成 備考
100	盃 (弥生式土器)	口 径 22.2		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は下に拡張し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、内面一部に爪状の痕跡、端面2段の縦状文・網突文。	淡灰茶色	3.0 mm以下 の角閃石・ 石英・雲母 長石等の砂粒 を少量含む。	良好
101	同上	口 径 23.5		口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は上方へ大きく拡張し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハラミガキ、内面ヨコナナ、端面2段の縦状文。	暗灰黄色	2.0 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好
102	同上	口 径 36.8		口縁部は上外方へ外反して伸びる。端部は垂下し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナナ、下位に2条の沈線とその間に5本の凹縫2段を有す。内外向掌滅の為不明。	外 黄灰褐色 内 青茶褐色	3.0 mm以下 の角閃石・ 長石・石英 等の砂粒を 少量含む。	良好
103	カップ型上器 (弥生式土器)	口 径 10.4		体部から上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至り、脚部付近で大きく内湾する。端部は上に面をもつ。体部外面に取手が付く。底部は欠損。 口縁部外面ハケナナ、内面ハケナナ後ヨコナナ、取手ナナ。	淡茶灰色	4.0 mm以下 の角閃石・ 長石・石英 等の砂粒を 少量含む。	良好
104	器台 (弥生式土器)	底 径 11.4		受部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。端部は上外方へつまみ上げ、外に面をもつ。 脚部外面7段以上の円形竹管文を有する。内面ナナ。端面ヨコナナ。	暗茶灰色	3.0 mm以下 の角閃石・ 長石・石英 等の砂粒を 少量含む。	良好
105	同上	底 径 18.4		受部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。端部は上外方へつまみ上げ、外に面をもつ。 脚部外面ナナ・4段の網突文が温る。内面ナナ。	茶灰色	3.0 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母 石英等の砂 粒を多量含む。	良好
106	高杯 (弥生式土器)	口 径 27.8		外上方へ内湾気味に伸びる杯体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外向掌滅の為不明。	淡黄灰色	3.0 mm以下 の長石・石 英等の砂粒 を少量含む。	良好
107	同上	底 径 14.2		杯部は欠損。脚部は上外方へ内湾して伸びる。端部は上外方へつまみ上げ、外に面をもつ。 脚部外面ナナ、内面ハラミ割り、端部ヨコナナ。		角閃石・長 石・雲母等 の砂粒を 少量含む。	良好
108	同上	底 径 14.2		杯部は欠損。脚部は中空の柱状部から屈曲し、下外方へ外反気味に伸びる。端部は上外方へつまみ上げ、外に面をもつ。 脚部外面ハラミガキ、内面ハラミナナ。下位ハケナナ、端部ヨコナナ。	灰茶褐色	角閃石・長 石・雲母 等の砂 粒を少量 含む。	良好
109	要 (弥生式土器)	口 径 15.1		上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外彎する面をもつ。体部中位以下は欠損。体部上位内面には一条の縦合掌がみられる。 口縁部内外面ヨコナナ、脚部外面に指頭痕、体部外面ハラミガキ、内外向掌滅の為不明。	淡灰褐色	3.0 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好
110	同上	口 径 14.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ短く外反して伸びる口縁部に至る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナナ、体部外面庫滅の為不明。内面ナナ。	暗茶灰色	3.5 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好

## III 恩智遺跡（第1次調査）

遺物番号 岡阪番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成備考	
111 (弥生式土器)	口 径 18.4 底 径 7.4	26.8	最大径は中位よりやや上にもつ体部から屈曲し、外上方へ近く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出気味の上7%。	暗灰褐色	3.0mm以下 の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好		
112	同上	11 径 22.6		口縁部は上方へ屈く伸びる。端部は下外方へ屈下し、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側ハラミガキ、内面ヘラナデ、中位指ナデ、底部ヨコナデ。	暗茶灰色	3.0mm以下 の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
113	同上	口 径 27.5		口縁部は上方へ外反して近く伸びる。端部は外に面をもつ。	暗茶灰色	4.5mm以下 の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
114	同上	口 径 31.6		上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して近く伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側面ナデ、内面ナデ。	淡灰茶色	角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
115	同上	口 径 38.8		上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上方へ外反して近く伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、端面斜文支、体部外側ナデ。	茶灰色	角閃石・長石・石英等の粗砂粒を少量含む。	良好	
116	同上	底 径 7.4		口縁部・体部は欠損。底部は突出気味の平底。 体部外側ハラミガキ、内面摩滅の為不明、底部外側ナデ、内面指ナデ。	暗褐色	4.0mm以下 の角閃石・雲母赤褐色磨化粒等の砂粒を少量含む。	良好	
117	同上	底 径 5.8		口縁部・体部は欠損。底部は突出する平底。 体部外側摩滅の為不明。内面ナデ。	淡茶灰色	3.5mm以下 の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
118	同上	底 径 6.0		口縁部・体部は欠損。底部は突出する浅いくぼみ底。 体部外側摩滅の為不明。内面ナデ。	暗灰茶色	3.0mm以下 の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
119 (土師器)	口 径 8.0		口縁部は上方へ外反気味に伸びる。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む。	良好		
120	同上	口 径 11.0		上内方する体部から屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は若干内方に肥厚する。 口縁部外側には凹縫4条が走る。底部内面に1本の横合指を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	外 茶色 内 淡茶色	長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	
121	同上	口 径 18.6		口縁部は上方へ伸び、端部は下外方へ若干垂下し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ハラミガキ。端面斜文 (6本)。	茶灰色	3.0mm以下 の角閃石・長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
122	同上	11 径 16.8		口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ。	外 淡茶色 内 暗茶色	長石・雲母等の粗砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 出版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
123 (上部器)	II 種	13.6		上内方する体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縫部に平ら。端部は丸い。体部は欠損。 口縫部内外面コロナダ後ハケナダ、体部内外面アカ。	外 新茶灰 色 内 淡茶灰色	石英・長石 雲母等の粘 砂粒を少量 含む。	良好	焼付質。
124	同上	口 票	18.0	口縫部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縫部内外面コロナダ後ハケナダ。	淡茶灰色	2.0 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好	
125	同上	口 径	19.6	口縫部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縫部内外面ハケナダ(6本)後ヨコナダ、内面ヨコナダ。	外 茶灰紫色 内 淡茶灰色	長石・雲母 石英等の微 砂粒を少量 含む。	良好	
126	同上	口 径	17.6	口縫部は上外方へ長く伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縫部内外面ハケナダ後ヨコナダ、内面ヨコナダ。	淡茶色	微砂粒を少 量含む。	良好	
127	同上	II 種	21.0	口縫部は上外方へ長く伸び後端部付近で、 上外方へ短く屈曲する。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ。他は内外面剥離の 為不明。	淡茶色	チャート・ 石英・赤褐色 酸化鉄等の 砂粒を少量 含む。	良好	
128	同上	口 票	25.4	口縫部は上外方へ伸び、端部は外につまり、 外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ。	淡茶灰色	2.0 mm以下 の長石・石 英・赤褐色 酸化鉄等の 砂粒を少量 含む。	良好	
129 (小型丸底器 (上部器))	II 種	8.2		上内方へ内凹して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 体部中位以下は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面ナダ、内 面ナダ、指痕斑。	淡灰褐色	2.0 mm以下 の長石・石 英・赤褐色 酸化鉄等の 砂粒を多 量含む。	良好	
130	同上	口 径	8.8	最大径を中位にもつ偏平な球形の体部から 屈曲し、上外方へ伸びる口縫部に至る。端部 は丸い。底部は丸底。 口縫部内外面コロナダ、体部外面上部ハケ ナダ、下位ナダ、内面上部ヘラ削り、下位指 痕斑。	淡茶灰色	2.0 mm以下 の長石・石 英・石英等の 砂粒を多 量含む。	良好	完形。
131	同上			最大径を中位よりややや上にもつ球形の体部 から屈曲し、上外方へ内凹気味に伸びる口縫 部に至る。端部は丸底。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面上部ハケ ナダ、下位ナダ、内面上部ヘラ削り、内面 ヨコナダ。	乳白色	赤褐色酸化 鉄等の微 砂粒を少量 含む。	良好	黒斑有。
132	同上	口 票	8.8	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 内凹気味に伸びる口縫部に至る。端部は丸い。 体部は欠損。 内外面剥離の 為不明。	淡茶色	1.5 mm以下 の長石・石 英等の砂粒 を多量含む。	良好	
133	同上	口 径	9.0	上内方へ内凹して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縫部に至る。端部は丸く尖 る。体部中位は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面ハケナダ 内面上部指痕斑、中位ヘラ削り。	茶色	2.0 mm以下 の長石・石 英等の砂粒 を多量含む。	良好	
134	同上	口 票	9.6	上内方へ内凹気味に伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内凹気味に伸びる口縫部に至る。端 部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縫部内外面ヨコナダ、体部外面トロナダ、 中位ハケナダ、内面ナダ。	茶灰色	石英・長石 雲母等の微 砂粒を少量 含む。	良好	

## III 恩智遺跡（第1次調査）

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成備考
135	小鋤丸底窓 (土師器)	口 径 10.2 器 高 8.7		最大径を中位よりやや下にもつ扁平な球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。窓部は丸い。底部は丸底。腹部内面には一束の縫合痕がみられる。 口縁部外面ハラミガキ、体部外面へ削り、内面ナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下 の長石・雲母・チャート・石英等 の砂粒を少量含む。	良好
136	鉢 (土師器)	口 径 12.0		半球形の体部から屈曲し、斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。窓部は鋸く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面削痕無、ナデ。	淡褐色	1.0 mm以下 の長石・雲母・赤褐色酸化鉄等の 砂粒を少量含む。	良好
137	同上	口 径 11.8		肩部に張りのある半球形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。窓部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面削痕無、ナデ。	淡茶灰色	2.5 mm以下 の長石・石英等の砂粒 を少量含む。	良好 媒付着。
138	杯 (土師器)	口 径 12.6		偏平な球形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。窓部は鋸く尖る。底部は丸底。 口縁部・体部外面ヨコナデ、底部体部外 面へラ前り、内面ナデ。	暗茶灰色	3.0 mm以下 の長石・雲母等の砂粒 を少量含む。	良好
139	甕 (土師器)	口 径 21.4		上内方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。窓部は丸い。底部は丸底。 体部中位以下は欠損。 内面ハケナデ(7本)。	淡茶灰色	長石・雲母等の 微砂粒を少量含む。	良好
140	同上	口 径 25.2		上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。窓部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ナデ。	暗茶灰色	2.0 mm以下 の角閃石・ 長石・雲母 石英等の砂 粒を少量含む。	良好
141	同上	口 径 33.0		上方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。窓部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラナ デ。	外 黒灰色 内 茶褐色	長石・雲母等の粗砂粒 を少量含む。	良好 媒付着。
142	高杯 (土師器)	口 径 17.6		窓部は欠損。杯体部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。窓部は丸い。 内面削離の為不明。	茶乳灰色	1.5 mm以下 の長石・雲母・赤褐色酸化鉄等の 砂粒を少量含む。	良好
143	同上	口 径 19.0		外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。窓部は外に 面をもつ。窓部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯部内外面ナデ。	淡褐色	2.5 mm以下 の長石・雲母・赤褐色酸化鉄等の 砂粒を少量含む。	良好
144	同上	口 径 14.4		杯底部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。窓部は丸い。窓部は欠損。 杯部外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下 の雲母・赤褐色酸化鉄等の 砂粒を多量含む。	良好
145	同上	口 径 18.4		杯底部から屈曲し、上外方へ伸びた後縁部付近で屈曲して外上方へ短く伸びる口縁部に 至る。窓部は鋸く尖る。窓部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部外面ナデ。	暗灰褐色	2.0 mm以下 の長石・石英等の 砂粒を多量含む。	良

遺物番号 部品番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土焼成	備考
146	高杯 (土瓶器)	口 径 20.6		杯底部・脚部は欠損。底部は杯底部から上 外方へ反対突出し伸びる口縁部に至る。縁部 は丸い。杯底部との腹面窓外側に縦をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ナデ。	外 暗茶灰色 内 淡茶灰色	石英・長石・良好 雲母等の細 砂粒を少量 含む。	
147	同上	口 径 17.6		杯底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部 に至る。縁部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヘラミガキ。	淡茶灰色	1.0 mm以下 の長石・雲 母等の砂粒 を少量含む。	良好
148	同上	口 径 26.6		口縁部は上方へ伸び、端部は丸い。杯底 筋・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	1.0 mm以下 の長石・チ タート・石 英等の砂粒 を少量含む。	良好
149	同上	口 径 19.4		口縁部は斜上方へ伸び、端部は丸い。杯底 筋・脚部は欠損。 口縁部内外面ヘラミガキ、口縁部外面ヨ コナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下 の長石・雲 母等の砂粒 を少量含む。	良好
150	同上	口 径 14.3 器高 12.4 底径 12.2		平底な杯底部から縦やかに屈曲し、上方へ 伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。脚部は 下方へ下る中間の柱状部から屈曲し、下方へ 聞く脚部に至る。縁部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部外部外側へ テラリ、内面ナデ。柱状部外面ヘラ削り後ナ デ、内面しづり目、縫合内外面ナデ。	淡茶灰色	4.0mm以下 の長石・雲 母等の砂粒 を多量含む。	良好
151	同上	口 径 15.6 器高 12.0 底径 11.3		149とはほぼ同形態で、縫合部の口縁部の内 側が器壁を減じ、強く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、杯底部外面ヘラ削 り、柱状部外面ヘラ削り後ナデ、内面しづり 目、縫合部内外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	2.0 mm以下 の石英・雲 母等の砂粒 を少量含む。	良好
152	同上	口 径 15.6		149とはほぼ同形態で、底部は欠損。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、杯底部外 面ヘラ削り、内面ナデ、柱状部外面ナデ、内 面しづり目、内面ナデ。	淡茶灰色	長石・雲母 等の細砂粒 を少量含む。	良好
153	同上	口 径 15.0		149とはほぼ同形態で、底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、杯底部ヘラ削り、 柱状部外面ヘラ削り後ナデ、内面しづり目、 ナデ。	淡茶灰色	4.0mm以下 の長石・赤 褐色等比色 等の砂粒を 多量含む。	良好
154	同上	口 径 16.4		149とはほぼ同形態で、底部は欠損。 杯底部内外面ナデ、杯底部外面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm以下 の赤褐色 化粧等・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好
155	同上	口 径 14.4		杯底部・脚部は欠損。杯底縁から斜上方へ 伸びる口縁部に至る。縁部は鈍く尖る。 内面剥離の為不明。	暗茶灰色	1.5mm以下 の赤褐色 化粧等・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好
156	同上	口 径 14.6		外上方へ伸びる杯底部から屈曲し、上方へ 伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。脚部は 欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、内面ナデ。杯底部 外面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm以上 の赤褐色 化粧等・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好
157	同上	口 径 14.8		平底な杯底から屈曲し、上方へ伸びる口 縁部に至る。縁部は丸い。脚部は欠損。 杯底部内外面ナデ。	淡茶灰色	石英・長石 ・雲母・赤 褐色化粧等 の細砂粒 を少量含む。	良好

遺物番号 図版番号	器種	法蓋 (cm)	口径 器高	形態・模様等の特徴	色調	胎土焼成備考
158	高杯 (土器器)	口 径 15.5		平坦な杯底部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部内外面ヨコナデ、内面ナダ。	外 淡茶灰 内 茶灰褐色	長石・雲母 石英等の細 砂粒を少量 含む。
159	同上	LJ 径 14.6		平坦な杯底部から傾やかに屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 杯部内外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハナ デ、杯底部外側ナダ。	淡茶灰色	2.0mm 以 下の長石・雲 母・石英等 の砂粒を少 量含む。
160	同上	口 径 15.4		杯底部・脚部は欠損。斜上方へ伸び、端部 は丸い。 口縁部外側ハケナデヨコナデ、内面ヨコ ナデ。	淡灰茶色	4.0mm 以 下の長石・雲 母・赤褐色 酸化鉄の砂 粒を少量含 む。
161	同上	底 径 11.6		杯部のLJ部部は欠損。丸い杯底部で、脚部 は下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、 外下方へ開く脚部に至る。端部は丸い。 口縁部内面ヨコナデ、杯底部外側へラ割 り、内面ナデ、柱状部外側へラ割り、内面し はり口、脚部外側ナデ。	淡灰褐色	2.0mm 以 下の長石・雲 母・赤褐色 酸化鉄の砂 粒を少量含 む。
162	同上	底 径 12.0		杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部 から屈曲し、外下方へ開く脚部に至る。端部 は丸い。 柱状部・脚部にはそれぞれ2条の接合線 がみられる。 柱状部内外面ナデ、脚部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	長石・赤褐色 酸化鉄等の微 砂粒を少量含 む。
163	同上	底 径 11.4		杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部 から屈曲し、外下方へ開く脚部に至る。端部 は丸い。 柱状部・脚部にはそれぞれ2条の接合線 がみられる。 柱状部内外面ナデ、脚部内外面ヨコナデ。	外 淡茶灰 内 茶灰褐色	長石・石英 等の細砂粒 を少量含む。
164	同上	底 径 8.2		杯部は欠損。脚部は近く下方へ伸び柱状部 から傾やかに屈曲し、下外方へ開く脚部に 至る。端部は外傾する圓をもつ。	褐灰茶色	2.5mm 以 下の角閃石・ 長石・雲母 等の砂粒を少 量含む。
165	毫 (土器器)	LJ 径 11.2		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 内窓気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方 へ屈曲し、内窓の圓をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコ ナデ、体部外側ナデ、内面ヘラ割り。	淡茶灰色	長石・雲母 赤褐色酸化 鉄の細砂粒 を少量含む。
166	同上	口 径 12.0		内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、 内窓する圓をもつ。体部は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部内面ヘラ割り。	淡茶灰色	2.0mm 以 下の長石・雲 母・石英等 の砂粒を少 量含む。
167	同上	LJ 径 12.0		上内方へ内窓して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内窓気味に伸びる口縁部に至る。端 部は内方に肥厚する。体部内窓以下は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部内面ヨコナデの為 不明。内面ヘラ割り。	淡茶灰色	長石・雲母 赤褐色酸化 鉄の細砂粒 を少量含む。
168	同上	口 径 12.2		LJ部部は下外方へ内窓気味に伸びる口縁部 に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、脚部内面ハケナ デ。	外 淡茶色 内 淡灰褐色	1.5mm 以 下の長石・雲 母・石英等 の砂粒を少 量含む。
169	同上	口 径 12.4		内上方へ内窓して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ内窓気味に伸びる口縁部に至る。端 部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内面ヨコナデ、体部内面ヘラ割り。	淡茶灰色	長石・雲母 等の細砂粒 を多量含む。

遺物番号 採取番号	器種	法量 (cm) 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
170	甕 (七神甕)	口 径 13.4	上内方へ内湧気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湧気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	淡灰茶色	長石・雲母 チャート・石英等の微砂粒を少量含む。	良好	薄付有。
171	同上	II 径 15.4	上内方へ内湧気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湧気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	淡褐色	3.0mm以下 の長石・雲母・赤褐色 酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	薄付有。
172	同上	口 径 13.2	上内方へ内湧気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内側する曲をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	暗灰褐色	長石・雲母・赤褐色酸化鉄の微砂粒を少量含む。	良好	
173	同上	口 径 14.0	口縁部は上外方へ内湧気味に伸び、端部は内方に肥厚する。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	淡灰茶色	石英・長石・雲母等の微砂粒を少量含む。	良好	黑斑有。
174	同上	口 径 14.0	口縁部は上外方へ内湧気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	淡灰茶色	雲母・赤褐色酸化鉄等の微砂粒を少量含む。	良好	
175	同上	II 径 14.8	上内方へ内湧して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湧気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面部ナデ、内面ヘラ削り。	淡褐色	2.0mm以下 の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
176	同上	口 径 14.2	口縁部は上外方へ内湧気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ。	淡灰茶色	2.0mm以下 の長石・雲母・赤褐色酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	
177	同上	口 径 15.6	上内方へ内湧気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湧気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外面部ハケナダ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	2.0mm以下 の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
178	同上	口 深 15.6	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湧気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部内面ヘラ削り。	淡灰茶色	長石・雲母・石英等の微砂粒を少量含む。	良好	黑斑有。
179	同上	口 径 16.2	口縁部は上外方へ内湧気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ。	暗灰茶色	2.0mm以下 の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
180	同上	口 径 13.4 器 高 18.8	球形の体部から屈曲し、上外方へ内湧気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。 口縁部内外面ヨコナダ。体部外面部ハケナダ(10本)、内面上部ヘラ削り、下位指ナダ。	淡灰茶色	3.0mm以下 の長石・雲母・石英等の砂粒を少量含む。	良好	薄付有。
181	同上	II 径 16.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面部ヨコナダ、内面ハケナダ、体部外面部タキ後ハケナダ、内面ヘラ削り。	淡褐色	2.0mm以下 の長石・石英・赤褐色酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 閃板番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・構造等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
182	甕 (土師器)	口 径 16.0		上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ナデ、内面ヘラ削り。	外 淡茶灰 色 内 淡灰茶 色	長石・雲母 赤褐色 鐵化粧の砂粒を少量含む。	良好	
183	同上	口 径 16.0		上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡赤灰色	1.0mm以下 の石英・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
184	同上	口 径 16.2		内上方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.5mm以下 の石英・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
185	同上	口 径 18.0		内上方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡褐色	1.5mm以下 の石英・長 石・雲母等 の砂粒を多 量含む。	良好	
186	同上	口 径 16.8		内上方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	長石・雲母 等の細砂粒を少 量含む。	良好	
187	同上	口 径 19.6		内上方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ハケナデ(5本)、内面指ナデ。	外 淡茶灰 色 内 淡茶灰 色	石英・長石・ 雲母等の細 砂粒を多 量含む。	良好	
188	同上	口 径 15.8		内上方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	茶灰色	2.0mm以下 の石英・雲 母・赤褐色 鐵化粧の砂 粒を少量含 む。	良好	
189	同上	II 横 12.2		口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	1.0mm以下 の長石・雲 母・赤褐色 鐵化粧の砂 粒を多量含 む。	良好	
190	同上	口 径 12.2		口縁部は上外方へ伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ヘラ削り。	淡灰茶色	2.0mm以下 の石英・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	煤付着。
191	同上	II 横 12.4		内上方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外表面ヨコナデの為不明。内面ヘラ削り。	暗茶灰色	1.5mm以下 の長石・雲 母・赤褐色 鐵化粧の砂 粒を少量含 む。	良好	
192	同上	II 横 13.2		口縁部は上外方へ内溝気味に伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	石英・長石・ 雲母等の細 砂粒を少量 含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
193	盃 (十脚盃)	口 径 13.2		口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、腹部は内方に膨張する。体部下位は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ。	黄茶灰色	長石・石英等の細粒を少量含む。	良好	
194	同上	口 径 14.2		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。腹部は内方に膨張する。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ、根ヨコナデ、内施指ナデ。	黄茶灰色	2.0mm以下 の石英・長石・雲母等の砂粒を多量含む。	良好	
195	同上	口 径 14.4		口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、腹部は内側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0mm以下 の石英・長石・雲母等の砂粒を多量含む。	良好	
196	同上	口 径 16.0		口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、腹部は内方に膨張する。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ。	淡褐色	2.0mm以下 の石英・長石・雲母等の砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。
197	同上	口 径 16.2		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。腹部は内方に膨張する。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0mm以下 の石英・長石・雲母等の砂粒を少 量含む。	良好	黒斑有。
198	同上	口 径 15.2		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。腹部は内側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面ヘラ削り。	外 内 灰褐色 暗灰褐色	4.0mm以下 の石英・長石・雲母等の砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。
199	同上	口 径 17.0		口縁部は上外方へ内湾気味に伸び、腹部は内方に膨張し、内側する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0mm以下 の石英・長石・雲母・赤褐色顔化 粒の砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。
200	同上	口 径 17.4		口縁部は上外方へ伸び、腹部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ。	外 内 茶褐色 灰茶褐色	石・雲母・石英等の微細 砂粒を少量含む。	良好	
201	同上	口 径 10.2		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。腹部は丸く尖る。 口縁部外外面ヨコナデ、体部外側ヨコナデ、内面ヘラ削り。	暗灰茶色	2.0mm以下 の石英・長石・雲母・赤褐色顔化 粒の砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。
202	同上	口 径 10.2		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。腹部は丸い。 口縁部外外面ヨコナデ、体部外側ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm以下 の長石・雲母・赤褐色顔化 粒の砂粒を少 量含む。	良好	
203	同上	口 径 10.8		内上方する体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。腹部は丸い。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ、体部外側ヨコナデ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2.0mm以下 の石英・長石・雲母・赤褐色顔化 粒の砂粒を少 量含む。	良好	
204	同上	口 径 14.8		上内方する体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。腹部は丸い。体部は欠損。 口縁部外外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	長石・雲母・赤褐色顔化 粒の砂粒を少 量含む。	良好	

## III 恩智遺跡 (第1次調査)

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 断面高	形態・構造等の特徴	色調	粘土	焼成	備考
205	甕 (土師器)	口 径 19.0		内上方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は口に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ。	淡茶灰色	2.0mm以下 の角閃石・長 石・雲母 石英等の砂粒を少 量含む。	良好	
206	同上	口 径 17.4		上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外側丁ケナデ(10本)。	淡茶灰色	長石・雲母 等の微砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。
207	同上	口 径 17.4		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ。	暗茶灰色	角閃石・雲 母等の細砂 粒を少 量含む。	良好	
208	同上	口 径 16.0		口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。口縁部外面の中央に円錐一条が進る。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ。	暗茶灰色	2.0mm以下 の角閃石・長 石・雲母 等の砂粒を少 量含む。	良好	
209	同上	口 径 20.6		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ。	淡茶灰色	3.0mm以下 の石英・長 石・雲母 等の砂粒を少 量含む。	良好	
210	同上	口 径 15.2		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2.0mm以下 の石英・長 石・雲母 等の砂粒を少 量含む。	良好	
211	同上	口 径 23.8		上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外側ハケナデ(12本)後ナデ、内面摩滅の為不明。	淡茶色	1.5mm以下 の石英・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良好	
212	同上	口 径 16.6		上内方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ、外側摩滅の為不明。	暗茶色	石英・雲母 等の細砂粒 を少量含む。	良好	
213	同上	口 径 27.6		上内方へ外反して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は若干つまみ上げ、外傾する面をもつ。体部中位以下は欠損。体部内面には2条の接合線がみられる。 口縁部外面ヨコナデ、体部外側タタキ、内面タタキ後ナデ。	淡茶灰色	2.0mm以下 の石英・長 石・雲母 等の砂粒を少 量含む。	良好	
214	同上	口 径 15.8		内上方へ内溝気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外側ナデ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	石英・雲母 長石等の細 砂粒を少量 含む。	良好	焼付着。
215	同上	口 径 14.4		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部はつまみ上げ、外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ。	暗茶灰色	3.0mm以上 の角閃石・長 石・雲母 等の砂粒を少 量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色 調	胎 土	焼成 度	備 考
216 (土師器)	口徑	16.2		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側ハナナダ後ナダ、内面ナダ。	淡茶灰色	2.0mm以下 の石英・石 英・赤褐色 酸化鉄の砂 粒を含む。	良好	
217 (土師器)	口徑	11.5	12.0	上外方へ外反して伸びた後屈曲し、上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ。	黄灰色	石英・長石 雲母等の微 砂粒を少量 含む。	良好	
218 同上	口徑	13.8		上外方へ外反して伸びた後屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ。	乳灰茶色	4.0mm以下 の石英・長石 等の砂粒 を少量含む。	良好	
219 同上	口徑	20.2		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ、体部外側ハナナダ、内面ヘラ削り。	黄灰色	石英・長石 等の微砂粒 を少量含む。	良好	
220 (土師器)	口徑	25.6		平坦な杯底部から屈曲し、上外方へ外反して伸びた後、端部付近で上外方へ屈曲して短く伸びる。端部は若干つまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 杯底部内外面ヨコナダ、杯底部外側ナダ。	淡茶灰色	赤褐色酸化 鉄・長石・ 等の微砂粒 を少量含む。	良好	
221 同上	口徑 基高 底 径	13.4 11.5 9.2		平らに近い杯底部から上外方へ内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。端部は外方へ伸びた中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く漏斗形に至る。 杯部内外面摩滅の為不明。柱状部ヘラ削り、内面ナダ、底部外側摩滅の為不明、内面ハケナダ。	黄茶色	3.0mm以下 の石英・長石 等の砂粒 を少量含む。	良好	
222 同上	口徑	13.8		平らに近い杯底部から内湾して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。端部は欠損。 杯部内外面ハケナダ、内面ヨコナダ、杯底部内面ナダ。	黄茶色	3.0mm以下 の長石・ 雲母等の砂 粒を少量含む。	良好	
223 同上	口徑	8.6		杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ伸びる端部に至る。端部は丸い。 柱状部外側ヘラ削り、内面ヒザリ目、端部体部外側ナダ、内面ナダ、指痕。	淡茶灰色	2.0mm以下 の石英・長石 ・雲母等の 赤褐色酸化 鉄の砂粒 を少量含む。	良好	煤付着。
224 同上	口徑	9.2		杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く漏斗に至る。端部は丸い。柱状部上位に1本の凹窓がある。窓部に二方の穿孔を有す。 杯底部内面ハケナダ、内面ヘラミガキ、放射状の縞々、柱状部外側ヘラ削り後ハケナダ、内面ナダ、端部外側ナダ、内面ハケナダ。	黄茶色	2.0mm以下 の石英・長石 ・雲母等の砂 粒を少量含む。	良好	
225 同上	底 径	11.4		杯部は欠損。下外方へ伸びる中空の柱状部から屈曲し、外下方へ開く漏斗に至る。端部は丸い。 柱状部内面ヘラ削り、内面ヘラ削りによるくりぬき、端部外側ナダ、内面ハケナダ。	茶褐色	石英・長石 等の細砂粒 を少量含む。	良好	
226 (土師器)	口徑	11.5	22.0	口縁部は上外方へ伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナダ後ヨコナダ、内面ヨコナダ。	淡褐色	微砂粒を少 量含む。	良好	
227 同上	口徑	20.4		I縁部は上外方へ伸び、端部は上に凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナダ。	淡褐色	2.0mm以下 の長石・雲 母等の砂 粒を少量含む。	良好	

## III 恶智遺跡(第1次調査)

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口徑 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
228	瓶 (土器)	口 径 26.4		口縁部は上方へ外反気味に伸び、端部は上に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナダ(7本)後ヨコナダ、内面ヨコナダ。	淡茶灰褐色	墨岩等の微砂粒を少量含む。	良好	
229	羽筆 (土器)	鉢 径 28.4		鉢は水平に伸び、端部はやや丸い。他は欠損。 外周ヨコナダ、内面ヘラナダ。	茶褐色	角閃石・長石・墨岩等の微砂粒を少量含む。	良好	
230	同上	鉢 径 29.4		鉢は水平に伸び、端部は丸い。他は欠損。 外周ヨコナダ、内面ヨコナダの為不明。	外 淡灰色 内 茶褐色	角閃石・長石・墨岩等の微砂粒を少量含む。	良好	
231	同上	鉢 径 32.4		鉢は水平に伸び、端部は丸い。他は欠損。 外周ヨコナダ、内面ヨコナダの為不明。	淡灰褐色	角閃石・長石・墨岩等の微砂粒を少量含む。	良好	
232	製塙土器	口 径 3.0		体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナダ。	乳白色	4.0mm以下 の石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
233	同上	口 径 3.0		体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナダ。	淡灰色	1.5mm以下 の赤褐色酸化鉄・チャート・石英・長石等の砂粒を少量含む。	良好	
234	同上	口 径 3.0		体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナダ。	外 赤茶褐色 内 淡茶褐色	2.0mm以下 の長石・チャート・石英等の赤褐色酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	
235	同上	口 径 3.1		体部から上内方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナダ。	淡灰色	3.0mm以下 の長石・チャート・石英・赤褐色酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	
236	同上	口 径 3.2		体部から上内方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナダ。	淡水茶色	2.5mm以下 の長石・チャート・石英・赤褐色酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	
237	同上	口 径 3.5		体部から上内方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナダ。	乳褐色	2.0mm以下 の赤褐色酸化鉄・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
238	同上	口 径 3.7		体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は丸く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナダ。	外 淡褐色 内 淡水茶色 - 淡褐色	1.5mm以下 の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	

遺物番号 国版番号	器種	法量 (cm)	口徑 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
239	製陶土器	口 径 3.8		体部から上内方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡灰褐色	5.0mm以下 の長石・チヤート・石英・赤褐色 酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	焼付窯。 一次焼成
240	同上	口 径 4.2		体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	淡茶褐色	1.0mm以下 の長石・雲母等の砂粒を少量含む。	良好	
241	同上	口 径 5.0		体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外 淡灰色 内 細灰褐色	2.0mm以下 の石英・長石・赤褐色 酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	
242	同上	口 径 5.8		体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	外 淡黄茶 色 内 非茶色	1.5mm以下 の長石・石英等の砂粒を少量含む。	良好	
243	同上	口 径 2.5		体部から直上へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部外回タキ、内面ナデ、体高内外面ナデ。	外 淡褐色 内 乳褐色	3.5mm以下 の長石・チヤート・石英・赤褐色 酸化鉄の砂粒を少量含む。	良好	
244	同上	口 径 3.8		体部から直上へ伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部外回タキ、内面ナデ。	乳灰色	1.0mm以下 の砂粒を少量含む。	良好	
245	杯蓋 (復元器)	口 径 12.8 器 高 5.2 天井部 径 2.3 つまみ 径 3.0 つまみ 高 0.9		丸い天井部から斜上方へ内溝して稜に至る。天井部中央には凹状のつまみが付く。後は純く尖る。上縁部は下外方へドリ、端部は内側する凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰褐色	3.0mm以下 の砂粒を少量含む。	良好	完形。 ロクロ右方 向。 底かぶり。
246	同上	口 径 10.8		丸底をもつ天井部から外下方へ内溝して稜に至る。稜は鋭く尖る。口縁部はわずかに外傾して下り、端部は凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転タケ。	淡青灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方 向。
247	同上	口 径 11.6		丸底をもつ天井部から斜上方へ内溝して稜に至る。稜は水平に鋭く尖る。口縁部はわずかに外傾して下り、端部は凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	4.0mm以下 の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ左方 向。
248	同上	口 径 12.3 天井部 高 2.2		やや平坦な天井部から外下方へ内溝気味に伸びる稜に至る。稜は鋭く尖る。口縁部は下方へ内溝気味に下り、端部は凹面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰褐色	2.0mm以下 の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。 自然釉。
249	同上	口 径 13.6		天井部から外下方へ内溝して稜に至る。稜は鋭く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は内側する面をもつ。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	暗灰褐色	2.0mm以下 の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。 自然釉。
250	同上	口 径 15.0		天井部から斜上方へ内溝気味に稜に至る。稜は鋭く尖る。端部は内側する面をもつ。天井部の一部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 灰褐色 内 底青色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方 向。

遺物番号 四重番号	器種	法量 (cc)	口徑 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成皮	備考
251	杯蓋 (須恵器)	口 径 14.4		天井部から外下方へ内湾気味に傾いてる。棱は鈍く尖る。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する面をもつ。天井部は欠損。	暗褐色	2.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	灰かぶり。
252	同上	口 径 15.8		天井部は欠損。外下方へ内湾気味に伸びて、棱は鈍く尖る。底は鋭く尖る。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する面をもつ。天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	粗砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
253	同上	口 径 15.4		天井部一部は欠損。天井部から外下方へ内 湾気味に伸びて、棱は鋭く尖る。底は鋭く尖る。口縁部は下外方へ下り、端部は内傾する面をもつ。天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡黒灰色	3.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
254	同上	口 径 17.2		丸味のある天井部から外下方へ後にして後に折る。棱は鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	5.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
255	同上	口 径 12.0		天井部は欠損。棱は底跡を有す。口縁部は下外方へ伸び、端部は丸い。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	粗砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
256	同上	口 径 12.6		天井部から外下方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。棱は認められない。端部は丸い。 天井部は欠損。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
257	同上	口 径 11.0 器高 3.7		平坦な天井部から外下方へ内湾気味に伸びる様に折る。棱は鈍く尖る。口縁部は下外方へ伸び、内傾する面をもつ。 天井部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 墓灰 内 青灰色	細砂粒を少 量含む。	良好	光形。 ロクロ右方 向。 自然難。
258	杯身 (須恵器)	口 径 10.0 立ち上がり高 1.7		底部は欠損。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは外反気味に上内方へ伸び、端部は浅い凹面をもつ。 内面回転ナデ。	暗灰色	1.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
259	同上	口 径 12.2		杯底部から斜上方へ内溝して受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内方へ直上し、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰色	3.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。 ヘラ記号を 有す。
260	同上	口 径 8.1 立ち上がり高 1.2		杯底部から斜上方へ内溝して受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは外反して直上し、端部は内傾する凹面をもつ。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	青灰色	粗砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
261	同上	口 径 10.2 器高 4.6 立ち上がり高 1.7		不規則で狭い杯底部から斜上方へ内溝して受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内溝して直上へ伸びる。端部は内傾する面をもつ。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	青灰色	5.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	
262	同上	口 径 10.6 器高 4.3 立ち上がり高 1.7		平坦な杯底部から斜上方へ内溝して受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍く尖る。立ち上がりは外反気味に直上し、端部は内傾する凹面をもつ。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	外 淡灰色 一灰色 内 青色	3.0 mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
263	同上	口 径 10.6 立ち上がり高 1.7		杯底部から斜上方へ内溝して受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。口縁部は外反気味に上内方へ伸び、端部は浅い凹面をもつ。 杯底部外面回転ヘラ削り、他は回転ナデ。	灰青色	粗砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	II径 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
264	杯身 (須志器)	II 径 11.5 立ち上がり高 1.8	11 径 11.5 立ち上がり高 1.4	杯底部から外上方へ内側して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鋸く尖る。 立ち上がりは内傾後直立して伸び、端部は内傾する面をもつ。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
265	同上	II 径 12.0 立ち上がり高 1.4	II 径 12.0 立ち上がり高 1.4	杯底部から斜上方へ内溝して伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。 立ち上がりは内傾後直立して伸び、端部は内傾する面をもつ。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	灰色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
266	同上	口 径 10.8 器 高 5.0 立ち上がり高 1.4	口 径 10.8 器 高 5.0 立ち上がり高 1.5	平坦な杯底部から斜上方へ内溝して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。 立ち上がりは内傾後直立して伸び、端部は純く尖る。杯底部は欠損。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	灰色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
267	同上	口 径 11.4 器 高 5.0 立ち上がり高 1.5	口 径 11.4 器 高 5.0 立ち上がり高 1.5	平坦な杯底部から斜上方へ内溝して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。 立ち上がりは内傾後直立して伸び、端部は丸い。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
268	同上	口 径 12.4 立ち上がり高 1.9	II 径 14.2 立ち上がり高 2.0	杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鋸く尖る。立ち上がりは内傾して伸びる。端部は丸い。杯底部は欠損。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	3.0mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
269	同上	II 径 14.2 立ち上がり高 2.0	II 径 14.2 立ち上がり高 1.5	杯底部から斜上方へ内溝して伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸びる。端部は丸い。杯底部は欠損。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	2.0mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
270	同上	口 径 9.0 立ち上がり高 1.1	口 径 9.0 立ち上がり高 1.1	杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは上方へ外傾して伸び、端部は内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	3.0mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
271	同上	II 径 10.0 立ち上がり高 1.5	II 径 10.0 立ち上がり高 1.5	杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は丸い。杯底部は欠損。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	3.0mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。 底かぶり。
272	同上	II 径 11.6 立ち上がり高 1.6	II 径 11.6 立ち上がり高 1.6	杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は丸い。杯底部は欠損。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	3.0mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
273	同上	口 径 11.9 器 高 5.3 立ち上がり高 1.8	口 径 11.9 器 高 5.3 立ち上がり高 1.8	丸味のある杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は丸い。杯底部は欠損。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	青灰色	2.5mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	完形。 ロクロ左方 向。
274	同上	口 径 12.0 立ち上がり高 1.4	口 径 12.0 立ち上がり高 1.4	杯底部から斜上方へ伸び、受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は丸い。杯底部は内傾する面をもつ。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	細砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
275	同上	口 径 12.0 立ち上がり高 1.7	口 径 12.0 立ち上がり高 1.7	杯底部から外上方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは外反気味に直上へ伸び、端部は内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外面回転へク割り、他は回転ナダ。	淡灰色	5.0mm以下 の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。

遺物番号 採取番号	器種	注意 (cm)	口徑 器高	形態・調整等の特徴	色調	粒上	焼成	備考
276	杯身 (頸忠器)	口 径 14.0 立ち上がり高 1.8		丸い杯底部から外上方へ内湾気味に伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は鋭く尖る。立ち上がりは内傾して伸び、端部は内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外側回転ヘア削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.0 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
277	同上	口 径 13.4 立ち上がり高 1.0		杯底部から上外方へ内湾気味に伸び、受部に至る。受部は上外方へ伸び、端部は丸い。 立ち上がりは内傾して伸び、端部は鋭く尖る。 杯底部は欠損。 杯底部外側回転ヘア削り、他は回転ナデ。	淡灰色	3.5 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
278	同上	口 径 14.2		杯底部から上外方へ伸び、受部に至る。受部は水平に伸び、端部は丸い。立ち上がりは内傾して伸び、端部はわずかに内傾する面をもつ。杯底部は欠損。 杯底部外側回転ヘア削り、他は回転ナデ。	淡灰色	2.0 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。
279	高杯 (頸忠器)	口 径 10.6		やや平らに近い杯底部から屈曲し、上外方へ伸びる。端部は丸い。脚部は下方へ伸び、脚部下位は欠損する。脚部には4方にスカシがある。杯部外面に凸線2本が溝り、その間に波状文(4本)1条を施す。 内外面回転ナデ。	暗灰色	密	良好	ロクロ左方 向。
280	同上	底 徑 9.2		杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して開き、端部は上にとまみ、外傾する面をもつ。脚部には3方に凹入スカシがある。 内外面回転ナデ。	青灰色	3.5 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
281	同上	底 徑 10.8		杯部は欠損。脚部は下外方へ外反気味に伸び、端部は下方へとまみ出す。脚部には4方に反方彫のスカシがある。 内外面回転ナデ。	灰色	稍良	良好	ロクロ右方 向。
282	同上	底 徑 11.6		杯部は欠損。脚部は下外方へ伸び、端部は外方に肥厚する。 内外面回転ナデ。	外 灰 色  内 白 色	稍良	良好	ロクロ右方 向。 自然釉。
283	同上	底 徑 12.6		杯部は欠損。脚部は斜上方へ外反して伸び、端部は内傾する面をもつ。 脚部外側には凸線2条が溝り、端部は丸い。 内外面回転ナデ。	灰色	稍良	良好	ロクロ右方 向。
284	壺 (頸忠器)	口 径 11.8		口縁部は上外方へ伸びた後屈曲し、斜上方へ伸びる。縁部は内傾する面をもつ。口縁部外面の中央に波状文(12本)1条を施す。体部は欠損。 内外面回転ナデ。	暗灰色	2.5 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ左方 向。 自然釉。
285	同上	口 径 13.6		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上外方へとまみ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ハケナデ後回転ナデ、内面回転ナデ。	淡灰色	2.0 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
286	同上	口 径 14.0		内上方へ内湾気味に伸びる体部から屈曲し、上方へ伸びる。口縁部に至る。端部は上に面をもつ。底部は欠損。体部外側の上位には取手が付く。取手は欠損。 口縁部内外面回転ナデ、体部外側タタキ・ 回転ナデ、中位に回転カキ目、内面タタキ後 ナデ。	灰青色	粗砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。 自然釉。
287	同上	口 径 16.8		口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は肥 厚する。体部は欠損。 口縁部外側ハケナデ後回転ナデ、内面回転 ナデ。	淡灰色	2.0 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。
288	同上	口 径 19.4		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は 上下に肥厚し、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側回転カキ目、内面回転ナデ。	青灰褐色	2.0 mm以下の砂粒を少 量含む。	良好	ロクロ右方 向。

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
289	壺 (須恵器)	11	径 19.2	体部から脇曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚し、外に凸面をもつ。体部は欠損。 回転ナデ。	灰色	1.5 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
290	同上	口 径	20.2	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上下に肥厚し、外に凸面をもつ。体部は欠損。 回転ナデ。	淡灰色	2.0 mm以下の砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
291	同上	口 径	19.6	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は下方に肥厚し、外に凸面をもつ。外圍に2条の凸筋が盛り、その上下に波状文を施す。上は4本、下は6本で各一条。 回転ナデ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む。	良好	自然釉。
292	同上	口 径	26.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は外方に丸く肥厚する。体部は欠損。 回転ナデ。	新灰黒色	微砂粒を少量含む。	良好	ロクロ右方向。 自然釉。
293	壺 (瓦器)	口 径	14.0	口縁部は斜上方へ内湾して伸び、端部は器壁を減じる。底部は欠損。 口縁端部内外面ヨコナデ、杯部ヘラミガキ。	暗灰色	稍良	良好	

### 第3章 まとめ

今回の調査は、恩智遺跡の北西部に位置し、既往調査である恩智川河川改修工事に伴う発掘調査の調査地（区割のNW46～NW48地区）に近隣するが、この調査で検出した遺構と承継するものは検出しなかった。遺構面は標高8.2～8.4mを測る第11層上面で、古墳時代前期（布留式古相）と古墳時代中期の遺構が一部（東部）を除いては同一面で検出している。これは第10層（古墳時代前期の包含層）が第9層（古墳時代中期の包含層）に削平され、重複するような形で検出した。また北西隅で検出したS P 1には柱根が遺存しており、住居に伴うものと思われ、調査区の北西側に住居地域の存在が想定できよう。

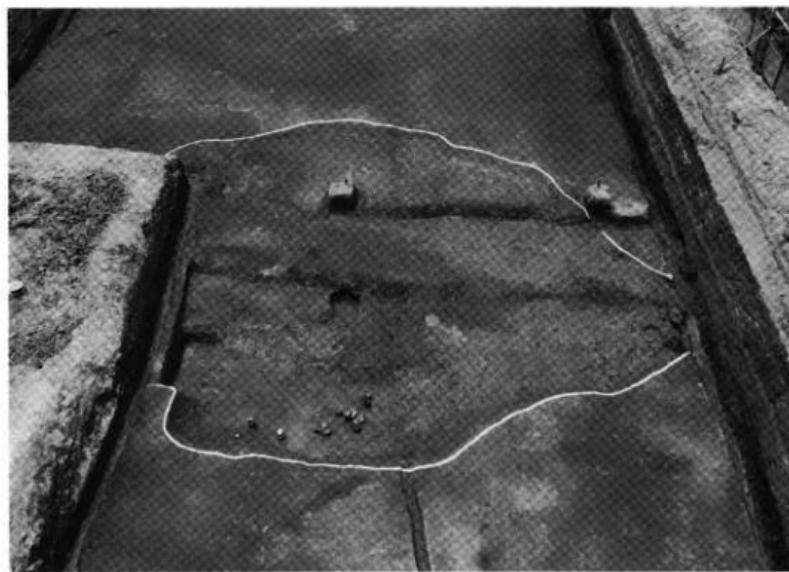
今回の調査区で検出した古墳時代中期の遺構は、恩智遺跡内で実施されている既往調査では遺物の出土が若干みられるものの、遺構の検出例としてはなく、今回の調査がはじめてである。今後、周辺の調査が進に従い明らかにされるであろうと期待する。

さらに、第4層は中世の時期の氾濫で堆積した細砂層であるが、この層内には弥生時代中期の遺物を中心としたものが多量に含まれていた。これらの遺物は、調査区南部にあたる既往調査では多量に出土しており、中世の時代の大きな氾濫により弥生時代中期の遺跡の一部が削平されたものであろう。

# 図 版



調査区全景(東から)



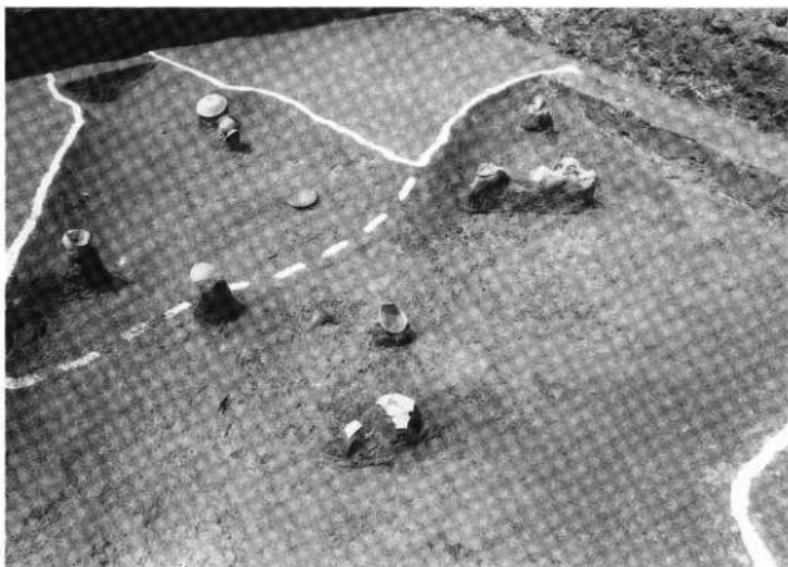
SK1 (東から)



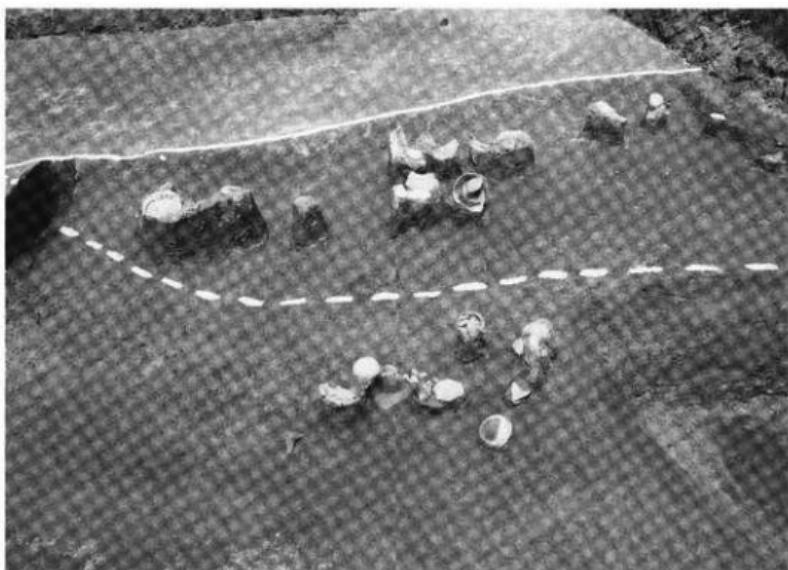
SK1検出遺物



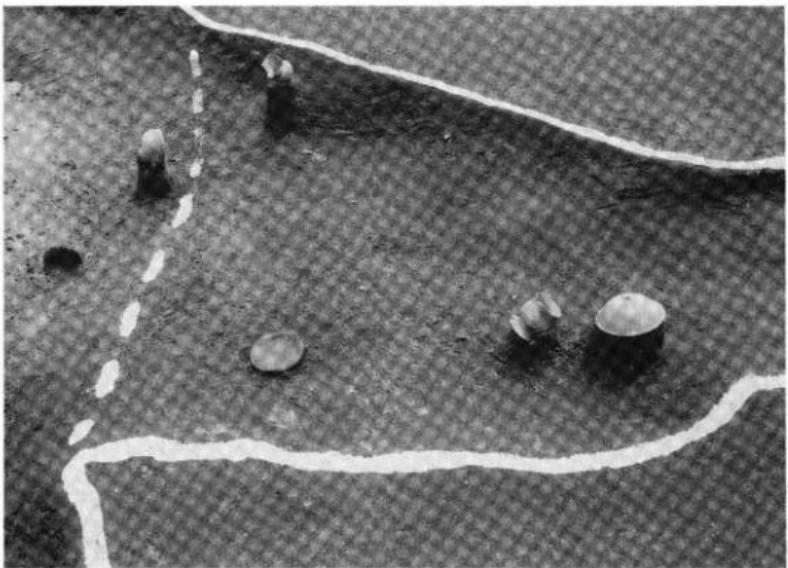
SD1・SD2 (北から)



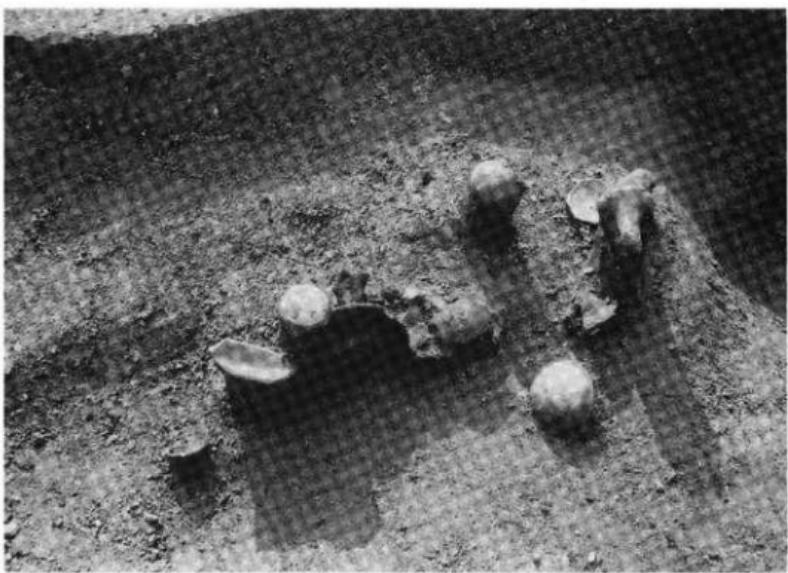
SD1 (北東から)



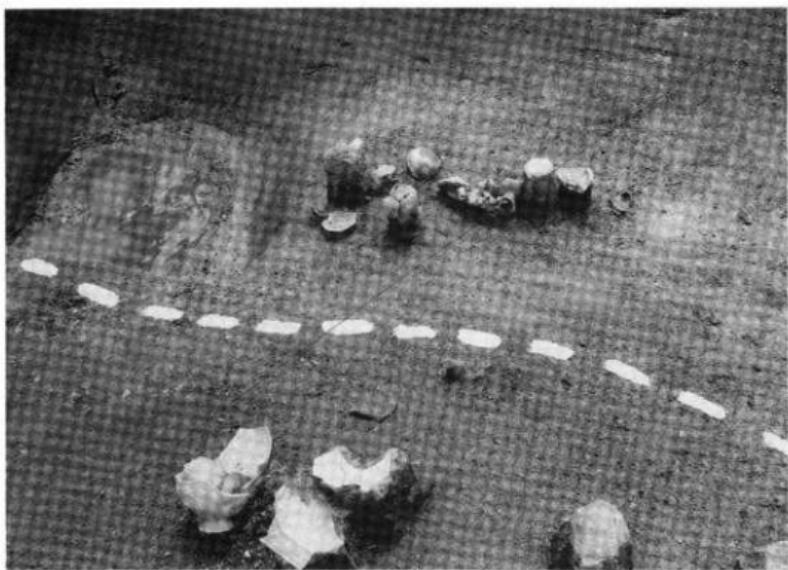
SD1 (東から)



SD1 (西から)



SD2 (東から)



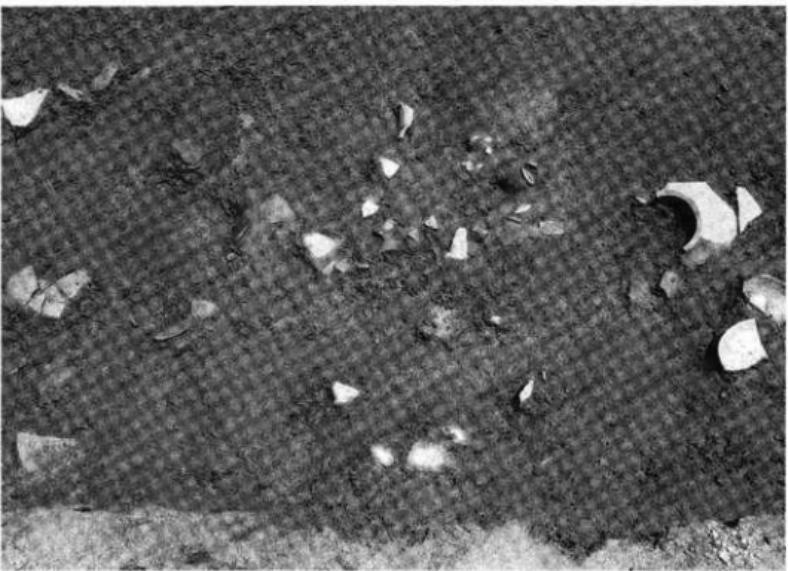
SD2 (西から)



SD2 (南より)

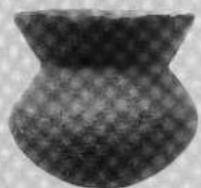


SD2 (南から)



土器出土状況(東から)

図版七 出土遺物



2



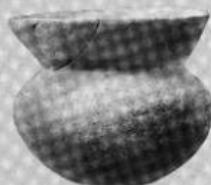
7



3



8



4



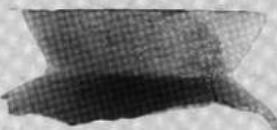
10



5



11



12

SK1

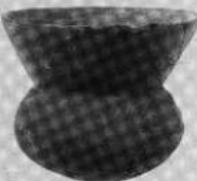
圖版八  
出土遺物



27



31



30



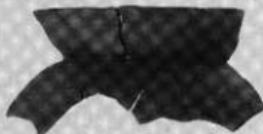
41



44



43

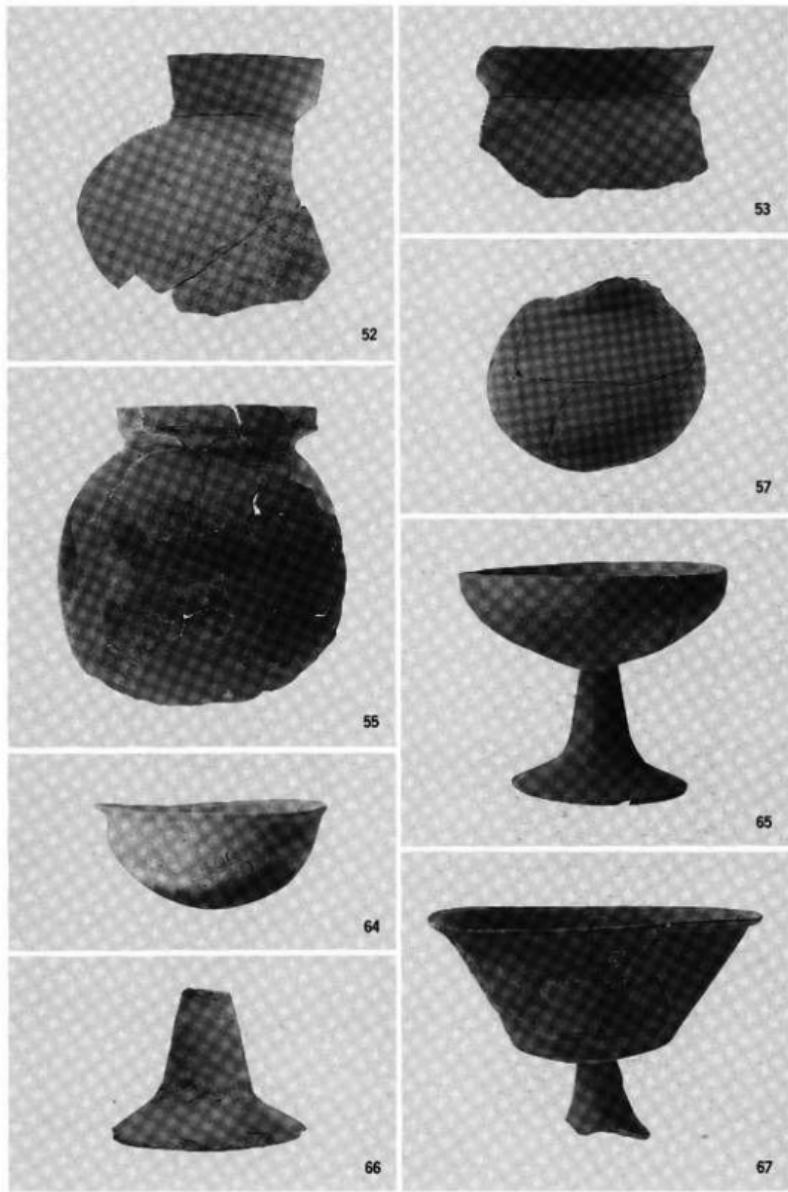


45

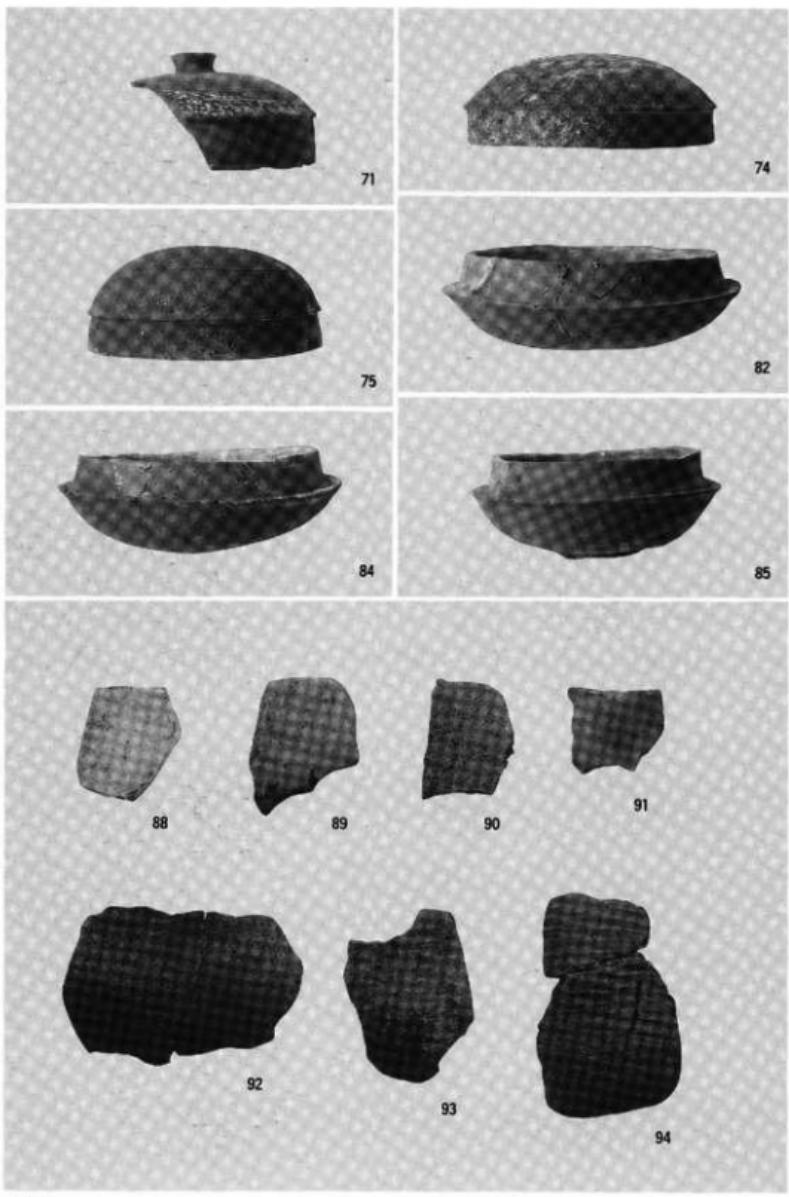


48

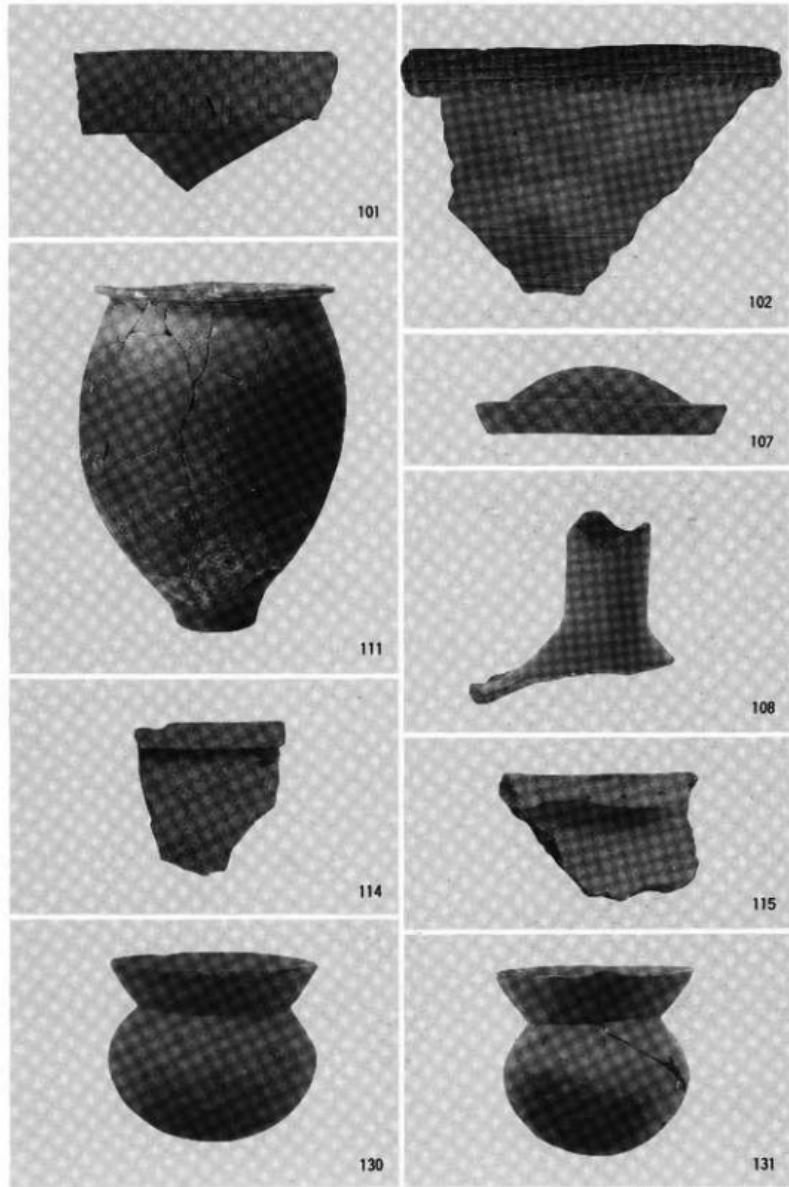
SD1



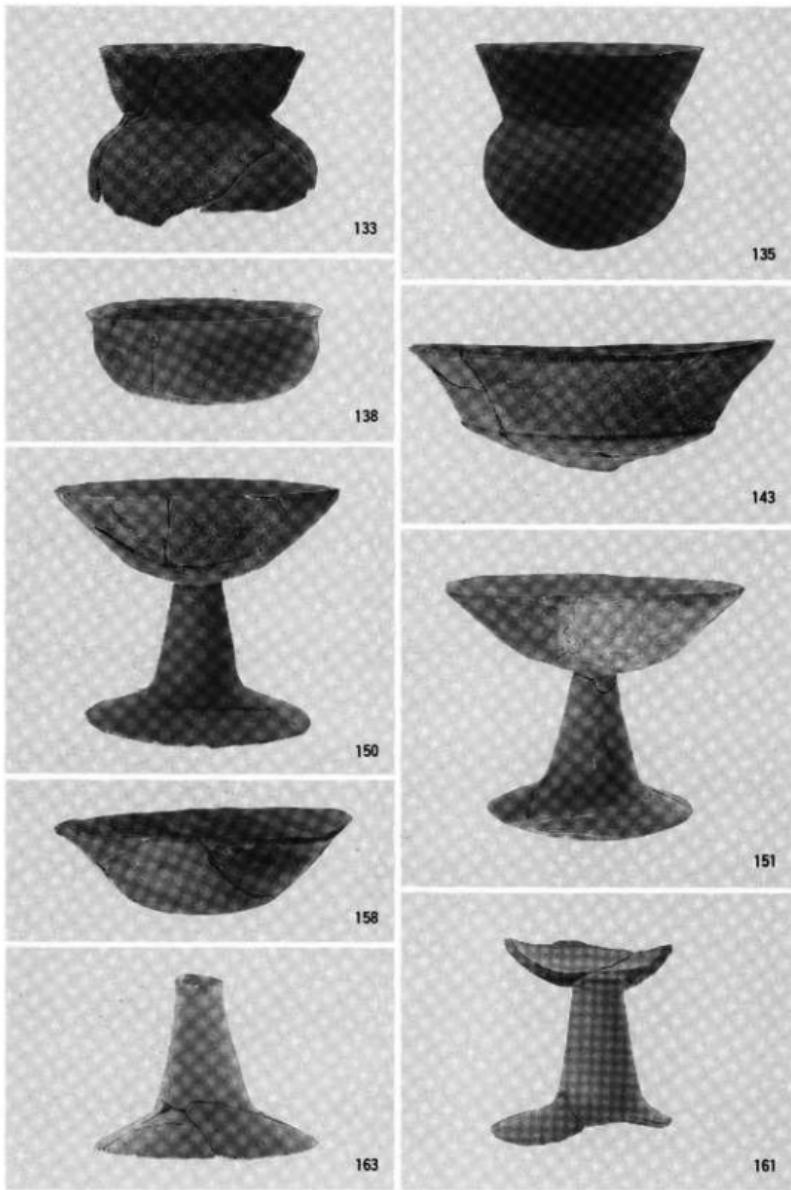
SD1 52・53・55  
SD2 57・64～67



図版一 出土遺物



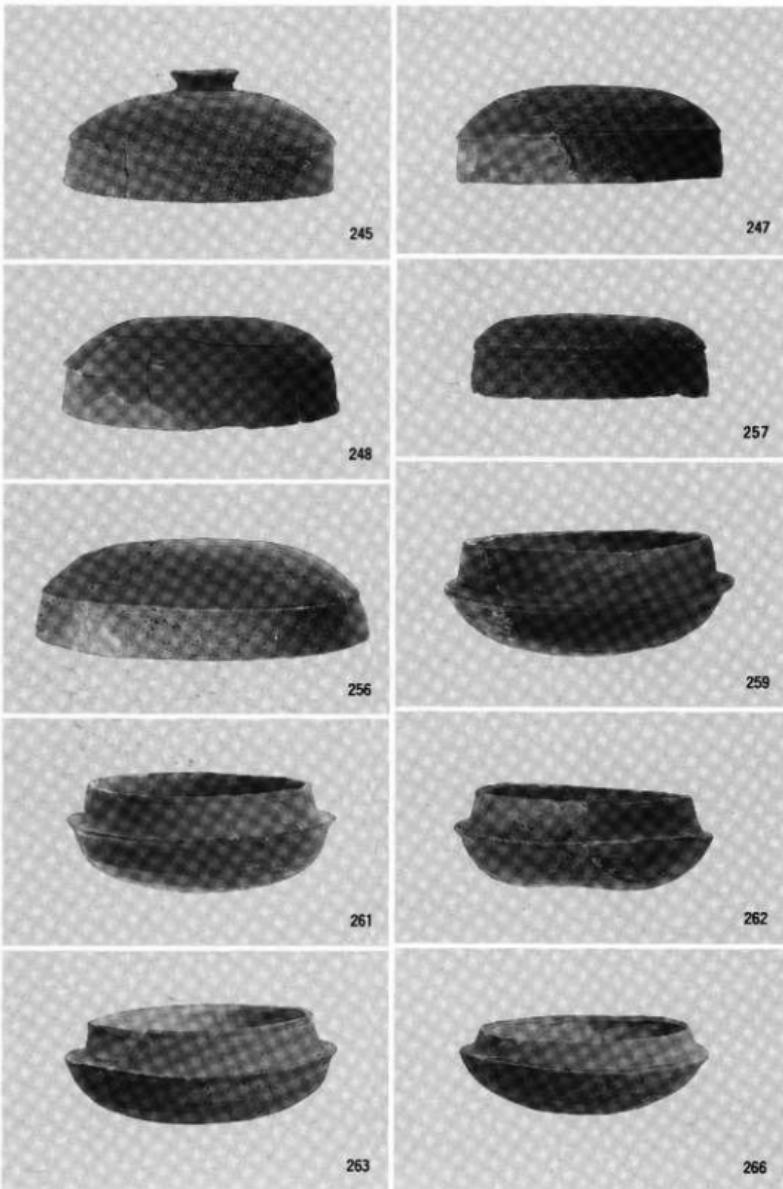
造構に伴わない出土遺物



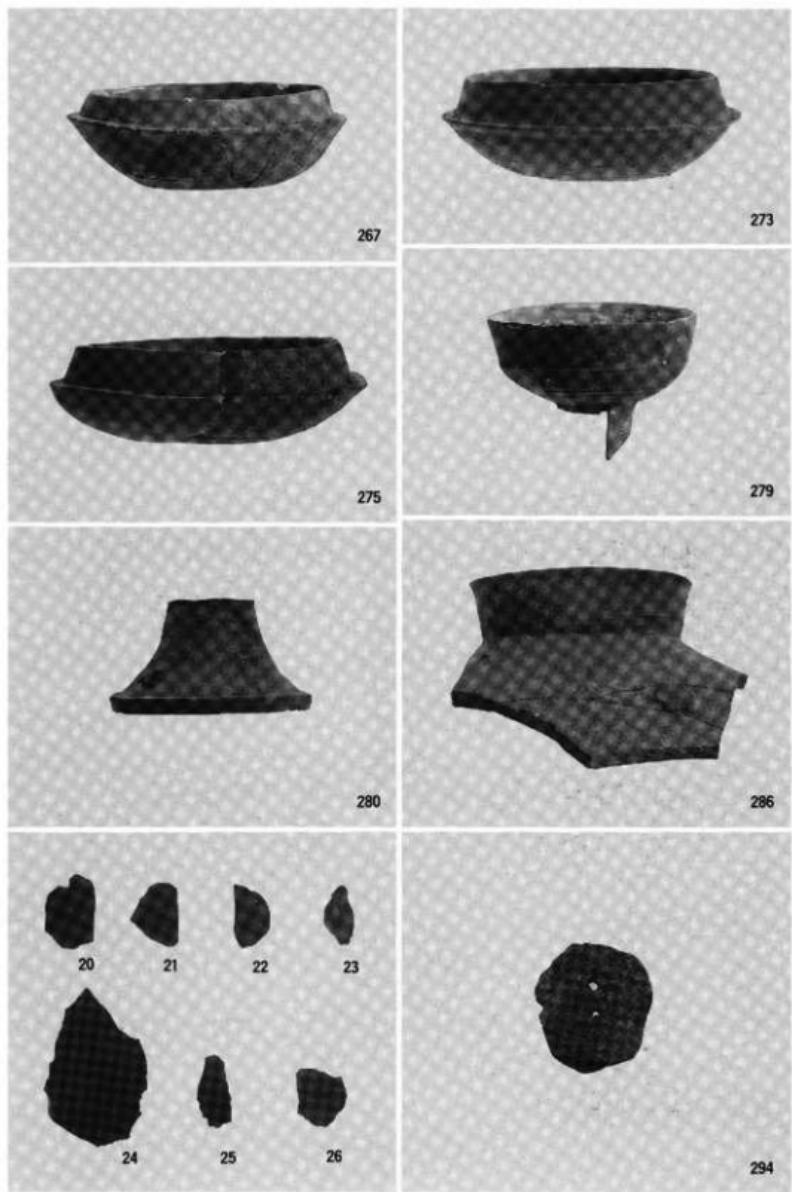
遺構に伴わない出土遺物



造柄に伴わない出土遺物



造様に伴わない出土遺物



造構に伴わない出土遺物

図版一六 出土遺物



295



296



297



298



299



300

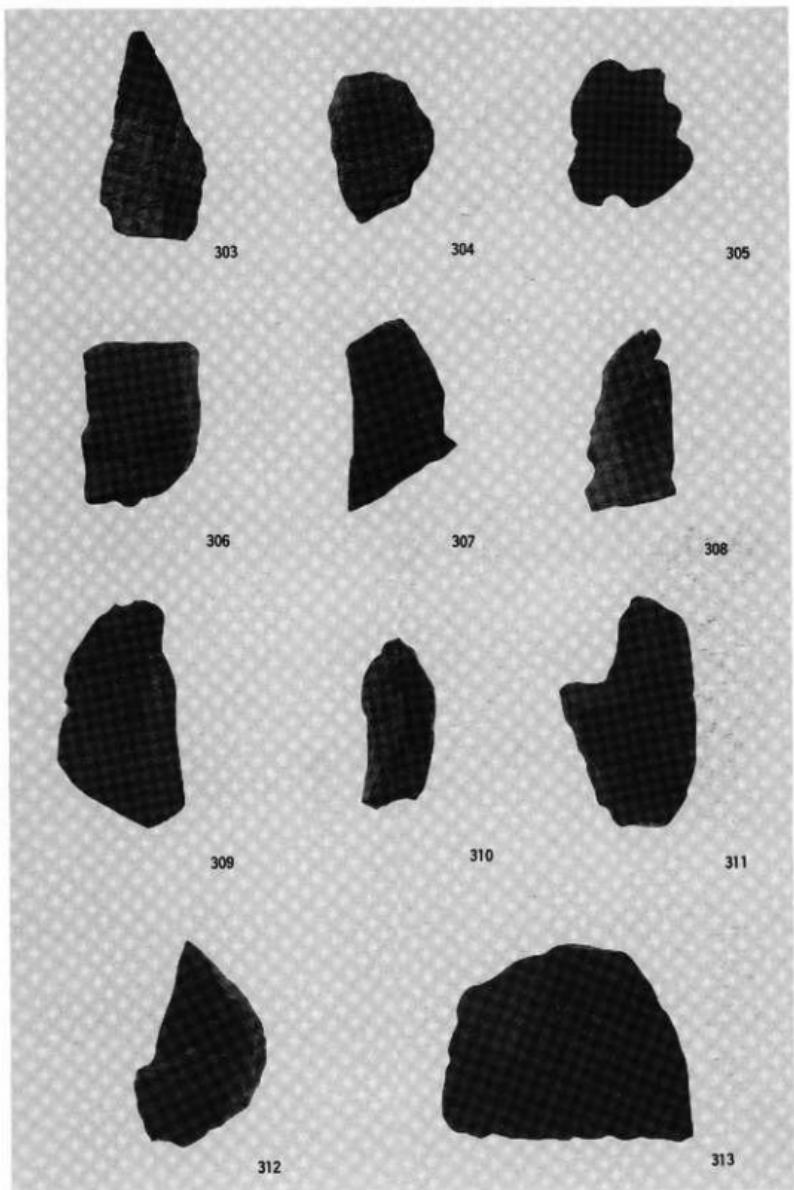


301

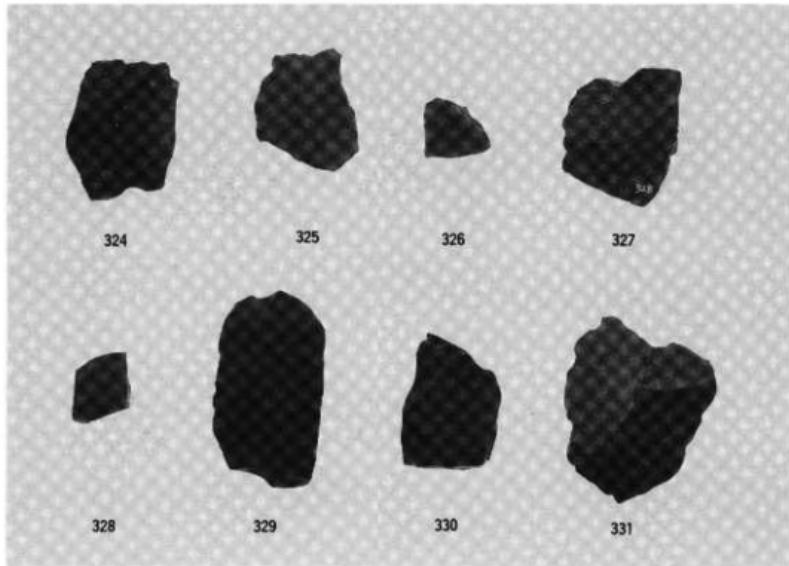
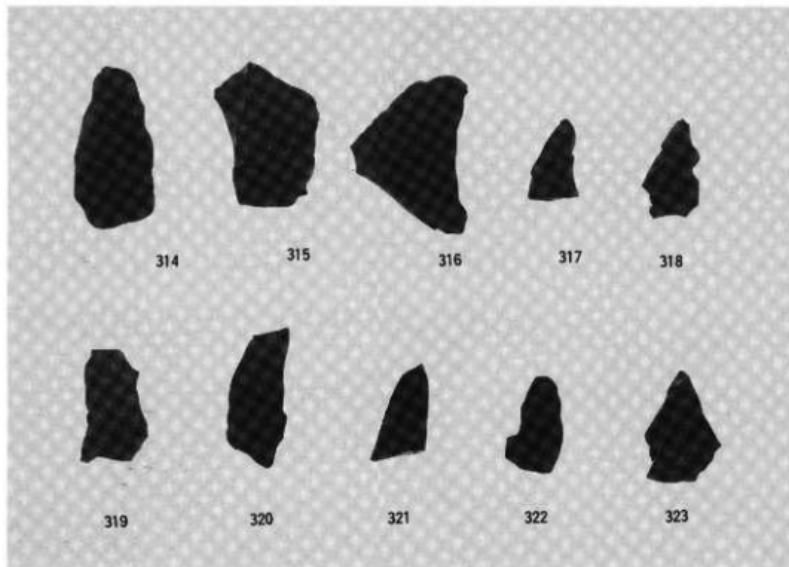


302

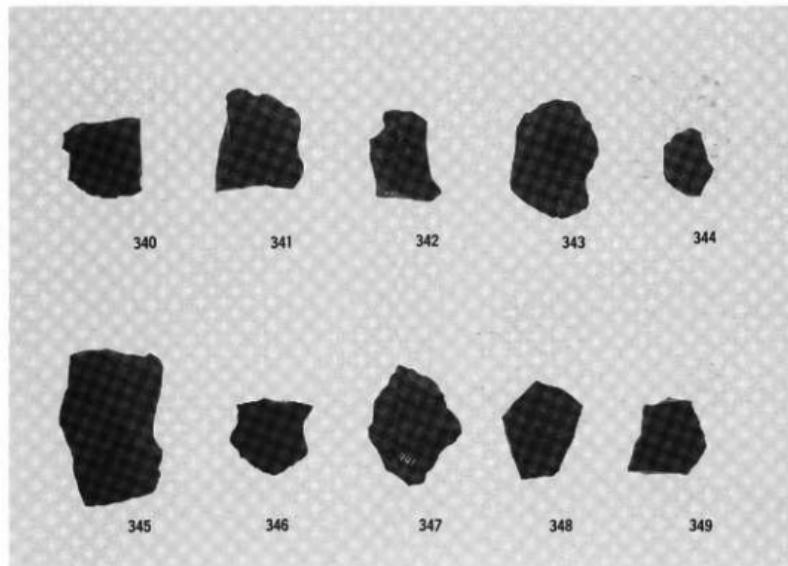
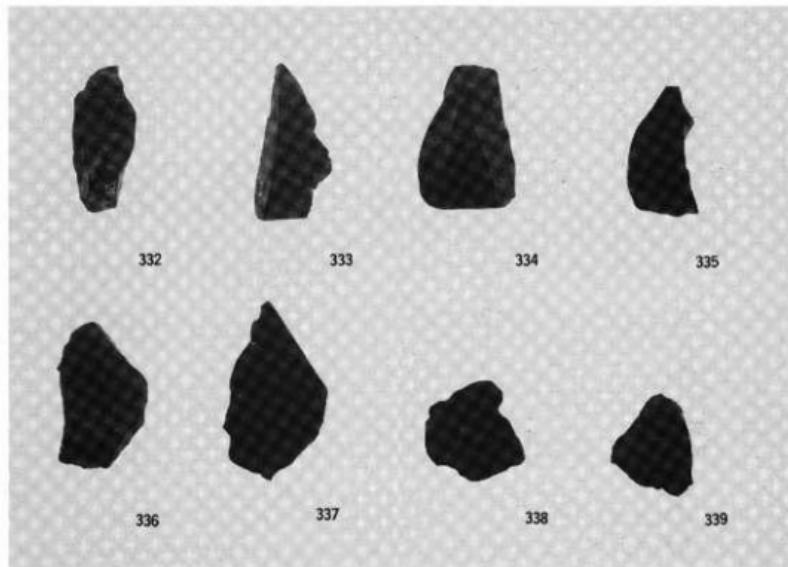
造模に伴わない出土遺物



遺構に伴わない出土遺物



遺構に伴わない出土遺物



造様に伴わない出土遺物

(財)八尾市文化財調査研究会報告 23

I 水越遺跡(第1次調査)

II 竹瀬遺跡(第1次調査)

III 恩智遺跡(第1次調査)

発行 平成元年9月

編集 財團法人 八尾市文化財調査研究会

〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号

TEL (0729)94-4700

印刷 近畿印刷センター

〒582 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号

TEL (0729)72-5918

表紙 レザック66 〈260 kg〉

本文 書籍用紙 〈70 kg〉

図版 マットアート 〈135 kg〉

